静岡県の
授業づくり指針

外国語/外国語活動

平成２４年３月

静岡県教育委員会

はじめに

静岡県教育委員会では，各学校における授業力向上を支援するため，県内の子どもの実態を踏まえて，平成 20 年３月に告示された学習指導要領の内容を具体化した「静岡県の授業づくり指針」を作成いたしました。

これは，平成 17 年１月に刊行された「静岡県版カリキュラム」の増補改訂版であり，それまでの５教科（国語，社会，算数/数学，理科，外国語）に体育/保健体育，音楽，図画工作/美術，家庭/技術・家庭の４教科を加えた９教科において，静岡県の子どもたちに身に付けさせたい学習内容等を具体的にまとめたものです。

今回の増補改訂に当たり，これまで親しまれてきた「静岡県版カリキュラム」の名称を，「静岡県の授業づくり指針」に改めることにいたしました。これは，「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりの「指針」として，その内容を明確に表すためです。

「静岡県の授業づくり指針」は，平成 20 年３月に告示された学習指導要領に基づき，小・中・高等学校で扱う学習内容を体系的・系統的に捉えた上で，小学校・中学校の９年間で習得すべき内容を明確にすることを中心に，「確実に身に付けさせたい内容」や「発展的な学習の内容例」，さらに「『静岡県ならでは』を生かした内容」等で構成しています。

今，各学校では，授業改善の取組を推進する中で，基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに，各教科等の知識・技能を活用する学習活動の充実が一層求められています。そのような活動においては，課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等に加え，これらの能力の基盤となる言語能力を育成することが重要であり，校内研修などを通して授業の質を高めるための更なる工夫が求められています。

各学校において，この「静岡県の授業づくり指針」をよりどころとし，子どもの学習の実態に即したカリキュラムの編成や実施に全教職員が一丸となって取り組むことにより，静岡県における授業が高い水準に達し，「確かな学力」が育成されることを願っています。

「静岡県の授業づくり指針」は，作成委員の皆様の多大な御協力を得て作成されました。御指導・御支援いただいた委員の皆様の御尽力に，心から感謝申し上げます。

平成 24 年３月

静岡県教育委員会　教育長　安　倍　徹

目　次

第1章 「静岡県の授業づくり指針」の活用に当たって

1 作成の経緯 …… 2
2 学習指導要領の改訂 …… 3
3 「静岡県の授業づくり指針」の構成 …… 5

第2章 これからの外国語教育

1 外国語教育と「生きる力」 …… 8
2 求められる校種間の連携 …… 10

第3章 小学校外国語活動

1 静岡県が小学校外国語活動で目指すもの …… 13
2 授業づくりに当たって …… 19
3 クラスルーム・イングリッシュ …… 29
4 カリキュラム開発 …… 32

第4章 中学校外国語科（英語）

1 静岡県が中学校外国語科（英語）で目指すもの …… 36
2 授業づくりに当たって …… 40
3 高等学校外国語科へのつながり …… 66

補足資料

1 小学校外国語活動：英語ノートの活用例 …… 74
2 小学校外国語活動：身近な事柄を題材とした活動例 …… 77
3 英語ノートと中学校学習指導要領との関連 …… 88
4 中学校外国語科(英語)：4領域の1つに重点を置いた単元計画例 …… 92
5 中学校外国語科(英語)：評価規準に盛り込むべき事項 …… 100
6 授業づくり規準（外国語科） …… 102

あとがき 「生きる力」以上を目指して …… 104

第１章

「静岡県の授業づくり指針」の
活用に当たって

１　作成の経緯

県教育委員会では，平成15年度に，有馬朗人元文部大臣に座長をお願いして，「確かな学力」育成会議を発足させました。育成会議では，平成16年３月に「確かな学力」を「基礎・基本」と「自ら学び自ら考える力」の両者を指すものと定義付け，この両者をバランスよく培っていくための具体策を提言しています。知識・技能と思考力・判断力・表現力や学ぶ意欲等を総合的かつ全体的にバランスよく身に付けさせ，子どもたちの学力の質を高めていくということが重視されてきました。

「静岡県版カリキュラム」は，このような学力観に立ち，「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりを支援するために作成されました。平成16年度末に，公立の小学校，中学校の教員に配布され，各学校の授業計画作成等のよりどころとなってきました。

平成20年３月に，小学校，中学校の新しい学習指導要領が告示されたことに伴い，既存の「静岡県版カリキュラム」(国語，社会，算数/数学，理科，外国語)を改訂するとともに，新たに体育/保健体育，音楽，図画工作/美術，家庭/技術・家庭の４教科について作成することとしました。また，名称については，編集内容が本県における「確かな学力」の育成に向けた魅力ある授業づくりの「指針」を示したものであることから，「静岡県の授業づくり指針」と改めることとしました。

２　学習指導要領の改訂

平成18年12月に教育基本法が改正され，それに伴い学校教育法等が改正されました。このような教育の根本に遡った法改正を踏まえ，新しい学習指導要領は改訂されました。「小学校学習指導要領解説　総則編（平成20年8月）文部科学省」において，以下のように「改訂の基本方針」が示されています。（下線部分は，「中学校学習指導要領解説　総則編（平成20年8月）文部科学省」と異なるもので，【　　】内に「中学校学習指導要領解説　総則編」の記述内容を示しています。）

①　教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。

平成８年７月の中央教育審議会答申（「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」）は，変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は，基礎・基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力，自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性，たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」であると提言した。今回の改訂においては，生きる力という理念は，知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから，これを継承し，生きる力を支える確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和のとれた育成を重視している。

このため，総則の「教育課程編成の一般方針」として，引き続き「各学校において，児童【生徒】に生きる力をはぐくむことを目指」すこととし，児童【生徒】の発達の段階を考慮しつつ，知・徳・体の調和のとれた育成を重視することが示された。

また，教育基本法改正により，教育の理念として，新たに，公共の精神を尊ぶこと，環境の保全に寄与すること，伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに，他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与することが規定されたことなどを踏まえ，内容の充実を行った。

②　知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

確かな学力を育成するためには，基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要であり，これらのバランスを重視する必要がある。

このため，各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視するとともに，観察・実験やレポートの作成，論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実すること，さらに総合的な学習の時間を中心として行われる，教科等の枠を超えた横断的・総合的な課題について各教科等で習得した知識・技能を相互に関連付けながら解決するといった探究活動の質的な充実を図ることなどにより思考力・判断力・表現力等を育成することとしている。また，これらの学習を通じて，その基盤となるのは言語に関する能力であり，国語科のみならず，各教科等においてその育成を重視している。さらに，学習意欲を向上させ，主体的に学習に取り組む態度を養うとともに，家庭との連携を図りながら，学習習慣を確立することを重視している。

以上のような観点から，国語，社会，算数及び理科の授業時数を増加するとともに，高学年に外

国語活動を新設した。【国語，社会，数学，理科及び外国語の授業時数を増加した。】

③　道徳教育や体育などの充実により，豊かな心や健やかな体を育成すること。

豊かな心や健やかな体を育成することについては，家庭や地域の実態（教育力の低下）を踏まえ，学校における道徳教育や体育などの充実を重視している。

このため，道徳教育については，道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであることを明確化した上で，発達の段階に応じた指導内容の重点化や体験活動の推進，道徳教育推進教師（道徳教育の推進を主に担当する教師）を中心に全教師が協力して道徳教育を展開することの明確化，先人の伝記，自然，伝統と文化，スポーツなど児童【生徒】が感動を覚える教材の開発と活用などにより充実することを示している。また，体育については，児童が自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け，心身を鍛えることができるようにすることが大切であることから，低・中学年において授業時数を増加し，【３学年を通じて保健体育の授業時数を増加し，】生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことと体力の向上に関する指導の充実を図るとともに，心身の健康の保持増進に関する指導に加え，学校における食育の推進や安全に関する指導を総則に新たに規定するなどの改善を行った。

３　「静岡県の授業づくり指針」の構成

「静岡県の授業づくり指針」は，静岡県の子どもの実態を踏まえ，新しい学習指導要領を具体化し，各学校における授業づくりや授業力向上を支援するものです。また，「静岡県版カリキュラム」の基本的構成を継承しています。小学校，中学校，高等学校で扱う学習内容を体系的・系統的に捉え，９年間で子どもたちが習得すべき内容を明確にし，主に以下の四つの内容で構成しました。

(1) 確実に身に付けさせたい内容
(2) 発展的な学習の内容例
(3)「静岡県ならでは」を生かした内容
(4) 小学校，中学校，高等学校の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料

(1)「確実に身に付けさせたい内容」について

学習指導要領及びその解説を基に，学習指導要領の各教科の「目標」や「内容」を具体化したり明確化したりすることにより，全ての子どもに対して確実に身に付けさせたい内容をまとめました。そのために「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむ」ことを重視しました。

また，各教科の特性に合わせて，学習指導要領の「内容」の中心となる要素を示したり，上級学年とのつながりを明示したりするなど，指導のポイントが分かるようにしました。

【各学校で活用する際の留意点】

ここに示した内容が子どもたちに確実に身に付くよう，年間指導計画の作成や授業の工夫改善に努めてください。

(2)「発展的な学習の内容例」について

学習指導要領では，個に応じた指導を充実する観点から，子どもの学習状況などその実態等に応じて，学習指導要領に示していない内容を加えて指導することも可能であることを示しています。

ここでは，各学校の参考となるように発展的な学習の内容としてふさわしいと考えられるものを例示しました。

【各学校で活用する際の留意点】

この内容は例として示したものです。一人一人の子どもや学校の実態に合わせて活用してください。また，発展的な学習の指導に当たっては，子どもの発達の段階に十分配慮して指導するようにしてください。

(3)「『静岡県ならでは』を生かした内容」について

静岡県の自然，文化，産業の中には，各教科の学習指導要領におけるねらいを実現するための素材が数多くあります。そのような素材を「『静岡県ならでは』を生かした内容」に取り入れています。

また，静岡県の子どもの学力の現状を十分に把握した上で，静岡県の子どもに身に付けさせたい内容を提示することを心掛けました。

【各学校で活用する際の留意点】

学校や地域の実態に合わせて，子どもたちが地域社会に関心を持つよう配慮しながら，指導法や教材を工夫してこの内容を扱うようにしてください。

(4) 小学校，中学校，高等学校の指導内容を体系的・系統的に捉えた資料

学習指導要領は，心身の発達の段階や特性を十分考慮して，適切な教育課程を編成することを求めています。「確かな学力」を育成していくためには，指導計画を立てる際に，各校種の教員が小学校から高等学校にかけての各教科の指導の流れを体系的・系統的に捉える視点を持つことが大切です。そこで，各教科や指導内容の特性に応じて構成等を工夫しながら，小学校から高等学校にかけての指導内容を体系的・系統的に捉えた資料を作成しました。

【各学校で活用する際の留意点】

この資料は，既に学習したことや上級学年で学習することのつながりを確認したり，小学校・中学校・高等学校の学習を見通して指導計画を立てたりするための資料として活用してください。また，子どもの学習のつまずきを発見する資料とするなど，各学校において創意工夫して活用してください。

※静岡県教育委員会の刊行している他の冊子や配布物との関係については，以下のようになります。

- 「静岡県教職員研修指針」は，学校を取り巻く様々な課題への対応等を踏まえ，「頼もしい教職員」を目指す本県の教職員が，授業力，生徒指導力等の資質・能力の向上を図るため，研修改善の方向性や研修体系を示したものです。
- 「よりよい自分をつくっていくために」は，子ども一人一人の主体的な学びの姿勢を高めていくために，教師が行うべきことを子どもの視点から示したものです。
- 「授業づくり規準」は，教師の授業づくりの目標や支えとなるように，授業力を学習指導力と教科指導力という二つの側面から示したものであり，授業づくりの心得として活用していただくように作成しています。
- 「静岡県の授業づくり指針」は，学習指導要領をわかりやすく解説し，「確かな学力」育成のための授業づくりに役立つよう，具体的な実践指導例等を示しています。
- 是非，「よりよい自分をつくっていくために」，「授業づくり規準」を基盤とし，実践の具体として「静岡県の授業づくり指針」を有効に活用してください。

※各教科の内容において，字句の表記は，学習指導要領及びその解説の引用部分以外は，改訂常用漢字表（平成22年11月30日告示）に従って表記してあります。

第２章

これからの外国語教育

1　外国語教育と「生きる力」

学習指導要領には，全教科共通の目標として「生きる力」の育成が掲げられています。各教科の特性を活(い)かして「生きる力」を育むことが求められているわけですが，外国語教育においては，「外国語によるコミュニケーション」を通し，次の３点を目指すことになります。

①　言語や文化に対する理解を深める

外国語に触れることで，その言語及び背景にある文化を理解するだけでなく，日本語や日本の文化に対する理解も深まります。

同時に，「異(い)なるもの」に接することで言語や文化に対する感性が磨かれたり，国際感覚や国際協調の精神が育ったりすることも期待できるでしょう。

なお，小学校においては，これを「体験的に理解する」こととされています。

②　コミュニケーションへの積極的な態度を育成する

分からないことがあっても粘り強く聞き続けたり，疑問があれば相手に質問したり，自分の意見をはっきり伝えようとしたりする姿勢が，異なる文化や価値観を持つ人たちと協調して生きていこうとする態度へと発展していくことが期待できます。

この項目に関しては，「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」という共通の文言が，小中高すべての学習指導要領で用いられています。

③　コミュニケーション能力を養う

ここで言う「コミュニケーション能力」とは，場面や状況，背景，相手の反応等を踏まえた上で，正確かつ効果的に情報をやり取りできる力を指します。

小学校でコミュニケーション能力の素地を育み，中学校で基礎を養い，高等学校で運用能力を高める，という流れになっています。

これに伴い，小学校では平成23年度より５，６年生において，年間35時間の外国語活動が実施され，中学校では平成24年度から英語の授業が全学年で週４時間となり，高等学校では平成25年度に４技能の総合的育成を目指した全く新しい科目構成に変更されます。

次ページに，学習指導要領に示された小・中・高それぞれの科目と目標をまとめて掲載しておきますので，参照してください。

【学習指導要領に示された目標一覧】

小学校

第4章　外国語活動　第1　目標
外国語を通じて，ア言語や文化について体験的に理解を深め，イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，ウコミュニケーション能力の素地を養う。

中学校

第2章　第9節　外国語　第1　目標
外国語を通じて，ア言語や文化に対する理解を深め，イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのウコミュニケーション能力の基礎を養う。

第9節　外国語　第2　各言語の目標及び内容等　英語　1　目標
(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。
(2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。
(3) 英語を読むことに慣れ親しみ，初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。
(4) 英語で書くことに慣れ親しみ，初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

高等学校

第8節　外国語　第1款 目標
外国語を通じて，ア言語や文化に対する理解を深め，イ積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするウコミュニケーション能力を養う。

「第8節　外国語　第2款　各科目」に示された各科目の目標

コミュニケーション英語基礎
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどの基礎的な能力を養う。

コミュニケーション英語Ⅰ
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

コミュニケーション英語Ⅱ
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

コミュニケーション英語Ⅲ
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を更に伸ばし，社会生活において活用できるようにする。

英語表現Ⅰ
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

英語表現Ⅱ
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。

英語会話
英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，身近な話題について会話する能力を養う。

その他の外国語に関する科目
その他の外国語に関する科目については，第1から第7まで及び第3款に示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする。

２ 求められる校種間の連携

小学校から高等学校に至る外国語教育には，前述の，外国語を用いて「生きる力」を育てる，という目標に加え，授業をコミュニケーションの場と捉え，十分に言語活動を行う，という指導方針も貫かれています。

ここでは，外国語教育の目標を達成するために必要な要素を，小学校から高等学校に至るまで継続して育てるものと，段階的に発展させていくものに分けて示します。

(1) 継続して育てるもの

ア　コミュニケーションに対する積極的な態度

子どもの中に，人と関わることを魅力的だと感じる気持ちを育て，それを「相手への思いやり」へとつなげていきます。

イ　協調性・寛容性

外国語の音声・リズムに触れたり，異文化を体験したり，日本語や日本の文化への理解を深めたりする中で，「異(い)なるもの」に対する協調性や寛容性を培っていきます。

ウ　生涯学習に取り組む姿勢

「世界中の人とつながることができる」という外国語の可能性に気付き，外国語を学ぶことの楽しさを実感し，外国語の学び方を習得できるよう支援していきます。

(2) 段階的に発展させるもの

ア　４技能の総合的運用能力

小学校段階の「音声によるコミュニケーション」が，文字による情報のやり取りを含めた「４技能の総合的な運用」を目指す中学校，より高度な内容を扱う高等学校へと引き継がれていきます。

イ　発信力

小学校では，主に自分のことを伝え合いますが，中学校からは，客観的事実や抽象的概念も表現しなくてはなりません。さらに高等学校では，「英語表現」という科目を設定し，論理の展開や表現の方法の工夫による発信力の向上を目指しています。

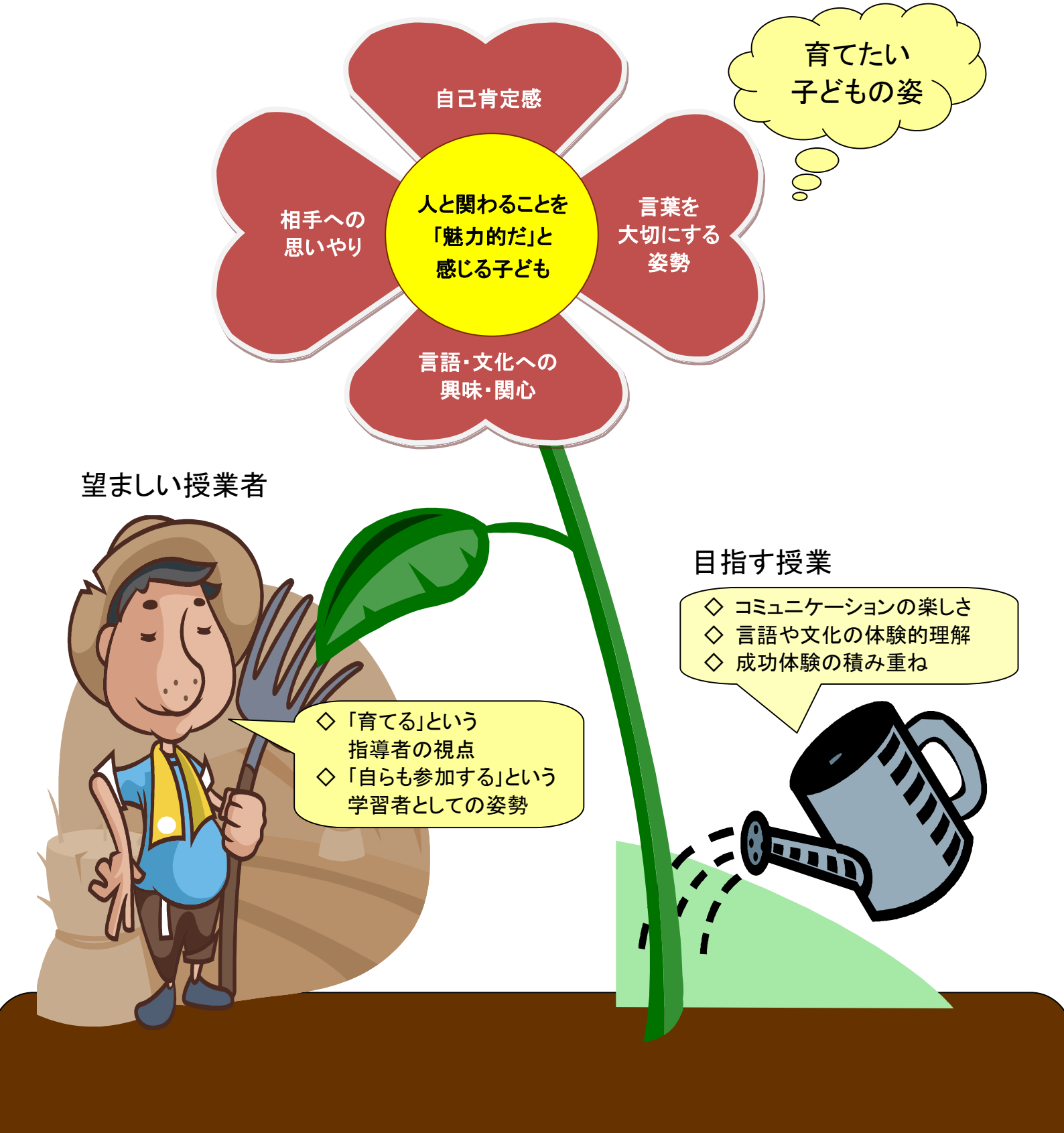
ウ　正確さ・適切さ

活動が「対面コミュニケーション」に限定されている小学校とは異なり，中学校以降は，あらゆる形態のコミュニケーションを扱います。これに伴い，手段として用いる外国語の「正確さ・適切さ」を，徐々に強く求めていきます。

第３章

小学校外国語活動

「コミュニケーション能力の素地」を育成するために



1　静岡県が小学校外国語活動で目指すもの

(1) 育てたい子どもの姿

静岡県は，子どもが外国語活動を通じて，次のア～オのように育っていくことを期待しています。

ア　自分を大切にできる、自己肯定感に満ちた子ども

使い慣れない言語を用いたコミュニケーションであっても，子どもが自分の思いを伝えるだけでなく，相手の発話に反応をしたり，よさを認めて「ほめ言葉」で返す活動を行ったりすることによって，子どもはコミュニケーションの場で相手のよさに着目するようになります。相手の良い面に着目し，お互いを認め合う大切さを実感することで，自己肯定感を高めてほしいと思います。

イ　相手に対する思いやりのある子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは相手意識を持ち，聞き手に分かりやすく伝える工夫を凝らし，コミュニケーションを行うようになります。何とか相手の意向を理解しようとする態度，何とか相手に分かってもらおうとする姿勢の必要性を実感することで，相手への思いやりの大切さに気付いてほしいと思います。

ウ　言葉を大切にする子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは様々な場面における言葉を使ったやり取りを通して，言葉が相手に与える影響の大きさや，言葉の便利さを体験的に理解します。このようなコミュニケーションを通して，外国語もまた，日本語と同じように人と思いを伝え合うことができることに気付きます。そこから外国語を使って世界のいろいろな人と話してみたいという思いが膨らんでいくことも期待できます。これらの体験を通してコミュニケーションにおける「言葉の力」を十分に理解し，言葉の大切さに気付くとともに，相手のことを考えて言葉を選んで使うことができる子どもになってほしいと思います。

エ　言語や，その背景にある文化に興味・関心を抱く子ども

使い慣れない言語を用いたコミュニケーションを通して，子どもはその言語独特のリズムや雰囲気を楽しんだり，背景にある文化に興味を持ったりします。外国の言語や文化を日本語や自分の身の回りの事象と比較する中で，自分の生活では当たり前であったことが，当たり前でないことに気付くなど，お互いの文化や生活を尊重する意義を体験的に理解してほしいと思います。

↓

オ　人と関わることを魅力的だと感じる子ども

使い慣れない言語でコミュニケーションを行うという困難さを乗り越える中で，子どもは，自分の十分ではない英語でも最後まで聞いてもらえた満足感，分かってもらえたという達成感を得ることができます。こうした体験を通して，子どもは人の話をじっくり聞くことの意味を主体的に理解し，人の言葉に関心を持って耳を傾けることができるようになります。外国語活動の時間を通して，人と関わることの魅力に気付いてほしいと思います。

(2) 目指す授業

静岡県は子どもが前述のように育っていくために，外国語を用いて次のア～ウのような授業を目指します。

ア　コミュニケーションの楽しさを実感する授業

人と関わる楽しさを実感する授業

子どもは，自分のことを表現したり，友だちの新たな一面を知ったりすることで，人と関わる楽しさを実感し，積極的にコミュニケーションを図ろうとします。「伝えたい」「聞きたい」という思いが膨らむコミュニケーション活動を設定し，子どもの，友だちともっと関わりたいという意欲を高めましょう。

「言葉の力」を実感する授業

あえて使い慣れない外国語を使用することで，母語でのコミュニケーションでは見られない様々な工夫が必要となります。コミュニケーションの難しさに直面することで子どもは言葉の有用性を実感するでしょう。同時に，自分の思いが相手に伝わったという喜びは，人と関わることの魅力を実感させ，人とのつながりを大きく広げてくれるという言葉の可能性に気付かせてくれます。

イ　言語や文化を体験的に理解する授業

日本語と外国語，日本の文化と外国の文化を比較したり，外国の文化を体験したりする中で，子どもが持った親しみや気付きを大切にして授業を進めましょう。また，それぞれの言語や文化に対する理解が深まり，それぞれのよさを実感できるような活動を設定しましょう。外国語活動の授業を通して，子どもが外国へ行ってみたいなと思ったり，日本のよさに気付いたりすることも期待できます。

ウ　成功体験を積み重ねていく授業

自信と安心感の中で学ぶ授業

子どもは,「思いが伝わった」「友だちの言いたいことが分かった」という経験を積み重ねることで，人と関わることへの自信を深めていきます。そのためにも，単元の中心となるコミュニケーション活動を行う前に，子どもが語彙や使用表現に十分慣れ親しんでいるかどうか，状況を確認しながらスモールステップで授業を進めましょう。また，子どもが不安を感じることなく友達と関わることができるよう，コミュニケーション活動の時間を十分に保障することも大切です。自信と安心感に支えられて，子どもは外国語を用いた積極的なコミュニケーションに挑戦し，多くの成功体験を得ることができます。

自己肯定感を高める授業

子どもが達成感を味わったり，互いの成長を実感したりできるよう，コミュニケーション活動から得た学びや気付きを，共有しましょう。また教師は積極的に人と関わろうとした子どもの姿を意図的に取り上げ，成果の一つとしてフィードバックしましょう。子どもの自己肯定感は，自分のよさを確認し，友だちから認められることで高まっていきます。

⑶ 望ましい授業者

静岡県は，前述のような授業が行われるよう，授業者に，次のア，イのようであってほしいと考えています。

ア 「育てる」という視点を持った指導者

子どもを深く理解して授業を構想する指導者

外国語活動では指導者に単元構想力が求められます。単元や１時間の授業を構想する時には，子どもがどのようなことに興味を持ち，どんなことを今，学校で学んでいるのかなどを把握する作業が欠かせません。授業の中で「ここは〇〇さんの出番だ。」と意図的に指名することも，指導者の子ども理解が基盤にあってこそ可能なことです。指導者が子どもにとって何が楽しいのか，何が子どもの心に訴えるのかを，誰よりもよく理解し，子どもの心と頭を動かす活動を仕組むことで，子どもが活動を楽しむことができます。

子どもの姿を肯定的に受け止める指導者

活動に取り組む子どもの様子からは，数や量，速さといった数字で測ることができるような要素ばかりではなく，何とか相手に思いを伝えようとする「話し手」の姿や，相手の思いを何とか汲み取ろうとする「聞き手」の姿を積極的に価値付けます。コミュニケーションへの積極的な態度は，素早く次々に相手を替えて対話する姿よりも，むしろ一人一人の伝えたい思いを汲み取ったり，不完全でも何とか伝えようとしたりすることで育まれることを念頭に置きましょう。また，授業中，子どもの困り感やつまずきを察知し，コミュニケーションでの目標を達成できるように適切に支援することで，どの子どもも成功体験を得ることができます。

子どもの学びを大切にする指導者

授業の終わりでは，振り返りの場を持ち，子どもの「コミュニケーションに対する変容」に着目し，相手と粘り強く関わろうとした姿を価値付けることが大切です。また，言語や文化について授業中に子どもが示す反応や，比較して気付いた事柄について，指導者が共感的に取り上げることも大切です。たとえ，小さな気付きでもその子らしい受け止め方ができたことを指導者が肯定的に価値付けることができれば，子どもは新しい気付きを求めて主体的に学び続けようとします。さらに，子どもが自信を持って次時の授業に向かうことができる状態であるかどうかを教師が的確に判断することも，この段階で必要なポイントです。このような取組を繰り返すことにより，子どもはコミュニケーションを通して自分が大切にされていることを学び，自己肯定感を高めていきます。

イ 「自らも参加する」という姿勢を持つ学習者

指導者が子どもと同じ学びの目線に立って，子どもと共に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢を見せることで，子どもが外国語活動で人と関わることに意欲的に取り組むことが期待できます。新しいものに挑戦する気持ちや失敗を恐れない姿勢を持って一所懸命に人と関わろうとする指導者の姿を見た子どもは，「がんばれば自分にもできそうだ。」と外国語を用いることを肯定的に受け止め，学びに対して前向きな気持ちを持つでしょう。

(4) 補足

ア　学習指導要領との関わり

学習指導要領に示された外国語活動の目標は次のとおりです。

> 外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。

ここに示されたとおり，小学校外国語活動は，次の(ｱ)～(ｳ)の三つの手段を通じて，コミュニケーション能力の素地，すなわち広く言葉を通して人と関わる力を養うことを目指しています。

(ｱ) 外国語を通じて，言語や文化について体験的に理解を深める。

外国語活動において，言語や文化は体験的に理解されるものであり，一方的に教え込まれるものではありません。異文化に接しながら，違いを違いとして認め，重なりも大切にしながら，お互いに尊重し合う態度が養われることを目指しています。

(ｲ) 外国語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

子どものコミュニケーション能力の低下は，今日の日本が抱える深刻な社会問題の一つとなっています。

外国語活動は，外国語によるコミュニケーションを通して，自分の思いを相手に伝えたり，相手の気持ちを理解しようとしたりすることで，言葉を大切にする意識や，前向きに人と関わろうとする意欲的な態度を育てることをねらいとしています。

(ｳ) 外国語を通じて，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

外国語活動は，英語学習の前倒しではなく，音声を中心としたコミュニケーション活動を通じて，外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることを大きな目標としています。

思わず聞きたくなったり，言いたくなったりするような活動を繰り返し行うことで，子どもの，自分が慣れ親しんだ表現を実際のコミュニケーションの場面で使ってみようとする姿勢や，言葉に対する興味・関心を育てます。

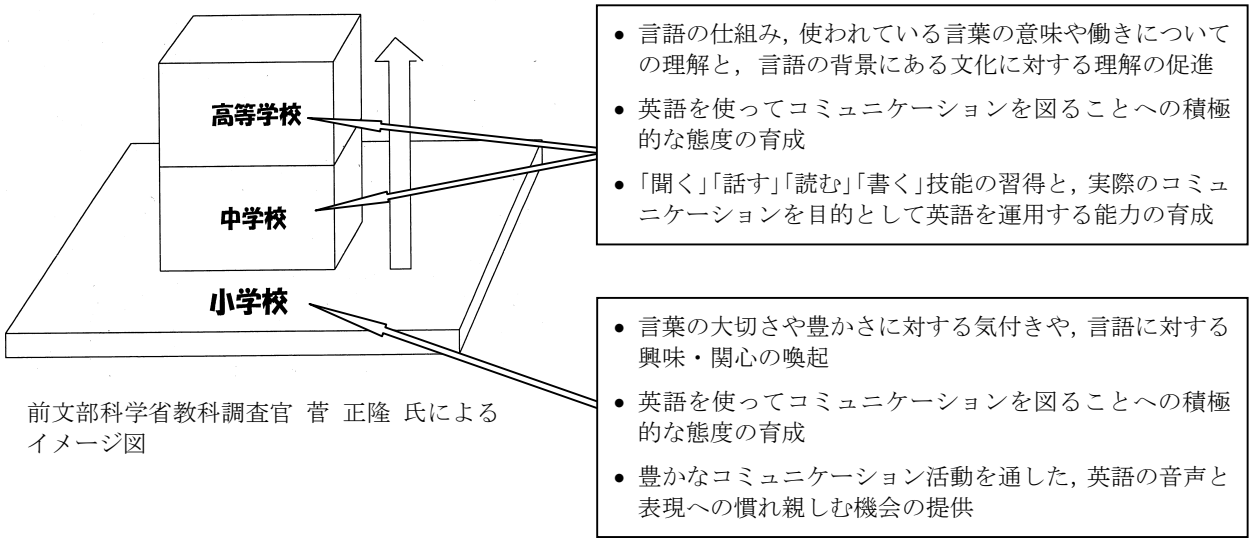
前述の，「育てたい子どもの姿」，「目指す授業」，「望ましい授業者」に関する提案は，以上のような解釈に基づいたものです。

イ　中学校及び高等学校へのつながり

小学校の外国語活動は，コミュニケーションへの積極的な態度を育成することが特に重視されている点で，中学校の英語学習と大きく異なる一方，中学校・高等学校における外国語科の学習につながるコミュニケーション能力の素地を養うものでもあります。

ここでは，英語教育の視点に立ち，小学校外国語活動が中学校・高等学校の英語学習にどのようにつながっていくかを考えます。

【今後の小・中・高の英語教育のイメージ】



前文部科学省教科調査官　菅　正隆　氏による
イメージ図

小学校の外国語活動は，小学校だけで完結するものではなく，中学校，高等学校の英語学習への入り口であり，さらに生涯にわたる学習につながっていくものです。小学校での楽しい出会いが，その後，英語を学んでいくための動機付けとなるかもしれません。ですから，小学校段階では，英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさを十分に体験させ，言葉の役割や大切さに気付かせていくことが必要となります。英語の単語や表現の定着を求め，練習を繰り返したり文法を教えたりするものではありません。英語で伝え合う喜びを積み重ねていくことで，言葉に対する感性や人と関わろうとする意欲が培われていくのです。これは，中学校からの英語学習は，コミュニケーションの手段としての言葉の学習である，という意識を子どもに持たせることにつながります。

また，子どもにとって，英語でコミュニケーションを図る機会は学校での授業以外にほとんどありません。子どもの「知りたい」，「伝えたい」といった意欲が高まっていくような活動を工夫し，豊かなコミュニケーション活動が展開されるような授業を組み立てていきましょう。

なお，小学校外国語活動は音声面を中心としたコミュニケーションを行うこととなっており，文字については，アルファベットを聞いて形を認識したり，アルファベットを見て書き写したりする程度になります。実際の授業において，英語の単語を絵と共に見せることはあっても，文字だけを見せて読ませようとしたり，絵を見せて文字を書かせようとしたりすることは小学校の指導内容としては望ましくありません。

ウ　ティーム・ティーチングの留意点

授業運営の舵取りをALT任せにすることなく，学級担任（又は外国語活動を担当する指導者）が務めましょう。クラスをうまくコントロールしながらも楽しい外国語活動を演出し，児童一人一人を観察して褒め，適切な支援や励ましを行うには，子どもの実態を熟知している学級担任が授業を担当するのがよいでしょう。

また，子どもの異文化理解を促すため，ALTが文化発信するための時間を意図的に設定し，ALTに授業のねらいをはっきりと伝えた上で母国文化の紹介などをしてもらいましょう。この際にも，学級担任が主となり，ALTと共に授業を進めていくことが大切です。

【学級担任とALTの役割】

	学級担任	ALT
授業前	• 付けたい力と子どもの実態や他教科等との関連性に基づいた単元の構想及び授業案の作成 • 打合せ会の計画と運営 • ALT等への授業の説明 • 教材や教具の作成	• 外国語の知識に基づいて，授業で扱う言語表現に関する助言 • 文化的な側面から授業を展開することへの助言 • 資料や教材の作成
授業中	**学習者としてのモデル** • 間違えてもいいんだという気持ちで外国語を用いて話したり質問したりして積極的にコミュニケーションを図る姿の提示 • 異文化や外国語または相手が話す内容を肯定的に受け取ろうとする姿勢の提示 **子どもの実態に基づいた授業運営** • ALTによる活動の説明等の補助 • 子ども理解に基づいた指名 • 子どもの学習状況に配慮した適切な指導や支援 • 子どもが学習活動を意図的に振り返る場面の設定 • 主にコミュニケーションにおける態度，積極性，個人の変化に着目した評価	**外国語や外国の文化を実際に表す存在** • 子どもが「外国語が通じた」と感動できる存在としてのコミュニケーションの対象 • 活動の進め方などの説明の主導 • ネイティブ・スピーカーの視点からの授業運営 • 自国の文化，諸外国の事物に関する話題の提示 • 子どもへの問い掛け • 子どもを引き付ける言語や内容の提示 **ネイティブ・スピーカーの視点からの評価** • コミュニケーションに対する子どもの態度や積極性について，主に使用している外国語の視点からの評価
授業後	• 教材の整理 • 授業案についての振り返り • 子どもの振り返りの次回への反映	• 授業に関する反省及び助言の伝達

【ALTとの関わり方についてのポイント】

(ア) 全教職員が積極的にALTに話し掛ける。辞書を使ってでも積極的に関わろうとする姿勢が大切である。

(イ) ALTとの会話の中で分からないことがあったら，臆せず繰り返し聞いて確認をする。

(ウ) ALTの得手，不得手を把握し，個性や特技を生かす。

(エ) 世界には多様な英語があり，ALTの話す英語をその一つとして尊重する。

(オ) 配慮を要する子どもについて，授業前にALTに知らせておく。

2　授業づくりに当たって

(1) 年間指導計画

子どもに計画的，系統的にコミュニケーションを体験させていくために，年間指導計画を作成します。年間指導計画の構成要素としては，①目標②具体的な指導内容③主な活動④配当時間数⑤評価規準等が考えられるでしょう。その際，目標と評価規準は必ず一致させてください。具体的な指導内容としては日常生活の場面や，子どもにとって興味・関心ある話題などを取り上げ，単元として配列しましょう。配当時間数は，目標のレベルやそこに至るまでに必要な活動の量を考慮して決定します。

英語ノート等を使用する場合は，文部科学省の指導資料や市販の指導案集を利用してもいいでしょう。ただし，各学校において，子どもの興味・関心や人間関係，学校規模等，子どもの実態に合わせて活用していくことが前提となります。

(2) 単元の構想

年間指導計画に基づき，単元目標の実現に向けて，具体的な指導計画を立てましょう。ここでは，英語ノート２「Lesson3　友だちの誕生日を知ろう」を例とします。下の表を見てください。

修正前（英語ノートの活動そのまま）

言語活動①	P16 Activity行事と月を線で結ぼう 言語や文化に関する気付き
言語活動②	P17 Let's Listen 国名と月を聞き取ろう 言語や文化に関する気付き
言語活動③	P17 Let's Chant 月名を言ってみよう 慣れ親しみ
言語活動④	P18 Let's Play 月名(キーワード／ミッシング／ステレオ)ゲーム 慣れ親しみ
言語活動⑤	P18 Activity 自分の誕生日の言い方を知ろう 言語や文化に関する気付き
言語活動⑥	P19 Let's Listen 名前と誕生日を聞き取ろう 慣れ親しみ
言語活動⑦	P20 Activity1アルファベットを入れよう 言語や文化に関する気付き
中心コミュ	P21 Activity2誕生日をインタビューしよう コミュニケーション

⇒

修正後（必要に応じ活動を加除）

言語活動①	P16 Activity行事と月を線で結ぼう 言語や文化に関する気付き
言語活動②	P17 Let's Listen 国名と月を聞き取ろう 言語や文化に関する気付き
追加活動①	月名(おはじき／指さし)ゲーム 慣れ親しみ
言語活動③	P17 Let's Chant 月名を言ってみよう 慣れ親しみ
言語活動④	P18 Let's Play 月名(キーワード／ミッシング／ステレオ)ゲーム 慣れ親しみ
言語活動⑤	P18 Activity 自分の誕生日の言い方を知ろう 言語や文化に関する気付き
言語活動⑥	P19 Let's Listen 名前と誕生日を聞き取ろう 慣れ親しみ
追加活動②	P18 Activityの発展活動「誕生日カルタ」 慣れ親しみ
追加活動③	スーパーメガジャンケンゲーム 慣れ親しみ
追加活動④	P16 Activityの発展活動「絵を見て友だちの誕生月をあてよう」 慣れ親しみ コミュニケーション
~~言語活動⑦~~	~~P20 Activity1アルファベットを入れよう 言語や文化に関する気付き~~
中心コミュ	P21 Activity2 誕生日リスト作成「何月生まれが多いのかな？」 コミュニケーション

※ 言語活動：英語ノートに掲載されている活動
追加活動：子どもの実態に合わせて補った活動
中心コミュ：単元の中心となるコミュニケーション活動

※ □ 内は，各活動の目的を示す。

※ 活動の詳細は，P74「英語ノートの活用例(1)」参照

左側の列は，英語ノート２に掲載されている言語活動をそのままの順番で縦に並べ，各活動の目

的を併記したものです。これらの言語活動が，単元の最後に行う「友だちに誕生日をインタビューする。」と言う活動に向かって無理なく段階的に並んでいるかを検証します。

繰り返し学んで自信をつけたい子どもも多くいることを想定すると，言語活動②と言語活動③の橋渡しとなる活動を補った方がよさそうです。また，言語活動⑥から単元の中心となるコミュニケーション活動（以下「中心コミュ」）への展開において，言語活動⑦が目標の達成には必ずしも必要ではない活動であると考えた場合は，言語活動⑥から中心コミュへのつなぎとなる別の活動と入れ替える必要もあるでしょう。

このような分析に基づき，英語ノート２指導資料等を参考にして新たに活動を追加したものが右側の列に示されています。子どもは，これらの段階的に配列された活動を通じて，中心コミュに必要となる表現への慣れ親しみを深め，自信を持ってお互いの誕生日を尋ね合うでしょう。

次に，年間計画で配当された時間数を基に，各授業で扱う範囲を決定します。

ここでは英語ノート２の指導資料に沿って，この単元に４時間を割り当てることにします。そこで，中心コミュと，そこに至るまでの10の活動を４つに分けます。子どもの実態によっては，５や６（５時間扱いや６時間扱い）に分けることも考えられます。どちらの場合も，子どもの負担を考えて，前時に扱った活動を次時に復習として取り入れるよう配慮しましょう。

以上を基に，「中心コミュまで10ステップ，４時間配当」で作成した単元計画が，次ページに示されています。単元を構想する際の，「単元目標の設定」⇒「単元目標との整合性がある中心コミュの設定」⇒「そこに至る過程で必要となるすべての言語活動の洗い出し」⇒「適切な順序への並べ換え」⇒「配当時間に合わせた各授業の内容決定」，という手順を再確認してください。

【単元計画例】中心コミュまで10ステップ，４時間配当

活動	授業目標 内容 活動の目的	第1時 日本の季節の行事や特徴を伝え，英語での月の言い方を知る。	第2時 自分の誕生日を言う。	第3時 誕生日についてのまとまった話を聞いて，その概要を理解する。	第4時 自分や相手の誕生日について尋ねたり答えたりする。
ウォームアップ		○	○	○	○
言語活動①	P16 Activity行事と月を線で結ぼう 言語や文化に関する気付き	●			
言語活動②	P17 Let's Listen 国名と月を聞き取ろう 言語や文化に関する気付き	○			
追加活動①	月名(おはじき／指さし)ゲーム 慣れ親しみ	○ おはじき 指さし	● 指さし		
言語活動③	P17 Let's Chant 月名を言ってみよう 慣れ親しみ	○	○	●	●
言語活動④	P18 Let's Play 月名(キーワード／ミッシング／ステレオ)ゲーム 慣れ親しみ		○ キーワード ミッシング	○ キーワード ステレオ	
言語活動⑤	P18 Activity 自分の誕生日の言い方を知ろう 言語や文化に関する気付き		○		
言語活動⑥	P19 Let's Listen名前と誕生日を聞き取ろう 慣れ親しみ			○	
追加活動②	P18 Activityの発展活動「誕生日カルタ」 慣れ親しみ			○	○
追加活動③	スーパーメガジャンケンゲーム 慣れ親しみ				○
追加活動④	P16 Activity の発展活動 「絵を見て友だちの誕生月をあてよう」 慣れ親しみ　コミュニケーション				○
中心コミュ	P21 Activity2誕生日リスト作成「何月生まれが多いのかな？」 コミュニケーション				○
振り返り		○	○	○	○

※ ●の活動は，ウォームアップの代替として実施してもよい

※ 活動の詳細は，P74「英語ノートの活用例(1)」参照

(3)　１時間の授業の構想

単元の目標を達成するために，単元計画に基づいて子どもが段階を踏んで学習を進めることができるように１時間の授業を構想します。授業の流れが定着することで，子どもも指導者も見通しが持て，外国語活動に安心して取り組むことができるでしょう。

【１時間の授業の構成例】

①　あいさつ
②　ウォームアップ
③　導入(授業内容の導入／語彙や表現への慣れ親しみ)
④　展開(語彙や表現への慣れ親しみ／コミュニケーション活動)
⑤　本時の振り返り
⑥　あいさつ

【留意事項】

②　ウォームアップ

英語の歌を歌ったり，簡単なゲーム活動を行ったりして，外国語活動を始めるという雰囲気づくりをします。子どもに大きなチャレンジを求める活動や複雑な活動を行うのではなく，２～３分程度の歌やチャンツ，ゲームによって緊張をほぐすことを大切にします。単元の２時間目以降では，前時の振り返りとして使うとよいでしょう。

③　導入

本時で取り上げる内容や表現を紹介し，学習への意欲を高めます。特に単元の導入段階においては，単元で扱う話題や場面と子どもの日常生活や体験とを関連付け，子どもの興味・関心を十分に引き付けましょう。その際，単に事実を伝えるのではなく，両者を十分に比較する中で子どもが自発的に気付くよう配慮して，言語や文化に対する体験的な理解を深めることが大切です。

英語ノートのデジタル教材，ゲームやクイズ等を効果的に用い，指導者が意図的にジェスチャーを使ったり，具体的な物を示したりして，子どもの体験的な理解が英語を通して行われるよう支援しましょう。

ティーム・ティーチングの場合は，前述の「ティーム・ティーチングの留意点」を参照してALTの活用を図ってください。

④　展開

本時の目標につながるように，ねらいを明確にした活動を，バランスや順序を考慮して組み合わせて構成します。聞く活動から，言ってみる活動，記憶し自分のものにする活動，自分の意志で選んで発話する活動へと，段階的に配列するとよいでしょう。その際には，パターン・プラクティスなど単調な練習だけにならないように，歌やチャンツやゲームなどを工夫して用

います。積極的にどの子どもも進んで活動できる雰囲気をつくり，子どもが思わず聞きたくなる，言いたくなる活動を通して十分に語彙や表現に慣れ親しむことができるように支援をします。

子どもが十分に語彙や表現に慣れ親しんだことを確認できたら，コミュニケーション活動へと進みます。ここでは，友だちとのやり取りの中で，聞いたり言ったりして慣れ親しんだ表現を実際に使用し，「言いたいことを英語で伝えられた」「相手の言いたいことがわかった」「友だちの新たな一面を知ることができた」という経験をさせることが大切です。慣れ親しんだ表現を使う必然性があり，情報のやり取りを通じて満足感や達成感を味わうことができるような活動を用意しましょう。子どもは自己表現と他者理解を重ねながら，コミュニケーション活動の中で自己肯定感を育んでいきます。

⑤　本時の振り返り

１時間のまとめとして，本時の授業から得た成果を，本時のねらいに沿って振り返ります。これにより子どもは，自分や友だちの成長を実感したり，一人の気付きをクラス全員で共有したりすることができます。方法としては，「目標が達成されたか」「何に気付いたか」などについて，子どもが発表したり，振り返りカード等に記述したりすることなどが考えられるでしょう。

指導者は，外国語を主な手段として相手と粘り強く関わろうとした子どもに着目し，その姿勢を賞賛するメッセージを添えて学級全体に紹介します。数や量，速さといった数字で測ることのできる要素ばかりでなく，何とか相手に思いを伝えようとする「話し手」の姿や，相手の思いを何とか汲み取ろうとする「聞き手」の姿を価値付けることで，子どもはコミュニケーションを通して自分が大切にされていることを学び，自己肯定感を育んでいくのです。

子ども一人一人が達成感を感じ，さらにがんばろうという気持ちになり，次の活動への意欲を膨らませていくために，振り返りの時間を効果的に活用しましょう。

(4) 効果的なゲームやアクティビティの例

ゲームやアクティビティは，子どもに慣れ親しませたい語彙や表現を，繰り返し聞かせたり，言わせたりするのに有効です。ただ，指導者がそれぞれのゲームのねらいをしっかり理解し，単なる遊びで終わらせないことと，楽しいからといって必要以上に時間を費やさないことに注意すべきです。個人対個人だけでなくペアやグループで競う形態をとったり，グループで協力して何かを作りあげるものを取り入れたりするような工夫や，偶然性を取り入れて，英語が得意ではない子どもにも勝つチャンスを与えることも必要でしょう。

以下に挙げたゲームやアクティビティは，様々なトピックや場面で使うことができます。子どもたちの実態に合わせて，実施方法や形態を工夫してください。

ア　語彙や表現に慣れることをねらいとしたゲーム

【思わず聞きたくなる活動】

おはじきゲーム

単元の最初の語彙や表現に聞き慣れる段階で行うと効果的なペア活動です。おはじきを１人に３つずつ与え，表の中の好きな絵の上にマーキングさせます。指導者が発声した絵を表す言葉とマーキングが一致していたらおはじきを取ります。ペアと競争し，全てのおはじきがなくなった子どもの勝ちです。

子どもは相手に勝ちたいという思いで，自分がマーキングした絵と指導者が言う英語とを重ねながら期待を持って集中して聞くことができます。聞こえた英語を繰り返させることで，言い慣れる活動にもなります。

指差しゲーム

単元の最初の語彙や表現に聞き慣れる段階で行うと効果的なペア活動です。英語ノートの挿絵や，机の上に並べた絵カードを使います。ペアで，指導者の言った単語をどちらが早く指差すことができるかを競います。また，一度置いた指は離してはいけない，途中で指を替えてもいけない，というルールにして，どれだけ多くの絵を指し示せるかを競うゲームにすると，英語が苦手な子どもにも勝つチャンスが生じるでしょう。

英語カルタゲーム

単元の最初の語彙や表現に聞き慣れる段階で行うと効果的な活動です。グループに分かれて，絵カードを並べ，言われた単語を表す絵が描かれたカードを取ります。子どもは読み上げられたカードを取るために，耳を澄まして指導者が発声する言葉を聞き取ろうとします。子どもが使用表現と出会う最初の段階では，このように子どもが思わず聞きたくなるような活動を取り入れることが重要です。

指導者に対して一斉に“What would you like?”または“What do you <u>want / like</u>?”と問い掛けさせ，指導者がそれに答えて単語を読み上げることもできるでしょう。また，読み上げる役を子どもにさせてもいいでしょう。同じ札を２枚ずつ使用すると，２人の子どもが毎回カードを取ることができます。また，一番多くカードを取った子どもを勝者にする代わりに，「ある特定のカードを取ったら勝ち」というルールにして，最後に発表することもできるでしょう。

キーワードゲーム

新しい語彙や表現に慣れるために行います。単元の最初の聞き慣れる段階で行うと効果的です。

黒板に絵カードを貼るなどした後，キーワードを１つ決めます。指導者が１つずつ単語を言って子どもたちに繰り返し言わせた後で，キーワードを言います。キーワードが言われた時は，子どもは単語を繰り返す代わりに，あらかじめ決められた活動ルール（下の(ｱ)～(ｴ)など）で素早く反応します。相手より早く反応することが求められるため，子どもが集中して英語を聞き取ろうとします。聞こえた英語を繰り返させることで言い慣れる活動にもなります。

(ｱ) 消しゴムゲーム（eraser game）

２～４人で行います。机の中央に消しゴムのような目印を置き，子どもは両手を頭の上に乗せて待機します。指導者からキーワードが発声されたら素早く反応し目印を奪います。

(ｲ) 恐竜（ダイナソー）ゲーム（dinosaur game）

２～４人で行います。左手の指を指全体で紙をつまむようにすぼめます。右手の指は恐竜の口の形のように開きます。左手はハンバーガー（えさ），右手はお腹をすかせた恐竜に見立て，相手の左手と自分の右手，相手の右手と自分の左手を向き合わせて構えます。指導者からキーワードが発声されたら右手（恐竜）で相手の左手（ハンバーガー）をつかみ，左手は相手の右手に捕まらないように素早く引き戻します。

(ｳ) ハンマーゲーム（hammer game）

ペアで行うゲームです。最初にそれぞれが決めた自分のキーワードを相手に伝えます。ペア同士が向かい合って右手で握手をし，そのままの状態でゲームを開始します。指導者からキーワードが発声されたら自分のキーワードを言われた子どもは左手で相手の右手の甲を叩きます。相手は叩かれないように左手の手のひらで自分の右手の甲をガードします。

(ｴ) フィンガーキャッチゲーム（finger catch game）

２人～多数で行えるゲームです。グループごとに丸い円を作って並びます。左手の指で輪を作り，隣の人の左手の輪の中に右手の人差し指を差し込みます。指導者からキーワードが発声されたら左手を握り，相手の人差し指をつかみます。自分は相手の左手に握られないように人差し指を素早く上に引きあげます。

ラインナップゲーム

子どもが使用表現について言葉と意味とを理解した状況で行う聞き慣れるためのグループ活動です。いくつかの絵カードを用意し，指導者が発話した言葉を子どもが聞こえた順に並べます。グループで協力し合って行う活動なので，子どもが安心して参加することができるという利点があります。

一方で一度に複数の情報を記憶にとどめなければならないので，子どもは集中して言葉を聞こうとします。英語のストーリーを聞いて，場面を表す絵カードをグループで話し合って順番に並べ替えるゲームにすることもできるでしょう。アルファベットカードで行えば，聞こえたアルファベットと，カードの文字を重ねながら，文字を識別する作業が，アルファベットの形を確認する活動になります。

サイモン・セズ

身体の部分を示す語彙や，簡単な動作を表す表現に子どもが十分聞き慣れた後で，復習するために行うゲームです。子どもは，基本的に指導者が命令をする動作をしなければなりません。その命令は例えば次のようなものです。

“Simon says touch your mouth.” “Simon says jump.” “Simon says turn round.” しかしながら，“Simon says”をつけないで命令された場合に，その動作をしてしまったら，ゲームから脱落します。最後まで残った子どもが勝者となります。だんだんとテンポを速めたり，“Play soccer”など，やや複雑な動作を用いたりすることもできます。

【思わず言いたくなる活動】

ステレオゲーム

５人程度のグループで行う活動です。使用する単語や表現について，言い慣れる活動をした後，グループの中で１人ずつ，自分が発声する言葉を１つ決めます。グループごとに前に出てきて，タイミングよく一斉に英語で叫びます。聞き手は，それぞれが何と言っているのかを聞き分けて回答します。

大きな声で自分が選んだ単語や表現を何度も発声することで，子どもは使用表現に対して自信を深めることができます。また，聞き手は同時に聞こえる英語の中から，余分な音を排除して聞こうとすることで，より一層集中して耳を傾けるようになります。

伝言ゲーム

単語や文を正確に伝えることができたチームを勝ちとするゲームです。子どもに使用表現を何度も発話させたい時に使うと効果的です。子どもにしっかりと発声させることが目的ですので，指導者には子どもの視点が速さだけに偏らないように活動を工夫することが求められます。

最初の子どもに，文を聞かせる代わりに，絵カードを見せたり，時計で時刻を示したりするほか，最後の子どもが口頭で伝える代わりに，競争で該当する絵カードをとるようにすることもできるでしょう。

スーパー メガ ジャンケン ゲーム

コミュニケーション活動に入る前段階で，子どもに何度も使用表現を発話させたい時に行うと効果的なグループ対抗戦で進める活動です。10枚程度の単語やジェスチャーを表すカードを２～４セット準備し，クラスを５，６人程度のグループに分けます。

（図）☺ → □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ ← ☺

Ａグループ　伏せてあるカード（表にして英語を言い，また伏せて置く）　Ｂグループ

上図のように両端に別れ，チームごとに列を作り先頭の１人が指導者の号令で１枚ずつカードを表にして英語を言っていきます。言い終わったカードはすぐにまた伏せておきます。分からない時は，指導者や自分のチームの人に教えてもらうことができます。相手のグループの人と出会ったところでじゃんけんをします。勝てばそのままカードの絵を英語で言いながら進み，相手側の陣地を目指します。負けたら，次の人が１枚目からカードの絵を英語で言いながら進みます。相手側の陣地に着いてじゃんけんに勝ったチームの勝ちとなります。

神経衰弱ゲーム

グループに分かれ，伏せて並べられた絵カードを開いた時に絵が表す単語や文を言う，というルールでゲームを行います。子どもは２枚のカードを一致させるために集中してカードの言葉を記憶しようとします。勝敗には偶然性があり，たとえ間違えても子どもが恥ずかしい思いをしないというところがメリットです。一時的にでも，言葉を覚えたり思い出したりする必要のあるゲームなので，ある程度聞き慣れたり言い慣れたりする活動を繰り返した後に行うと効果的です。

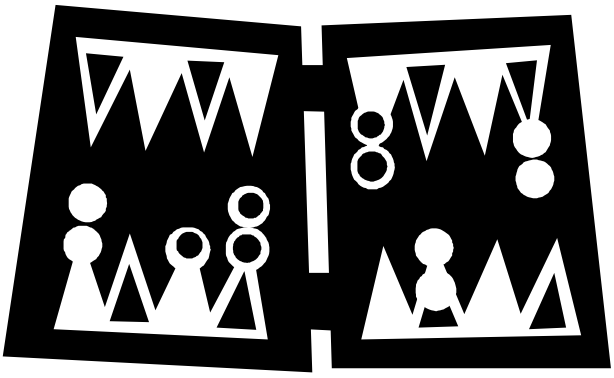
ミッシングゲーム

コミュニケーション活動に入る前段階で，子どもが使用表現に慣れ親しんでいるかを確認する活動として有効です。まず絵を黒板に貼り，子どもたちと絵を見ながら英語を何度も繰り返し言います。子どもが表現に十分慣れ親しんだところで，すべての子どもたちに目を閉じるように言い，その間に１枚もしくは２枚絵をはずします。そして，“What’s missing?”(何がなくなったかな？)と子どもたちに問い掛けます。子どもは目を開けて黒板からはずされたカードが何であるか考え英語で言います。問い掛ける役を子どもにさせてもいいでしょう。

外国語活動は定着を目指すものではありませんが，子どもに無理なく，単元で使う英語や表現に触れさせ，自信を持たせることは大切です。この活動は，一時的に単語や表現を記憶に留める必要があり，そのために子どもがより一層集中して英語を発声したり聞いたりするようになります。あくまで，聞き慣れたり，言い慣れたりすることを繰り返し，子どもに自信を持たせてから出題することと，リズム読みを取り入れるなど，子どもに無理のないように配慮することが望まれます。覚えることを前面に出さず，子どもが思わず覚えてしまうような手だてが必要です。

すごろくゲーム

コミュニケーション活動に入る前段階で，子どもに何度も使用表現を発話させたい時に行うと効果的です。どのようなトピックにも使えますが，例えば，動物の名前に聞き慣れたり，言い慣れたりするためには，マスに動物の絵を書き入れ，サイコロを振ってコマが進んだところで，そのマスがヘビであれば“Do you like snakes?”と他の子どもたちが質問をし，“Yes, I do.” “No, I don’t.”と答えるようにします。マスには，「２つ進む」「３つもどる」「スタートに逆戻り」なども含めると楽しさが増します。また，絵を書き込む代わりに，数字を入れておいて，黒板に絵カードを貼って番号を添えて書けば，何回でも同じマスが使えます。



イ　言いたいことを英語で伝えることをねらいとしたアクティビティ

仲間集め

比較的簡単にできるコミュニケーション活動です。「同じ国に行きたい人を探そう」「同じ誕生月に生まれた人を探そう」などのように，インタビューをしながら，同じ○○の人を探します。見つかったら一緒に行動し，仲間を徐々に増やしていきます。同じ○○の人を見つけた時の喜びと，徐々に仲間が増えていく時の喜びを味わうことができます。仲間を集めるために普段あまり話さない人にでもどんどん話し掛けていくことができます。

インタビューゲーム

「一番早く起きる人はだれ？」「クラスのみんなが好きなランチメニューは？」など，目的を持ってインタビューを行います。大勢が話している中で英語を発するので，あまり緊張することはありません。インタビューの目的を明らかにして行うことで，友だちに聞きたいという意欲を持って活動に取り組むことができます。また，「インタビューして探す」という目的があるため，いろいろな人に話し掛けようという意欲も膨らみます。

クイズ

指導者又は子どもが自分の作ったクイズを出し，他の子どもが答えていく活動です。３ヒントクイズやWho am I?クイズ等が代表的です。クイズを出す子どもは，友だちの前ではっきりとヒントを出さなければいけないため，緊張を伴う活動となりますが，クイズという要素を取り入れることで，友だちが自分の考えたクイズに答えてくれる喜びを感じることができます。

ショー・アンド・テル

実物や絵を見せながら(show)，自分の思いを伝える(tell)活動です。グループやクラス単位で行いますが，子どもにとっては，友だちの前で自分の思いを伝えるという場となります。友だちの前で堂々と発表をするのはかなり緊張しますが，言えたという思いは自己肯定感を育みます。言葉だけでなく実物を示しながら発表することは，お互いに安心感を与えることにもなります。

ロールプレイ

道案内や買い物など様々な場面を設定して行う活動です。相手に伝わればよいだけでなく，役割演技をすることで，場面に応じた表情やジェスチャーをつけていくことが求められます。相手や立場によって話し方を変えたり，表情などを工夫したりするため，お互いのよさを見付けることもできます。

3　クラスルーム・イングリッシュ

(1) クラスルーム・イングリッシュを使用することの意義

- 簡単で子どもがよく聞き慣れたクラスルーム・イングリッシュを繰り返し使うことで，英語を使ってコミュニケーションをしようとする雰囲気をつくることができます。
- 指導者が英語でALTとコミュニケーションをとろうとする姿を見せることは，子どもの英語で話す意欲を高めていくことになります。

(2) 効果的にクラスルーム・イングリッシュを使用するために

- 授業で使用する表現や簡単な指示などは英語で言いましょう。発音は気にすることはありません。
- クラスルーム・イングリッシュは，子どもが理解できるよう，短い言葉ではっきりと言うことが大切です。また，ジェスチャーやピクチャーカードなどは，子どもの理解を助けます。
- ALTに対して，分からないことは遠慮せずに聞き返したり確認したりするなど，実際のコミュニケーションを子どもに見せることを意識しましょう。２人が仲良く対等に会話をしている姿を見せることで，外国語や外国人が特別なものではないことに気付いていきます。
- まずは指導者が自信を持って言える言葉を使うことが大切です。毎時間使える表現を増やしていきましょう。

(3) クラスルーム・イングリッシュの例

ア　あいさつなど

1	皆さん，おはよう（こんにちは)。	Good morning (afternoon), class.
2	元気ですか。	How are you?
3	今日の授業は楽しかったですか。	Did you enjoy today's lesson?
4	今日はここまでです。	That's all for today.
5	楽しかったですね。	We had a very good time.
6	さようなら，また会いましょう。	See you soon.

イ　指示を出すために

1	立ちましょう。	Stand up, please.
2	座りましょう。	Sit down, please.
3	8ページを開いてください。	Please open your book to page 8.
4	グループ(円，列，ペア)をつくってください。	Make a group (a circle, a line, pairs).
5	ペア(グループ)でやってください。	Work in pairs (groups).
6	質問に答えてください。	Please answer the question.
7	想像して，あててみなさい。	Make a guess.
8	手を挙げなさい。	Raise your hand.
9	質問はありますか。	Any questions?
10	話をやめましょう。しずかにしましょう。	Stop talking. Be quiet.
11	私の言うことをよく聞いてください。	Please listen to me carefully.

12	顔を上げてください。	Please look up.
13	私の後について言ってみなさい。	Repeat after me.
14	英語で言ってください。	Say it in English, please.
15	もう一度言ってください。	Say it again, please.
16	もっと大きな声で言ってください。	Speak louder, please.
17	誰かやってくれませんか。	Any volunteers?
18	机の上にあるものをしまってください。	Clear your desk, please.
19	すべて机の中にしまいなさい。	Put everything in your desk.
20	準備はいいですか。	Are you ready?
21	準備，はじめ！	Ready, go!
22	あなたの番ですよ。	It's your turn.
23	時間切れ，終わりです。	Time is up.　Finish!
24	席に戻りましょう。	Please go back to your seat.

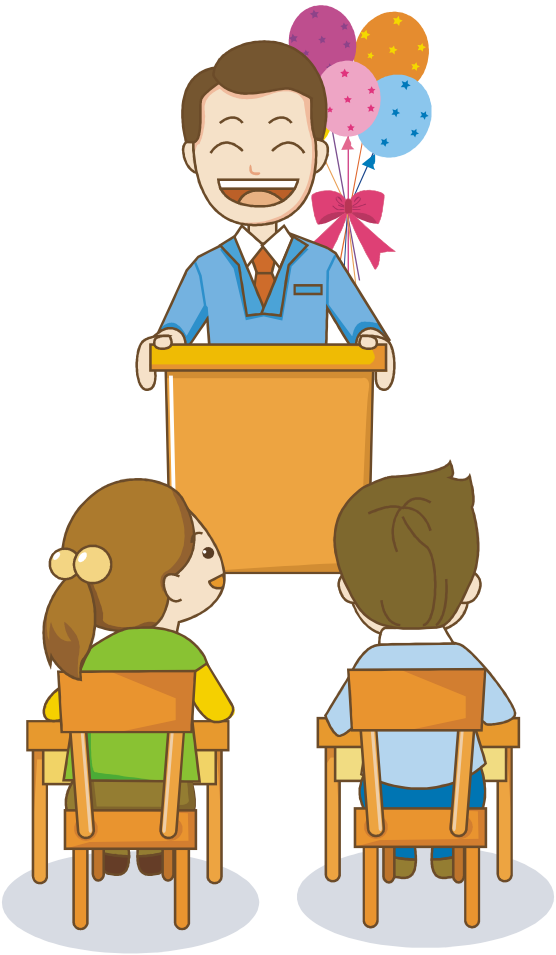
ウ　褒める，励ますなど

1	がんばったね。	Good job.
2	よくできたね。	Well done!
3	すばらしい。	Excellent!
4	すごいぞ。	Great!
5	いいよ。	OK.
6	それいいね。	Sounds great.
7	そのとおりです。	That's right.
8	おしい。	Close!
9	もう一度やってみよう。	Try again.
10	本当ですか。	Really?
11	大丈夫。	No problem.
12	心配しないで。	Don't worry.
13	気にしないでいいですよ。	Please don't worry about it.
14	はい，どうぞ。(ものを渡す時など)	Here you are.
15	わかりました。	I see.
16	もちろんいいですよ。	Sure.　(Yes, of course.)

エ　ALTと打ち合わせをする時の表現

1	私は6年1組の担任です。	I am the homeroom teacher of Class 1 in the sixth grade.
2	3時間目にティーム・ティーチングをします。	We will team-teach third period.
3	3時間目は10：30から始まります。	Third period starts at 10:30.
4	授業は50分です。	The class is 50 minutes.
5	これが今日の授業案です。	This is the lesson plan for today.

6	最初に5分くらい自己紹介をしてください。	First of all, would you introduce yourself for about 5 minutes?
7	次に，子どもに質問をしてください。	Next, please ask the students some questions.
8	子どもに繰り返させてください。	Please have the students repeat after you.
9	今日の授業はどうでしたか。	What did you think of today's class?
10	すみません。もう行かなければなりません。	Excuse me, but I have to go now.
11	それでは，また来週。	See you next week.
12	え，何とおっしゃいましたか。	Pardon?
13	ゆっくり話してください。	Please speak slowly.
14	～は英語で何と言いますか。	How do you say ～ in English?



４　カリキュラム開発

(1) 英語ノートの活用

ア　内容と構成

英語ノートは，学習指導要領に示された外国語活動の目標を達成するための，授業で用いる教材のモデルを示したものです。英語ノートの各単元は，子どもがコミュニケーションの楽しさを体験し，それを通して言語の大切さと表現を学び，外国と日本の文化の特性に気付くことができるように，「外国語の音声への慣れ親しみ」「コミュニケーションへの積極性」「言語・文化の体験を通した理解」の三要素をからめて構成されています。

「言語・文化の体験を通した理解」で大切なことは，「差異」だけに着目せず，「共通性」を認識させることです。言葉や文化は違っても人間は共通という考えを持ち，言葉や文化を身近に感じることになります。また，「外国語＝英語」(外国語は英語だけ)という短絡的な考えを持たせないように，英語ノートでは，英語圏以外の言語や生活習慣をいくつか紹介しています。

イ　英語ノートの活用例

子どもが自らの体験を通して言語や文化についての理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するためには，各学校の状況や子どもの興味・関心を考慮して，子どもが進んでコミュニケーションを図りたくなるような活動を提供することが必要です。

活動を追加したり，順番を入れ替えたりするといった工夫をした単元計画例を，以下に３つ紹介しますので参考にしてください。

(ｱ) 一人一人の子どもの学び方に配慮する

授業者には，全ての子どもが中心となるコミュニケーション活動に自信を持って参加できるように，スモールステップで活動を構成することが求められます。

⇒ P19～21「単元の構想」及びP74「英語ノートの活用例(1)」参照

(ｲ) 国際理解と子どもの興味・関心を結び付ける

外国の文化や習慣などに触れ，同時に日本の文化や習慣を改めて見直すことは，国際理解への第一歩となります。

英語ノート１「Lesson 9　ランチ・メニューをつくろう」の単元は，友だちの食べたいものを尋ね合い，グループでオリジナル・ランチ・セットを考え，紹介し合う，という流れになっていますが，このオリジナル・ランチ・セットのメニュー作りを，「国際交流パーティーを開くとしたらどんなメニューを考えるか」という課題に変えます。これにより，食べたいものを尋ね合う必然性が生まれ，外国の食文化への興味・関心が高められ，子どもの想像が膨らみます。

⇒ P75「英語ノートの活用例(2)」参照

(ｳ) 他教科・領域との関連を意識する

外国語活動以外の授業で学習したトピックを用いることで，子どもの実態により近づいた内容の活動を設定することができます。

小学校社会科では，世界の国々を扱う内容が示されています。第５学年では20か国程度の国名とその位置を扱います。さらに，第６学年では，「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子を調べる」という学習内容が示されています。これらの単元と英語ノートを関連させることで，子どもの伝えたい思いが一層高まっていきます。

⇒ P76「英語ノートの活用例(3)」参照

(2) 身近な事柄を題材とした活動例(静岡県ならではの内容)

外国語活動では外国の文化のみならず，我が国の文化を含めた様々な国や地域の生活，習慣，行事等を積極的に取り上げていくことが期待されます。その際には，子どもにとってわかりやすく馴染みある身近な題材を用いて，子どもの興味・関心を引き出すことが大切です。

77ページ以降に示す活動例は，身近な地域の題材を生かして考えた単元例であり，静岡県に関連の深い歌や物語を取り上げることで，静岡県について理解を深め，興味・関心を高めていくきっかけとなることをねらいとしています。

(3) 資料一覧

- 英語ノートの活用例(1)　英語ノート２「Lesson 3　友だちの誕生日を知ろう」　P74
- 英語ノートの活用例(2)　英語ノート１「Lesson 9　ランチ・メニューをつくろう」　P75
- 英語ノートの活用例(3)　英語ノート２「Lesson 6　行ってみたい国を紹介しよう」　P76
- 身近な事柄を題材とした活動例(1)　「平成版かぐや姫を劇で表現しよう」　P77
- 身近な事柄を題材とした活動例(2)　「私のふるさと」　P83

第４章

中学校外国語科（英語）

1　静岡県が中学校外国語科（英語）で目指すもの

(1) 育てたい子どもの姿

静岡県は，小学校で育てた子どもの姿に加え，子どもたちが英語の学習を通して，次のア～ウのように育つことを目指します。

ア　コミュニケーションの広がりや深まりを「魅力的」だと感じる子ども

中学校の英語の学習では，子どもが相手と様々なコミュニケーション活動を繰り返し行うことで，お互いをよりよく理解し，関係が深まっていくことが期待されます。教科書を通して間接的に，また直接の交流活動等を通して，コミュニケーションの対象が学級の外の世界にも広がっていくことになり，世界中の人や様々な出来事と関わり合いたいという意欲が高まるでしょう。子どもは，言葉を通してお互いの思いを理解し合えたり，教科書に出てくる主人公と共感できたりすることで，コミュニケーションの可能性に気付き，英語を学習し，多様な「人・もの・こと」とコミュニケーションを図ろうとするのです。

さらに自分とは異なる文化や生き方，考え方をしている人とのコミュニケーションを通して，子どもは，多様なものの見方や考え方に対して寛容になったり，互いの価値観を尊重したりする態度を身に付けるでしょう。これは，自国の文化や外国の文化を大切に思う機会となり，国際協調の精神の育成につながります。

「人・もの・こと」と豊かに関わるコミュニケーション活動を通して，寛容性や協調性を育み，コミュニケーションの広がりや深まりを「魅力的」だと感じる子どもを育てましょう。

イ　英語の基礎的な運用能力を発揮する子ども

中学校において，教科として英語を学習することにより，子どもは基礎的な英語の運用能力を身に付け，小学校の時には言いたくても言えなかったことを表現できたり，知りたいのに分からなかったことが理解できたりするようになります。

コミュニケーションが広がり，深まるにつれ，自分の思いを分かりやすく伝えたり，相手の言いたいことを正しく受け止めたりするには，文字や語彙，様々な表現の知識が必要であることに気付くでしょう。

豊かなコミュニケーションを展開するためにも，学んだ語彙や表現を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」のそれぞれにおいて活用し，４技能をバランスよく身に付け，場面に合わせて効果的に運用する力が必要です。

身に付けた英語の基礎的な運用能力を十分に発揮し，自分の思いを適切に伝え合うことができる子どもを育てましょう。

ウ　自ら学んでいくことができる子ども

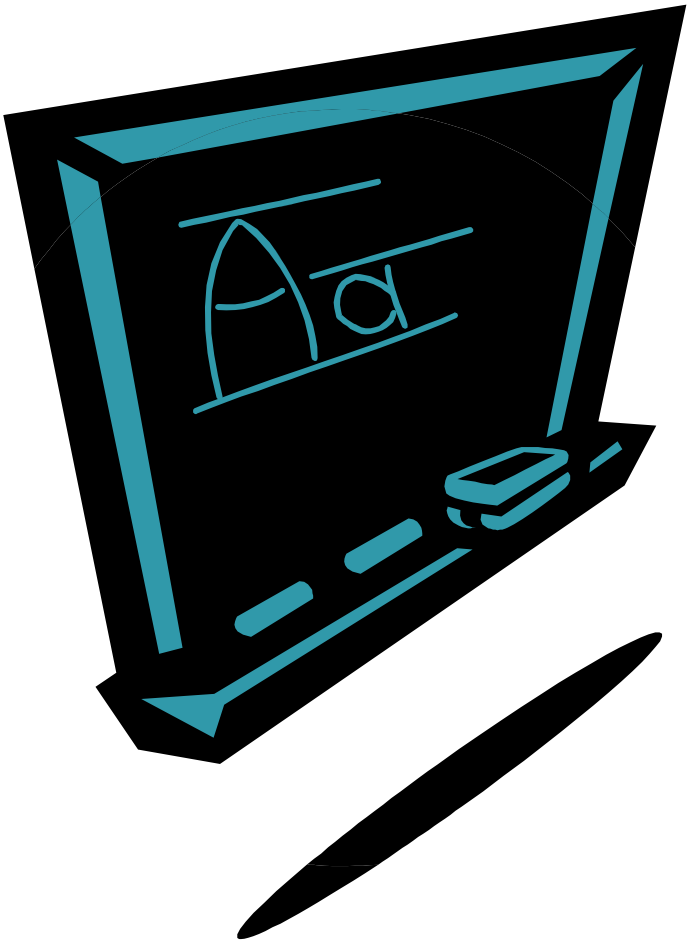
子どもは，英語の学習を通して「人・もの・こと」と関わることにより，多様なものの見方や考え方に触れ，「学ぶ」ことの魅力と必要性を理解します。

関わりの深まりが自分の成長につながることを実感した子どもは，分からないことや知りたいと思ったことをそのままにしないで，質問したり確認したりするでしょう。

また，英語によるコミュニケーションを通して得た成功体験は，子どもに自信を与え，答えや情報を求めて行動を起こしたり，自分の考えを発信したりすることのできる，主体的な学習者としての素地を育てる上で大いに役立ちます。

その結果，子どもは，他教科も含めて自発的に学習するようになり，その中で試行錯誤を繰り返しながら自分にあった学習方法を確立していくでしょう。

グローバル化の進展に伴う急速な社会の変化に対応して生きていくことができるよう，必要な知識や技能を自ら学ぼうとする姿勢を持ち，「学び方」を身に付けた子どもを育てましょう。



(2) 目指す授業

静岡県は子どもが前述のように育っていくために，外国語を用いて次のア～ウのような授業を目指します。

ア　コミュニケーションの楽しさを実感する授業

子どもがコミュニケーションの楽しさを実感できるよう，「伝えたい」「知りたい」という思いや意欲が高まる課題を設定しましょう。

そのためには，子どもの生活と結び付く場面や未知の世界と出会う場面において，相手と積極的に関わりながら，お互いの関係を深めていける活動に取り組ませる必要があります。

友だちについて新たな発見をしたり，自分らしさを十分に表現したりすることを通して，子どものコミュニケーションに対する期待感は，一層膨らんでいきます。同時に，言葉は，場面や状況があってこそ意味を伝えることが可能であることを体験的に理解するでしょう。

ここで言うコミュニケーションとは，直接的な交流に限られたものではありません。例えば，教科書を読む際に，子どもが主人公の生き方に心を揺さぶられ，自分と向き合い，自分の生き方を深く考えるとすれば，これも充実したコミュニケーションの一場面だと言えます。

子どもが言葉の機能や効果を実感し，人と主体的に関わる意欲を高めていけるように，場面や状況，対象，手だて，目的等を子どもの実態に合わせて適切に設定し，コミュニケーションの楽しさを味わうことのできる授業を目指しましょう。

イ　４技能の総合的な育成につながる授業

子どもの言語運用能力を高めるために，本時を通して付けたい力を明確にしましょう。その際には，学習内容や単元ごとのつながりを考慮し，４技能に軽重を付けて扱ったり，定着させたい言語材料を繰り返し扱ったりすることが大切です。

コミュニケーションの本質は「価値のある情報のやり取り」であり，「聞く」「読む」という「受けとめる活動」と，「話す」「書く」という「伝える活動」との有機的な組み合わせに，内容が伴って初めて，コミュニケーション活動と言えます。既習表現も使って，複数の技能を組み合わせ活用させる場面を設定し，まとまりのある深い内容のやり取りを行う中で，子どもの言語運用能力を伸ばしましょう。

４技能を総合的に育成するために，授業の中で子どもが触れる英語の量を十分に確保し，思考力・判断力・表現力等の育成を目指した具体的な言語活動を通して，子どもがコミュニケーションへの自信を深めることができる授業を目指しましょう。

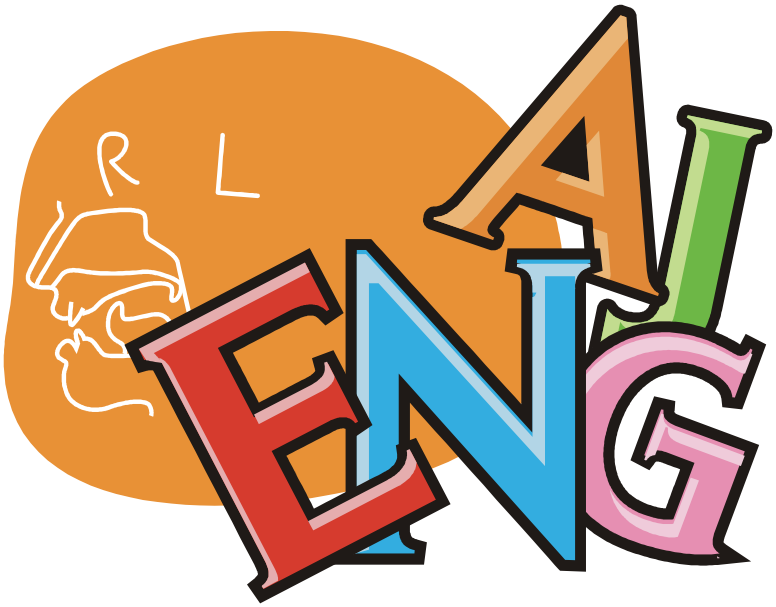
ウ　自律した学習者が育つ授業

「自律した学習者が育つ授業」であるためには，子どもが授業中に「主体的な学習」を経験し，その成果を「成功体験」として蓄積していく必要があります。その場面として，英語の授業は最適であると言えます。なぜなら，その中心が，言葉を通じて人とつながる喜びを体験するコミュニケーション活動であり，「成功体験」を味わう多くの機会を，子どもに提供できるからです。

コミュニケーションを成立させるためには，自分の能力を駆使し，様々な工夫を凝らす必要がありますが，このとき子どもは，まさに「主体的な学習」に取り組んでいます。また，努力の結果が，伝わった喜びに結び付くならば，それは「成功体験」そのものと言えます。英語の授業を通じて学びの成果を実感した子どもは，意欲的に次の学習へと向かっていくでしょう。

この「学びの実感」を家庭学習に結び付けるために，授業で学んだことが家庭学習に活き，家庭学習で学んだことが授業に還るという，スパイラルを確立することも大切です。自らの成長を確認し，自信をさらに深める機会を得ることで，子どもは学習の成果を一層実感するのです。

英語の授業を通じて，自律した学習者を育てましょう。



２　授業づくりに当たって

(1) 外国語活動とのつながり

外国語によるコミュニケーション活動を通じて「生きる力」の育成を図るには，校種間における指導の継続性が不可欠です。中学校で教科として英語を学び始める子どもたちが，外国語活動とのつながりを実感できるよう，外国語活動の指導方針，指導内容をきちんと理解しておきましょう。

ア　指導方針の継続性

外国語活動では，「コミュニケーション能力の素地」を育成し，人と関わることを魅力的だと感じる子どもを育てることを目指しています。子どもは，コミュニケーションの楽しさを実感する中で，言語や文化を体験的に理解します。

外国語活動を通して，コミュニケーションの成功体験を積み重ねてきた子どもは，満足感や達成感，自己肯定感を持ち，中学校での外国語学習に期待を持って入学してきます。中学校でも，生徒たちがこの思いを持ち続け，意欲的に学習に取り組むことができるよう，支援していくことが求められます。

子どもが，人と関わることを魅力的だと感じるためには，例えば，授業や単元の終わりに行うコミュニケーション活動において，誰もが最後まで相手との意思伝達を行い，やり切ったという成就感を持つことができるように指導することが大切です。正確さよりも，相互の意思疎通を重要視した言語活動を設定することが求められます。生徒が，自分の学習の進度と向き合いながらじっくりと伝えたい内容を考え，思いを膨らませ，「相手に意思が伝わった」「相手の思いが分かった」という成功体験を積み重ねていくことで，外国語を用いたコミュニケーションへの自信を持つことができるような授業を心掛けましょう。

イ　指導内容の継続性

英語ノートを利用した外国語活動を２年間行った場合，生徒は，500語近い英単語と自分のことを相手に伝える様々な英語表現に触れ，中学校に入学して来ることになります。小学校における外国語活動の成果を踏まえ，これを，中学校での英語学習への「のりしろ」として有効に活用するために，授業で行うコミュニケーション活動を意図的に取り入れましょう。

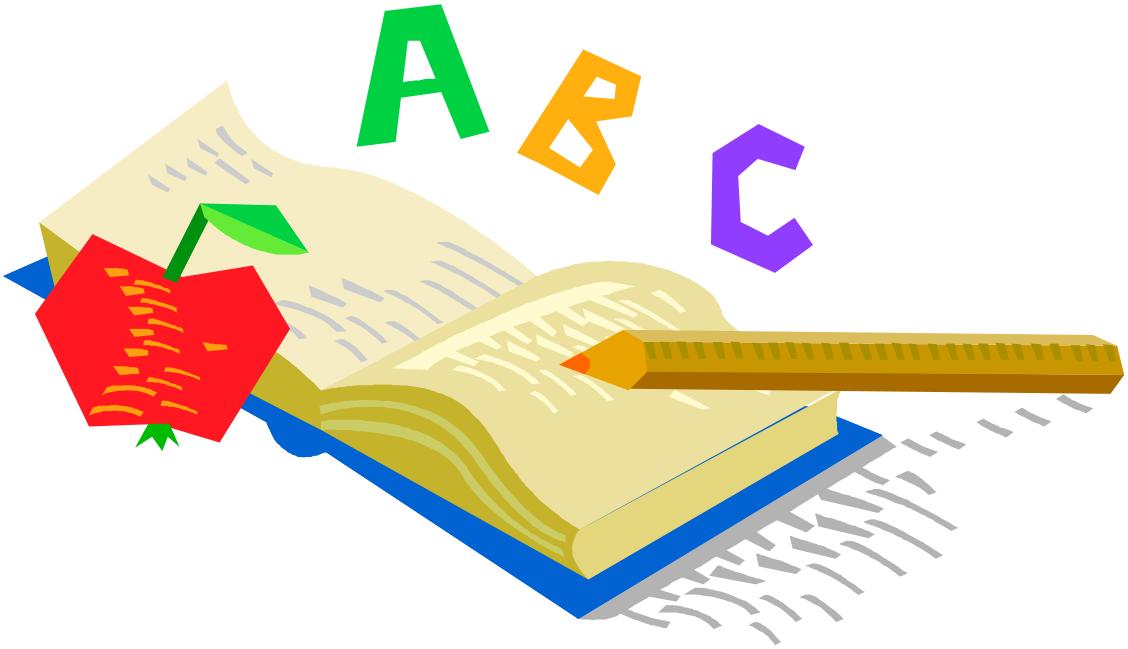
例えば，小学校卒業時に「自分の夢」についてスピーチを行った子どもの実態を捉え，小学校で扱った表現等を「自己紹介」の場面に取り入れた授業を中学校１年の１学期に行うなど，小学校から中学校への円滑な接続を図った活動を設定することは，大いに有効です。

中学校における英語学習がある程度進んだ段階においても、子どもが，小学校で慣れ親しんだ語彙や表現に繰り返し出会うことで，子どもの学びはより確かなものになります。身近な言語の使用場面や言語の働きを用いたコミュニケーション活動を行わせるために，ときには英語ノートを活用してみるのもよいでしょう。

ウ　文字の扱い

外国語活動におけるコミュニケーションでは，音声を手段とし，「伝えよう」「理解しよう」とする姿勢を大事にしています。文字は，音声によるコミュニケーションを補助するものであり，アルファベットの指導等に多くの時間を割くことはありません。

従って，中学校，特に接続期においては，文字の導入による子どもの混乱を避けるために，音声と文字のバランスに配慮することが必要となります。子どもが抵抗感を持つことなく，音声と文字の関係，綴りと発音の関係等が理解できるような指導を心掛けましょう。



(2) 年間指導計画

外国語科の学習指導要領では，３学年間を通して実現すべき目標が示されています。指導すべき内容についても学年ごとではなく，３学年間を通して示されているため，教師は３年間の見通しを持った上で授業に臨むことが必要となります。

ア　指導すべき内容

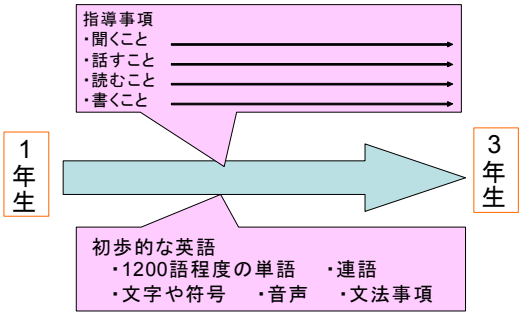
３学年間で指導すべき内容には，大きく分けて「言語活動における指導事項」「言語の使用場面や働き」「言語材料」の３つがあります。

外国語科の目標を受けて設定されている英語の目標には，「初歩的な英語」という文言が繰り返し用いられていますが，この「初歩的な英語」とは，以下のような言語材料のことを指しています。

音声	文字及び符号	語，連語及び慣用表現
◎現代の標準的な発音 ◎語と語の連結による音変化 ◎語，句，文における基本的な強勢 ◎文における基本的なイントネーション ◎文における基本的な区切り	◎アルファベットの活字体 ◎基本的な符号	◎1200語程度の単語 ◎連語 ◎慣用表現
文法事項		
◎単文，重文及び複文と，肯定文，否定文，疑問文，肯定及び否定の命令文　◎5種類の文構造と，There＋be動詞～，It＋be動詞＋～（＋for～）＋to不定詞，主語＋tell，wantなど＋目的語＋to不定詞　◎人称，指示，疑問，数量を表す代名詞と関係代名詞（主格のthat，which，who及び目的格のthat，whichの制限的用法）　◎現在形，過去形，現在進行形，過去進行形，現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現などの動詞の時制　◎形容詞及び副詞の比較変化　◎to不定詞　◎動名詞　◎現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法　◎受け身		

※中学校学習指導要領解説「②(③)言語材料」(P29～)参照

これらの初歩的な英語を用いて，「話し手や書き手の意向などを理解できるようにしたり，自分の考えなどを話したり書いたりできるようにする」ことが目標となります。そのためには，単にそれぞれの技能を用いた活動を行うのではなく，「２(1)言語活動」（中学校学習指導要領解説P９～）に示されている領域ごとの指導事項を意識して言語活動を充実させていくことが大切です。



【4領域の指導事項】

領域	指　導　事　項
聞くこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。 (ｲ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。 (ｳ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 (ｴ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。 (ｵ) まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。
話すこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。 (ｲ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ｳ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べあったりすること。 (ｴ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。 (ｵ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。
読むこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。 (ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。 (ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (ｴ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。 (ｵ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。
書くこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (ｲ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ｳ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。 (ｴ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。 (ｵ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

また，実際に言語活動を行う際には，以下のような使用場面や言語の働きを取り上げるようにします。

言語の使用場面の例	言語の働きの例
◎挨拶，自己紹介，電話での応答，買物，道案内，旅行，食事など，特有の表現がよく使われる場面 ◎家庭での生活，学校での学習や活動，地域の行事など生徒の身近な暮らしにかかわる場面	◎コミュニケーションを円滑にする ◎気持ちを伝える　◎情報を与える ◎考えや意図を伝える ◎相手の行動を促す

イ　年間指導計画

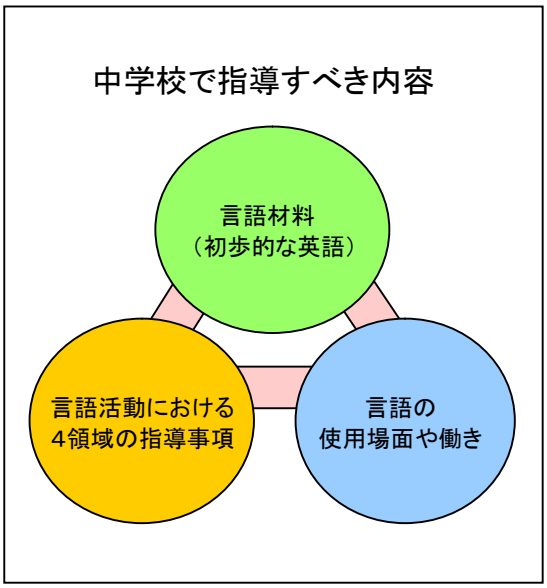
「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」という目標の達成には，

「初歩的な英語」を用いて，

「４領域の指導事項」を意識しながら，

「言語の使用場面や言語の働き」を取り上げ，

言語活動を充実させていくことが必要となります。



英語の教科書は，文法シラバスとなっているため，言語材料は計画的･系統的に学習されることとなります。言語の使用場面や言語の働きに関しては，教材に含まれていることもありますが，言語活動の場面設定等を行う際に，これらを取り上げるとよいでしょう。４領域の指導事項に関しては，指導者が意図的・計画的に指導していく必要があります。

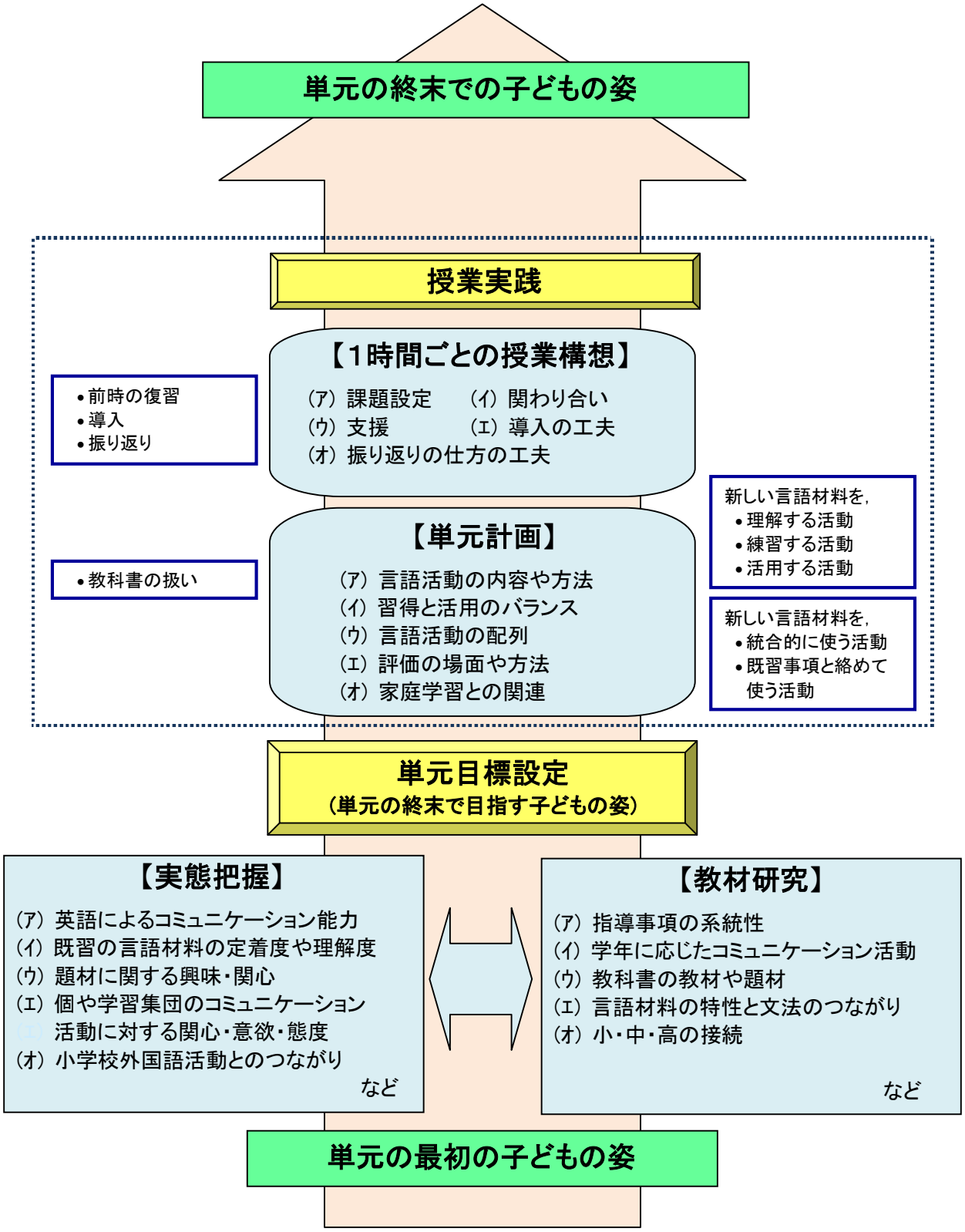
各学校において学年ごとの目標を適切に定め，４領域の活動のバランスや技能ごとの指導事項に配慮した年間指導計画を作成しましょう。

【年間指導計画の例】

単元	目標	言語材料	題材や教材の内容	主な学習活動	評価規準	評価の観点						
						関心・意欲・態度	表現			理解		知識・理解
							話す	読む	書く	聞く	読む	
L１	(1)・・ (2)・・(話ｳ) (3)・・(聞ｳ) (4)・・					○	◎			○		○
L２	(1)・・ (2)・・(書ｴ) (3)・・ (4)・・					○			◎	○		○

(3) 単元構想と１時間ごとの授業構想

新しい単元に入る際には，年間指導計画をもとに単元構想を行います。子どもの実態把握及び教材研究と合わせて単元目標を設定し，その目標に到達するための単元計画を立て，さらに１時間ごとの授業を構想していきます。



ア　実態把握

年間指導計画に基づいて単元目標や計画を考えていきますが，付けたい力を明確にし，子どもが主体的に学習に取り組んでいけるようにするためには，子どもの実態を把握することが必要となります。外国語科（英語）では，以下のような視点で実態を把握していきます。

(ｱ) 英語によるコミュニケーション能力

英語によるコミュニケーション能力については，４技能に関するそれぞれの実態を把握することが必要です。定期的に行うテストや，特に「話すこと」「聞くこと」に関しては，授業中の活動の様子を観察することで把握できます。４技能を総合的に育成していく観点から，得意な技能はさらに伸ばし，不十分な技能については意図的に手厚く指導しましょう。

(ｲ) 既習の言語材料の定着度や理解度

既習の言語材料の定着度や理解度についても，定期的に行うテストや授業中の見取り等で把握することができます。定着度や理解度が低い場合，本単元の文法事項と関連する内容については，まとまりのある文法事項として学び直しをします。また，本単元の言語活動の中にこれまでの言語材料をスパイラルに取り入れることで，定着を図っていきましょう。

(ｳ) 題材に関する興味・関心

題材については，中学校学習指導要領解説（P50）の中で，「英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし…」とあります。子どもの発達の段階，興味・関心について十分に配慮しつつ，英語の目標に照らして適切な題材を取り上げ，言語や文化に対する理解を深めていきましょう。

(ｴ) 個や学習集団のコミュニケーション活動に対する関心・意欲・態度

コミュニケーション活動に対する関心・意欲・態度は，子どもによって異なります。また，子どもたちが所属する学習集団の特性もまた，発達段階や，地域，人数等により異なってきます。それぞれの学習集団がどういったコミュニケーション活動を行うことが効果的であるのかを考慮することにより，豊かなコミュニケーション活動が円滑に展開されていきます。

(ｵ) 小学校外国語活動とのつながり

学習指導要領の改訂により，小学校に外国語活動が導入されたことから，特に音声面でのコミュニケーション能力の素地が育成されてくることが期待されます。子どもたちが在籍していた小学校での外国語活動を参観したり，特に１年生の英語学習

外国語活動の成果
（平成22年度中核教員研修参加教員アンケートより）
- 英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしている。
- 「伝えよう」という気持ちや態度が育ってきた。
- コミュニケーションを楽しみ，思いを伝えられるようになった。
- ALTに慣れて進んで接している。
- ALTの話が分かるようになってきた。

の導入段階で音声によるコミュニケーションを積極的に取り入れたりすることで，子どもたちの音声面でのコミュニケーション能力を把握します。音声によるコミュニケーションにどれくらい慣れ親しんでいるのかを的確に把握することで，小学校での外国語活動の成果が中学校の外国語科において生かされてきます。

イ　教材研究

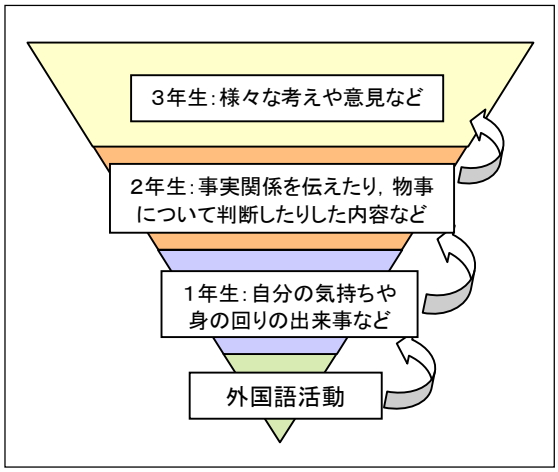
外国語科（英語）の教材研究としては，教科書の教材や単元で扱う言語材料が挙げられます。それに加え，適切な単元目標と単元計画を考えていく上で，３学年間の学びの見通しについても考える必要があります。付けたい力を明確にし，子どもに英語の運用能力を確実に身に付けさせていくために，教師は，以下のような視点で，教材研究を行うことが必要となります。

(ｱ) 指導事項の系統性

43ページの「４領域の指導事項」については，学年ごとに示すのではなく，３学年間を通して一括して示すことで，教師が創意工夫をしやすい構成としています。年間指導計画に基づいて，本単元で重点的に扱う領域を確認し，どの指導事項で扱うかについても明確にする必要があります。さらに，各指導事項についても学年の学習段階に応じて扱い方が異なってきます。これらを明確にすることで，付けたい力が焦点化され，どのような言語活動を行えばよいかが明らかになってきます。

(ｲ) 学年に応じたコミュニケーション活動

中学校学習指導要領解説（P28）には，各学年の指導における配慮事項が示されています。これは，コミュニケーションを図れるような話題を，各学年の学習段階に応じて取り上げるよう求めたものです。習得している言語材料やコミュニケーション能力の発達の段階も異なりますから，１年生と３年生では同じような言語活動にはなりません。現段階で，どのようなコミュニケーション活動ができるようにしたいのか見極める必要があります。



(ｳ) 教科書の教材や題材

教科書の教材の内容には，異文化や日本文化，世界平和等，様々なメッセージが込められています。それらのメッセージを子どもたちが理解し，表現していくためには，どのような言語活動を行うことがよいかを考えていくことが必要です。単に教科書の文を理解することにとどまらず，その題材について考えたり表現活動を行ったりすることで，教材に命を吹き込みます。教材の中の人物と対話したり内容について深く考えたりすることで，題材によっては，自分の生き方についても見つめ直していく機会にもなります。そのためには，まず教材のメッセージを教師が的確に捉え，教材について深く理解することで，知的な側面における発達の段階に応じた言語活動が考えられます。

(ｴ) 言語材料の特性と文法のつながり

本単元で学習する文法や単語などの言語材料は，日常生活の中で，どういった場面やテーマで使用されるかについて考えることが必要です。自然に，かつ何度も使用できるような言語活動を設定することで，日常生活と結び付けながら，子ども自らが表現内容を考え，言語材料の定着を図ることができます。

また，文法のつながりについては，中学校学習指導要領解説(P46)に「英語の特質を理解させるために，関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること。」とあります。既習の文法との関連を整理し，言語活動にも生かしていくことで，定着が一層図られていきます。

(ｵ) 小・中・高の接続

本単元で扱う言語材料が，小学校の外国語活動でどのように使われていたかを把握することで，外国語活動で育まれたコミュニケーション能力の素地を生かすことができます。特に１年生の英語学習導入時には，英語ノートで扱われている活動を取り入れたり，少し変えて行ったりすることで，子どもは安心して活動に取り組むことができます。さらに，高等学校での表現方法の広がりを見通すことで，中学校段階で学習すべき内容が明らかとなります。

ウ　単元目標

年間指導計画に基づき，子どもの実態把握と教材研究を行いながら，単元の目標と，その目標に到達するための言語活動を考えていきます。その際，どの技能のどんな力を付けたいのかについて明確にすることが大切です。また，具体的な活動を想定し，以下の評価の観点に即した評価規準を明確にしておくことが必要です。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

（評価については，補足資料５を参照）

どの単元においても４領域の活動は行いますが，３学年間を通じて４技能をバランスよく育成することから，単元によって，重点となる技能を絞ることが効果的です。

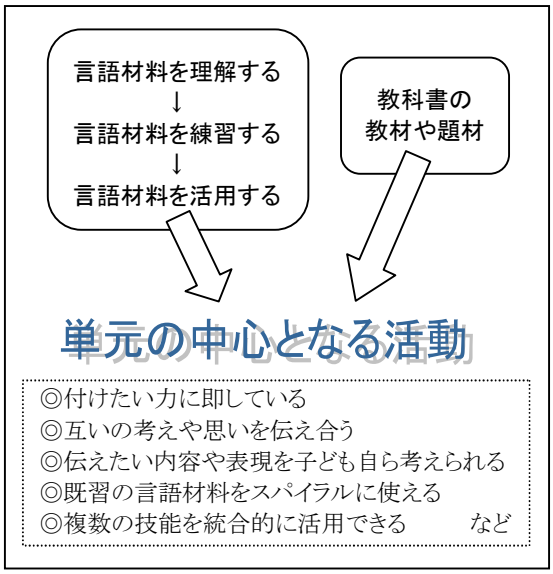
エ　単元計画

授業では，新しい言語材料を理解し練習する活動（習得）と，さらにそれを用いて互いの考えや意見を伝え合う活動（活用）があります。また，教科書の内容理解や，活動に向けての導入，振り返り，言語材料の復習やウォームアップ，ドリル的な活動等も考えられます。これらの様々な言語活動を以下のようなことに考慮しながら，単元計画を立てていきます。

単元目標に到達するための具体的な単元の流れを考えることで，１時間ごとの授業が単発的にならず，子どもは次時の授業へ気持ちをつなぎ，主体的に取り組んでいくことができます。

(ｱ) 言語活動の内容や方法

最初に，本単元で身に付けさせたい力を身に付けた子どもの姿をイメージして，単元の中心となる活動を設定します。単元の中心となる活動は、「読むこと」に重点をおいた単元を除いて、互いの考えや思いを伝え合う活動となります。



互いの考えや思いを伝え合う活動においては、子どもの「伝えたい」という意欲が高まるよう，伝える内容を子ども自らが考え，それにふさわしい表現方法を子ども自ら選択できるような課題にします。その中で，既習の言語材料をスパイラルに使用したり，４技能を統合的に活用したりすることで，定着が図られます。より豊かに表現するために，辞書を適宜活用することも必要でしょう。

また，互いの考えや思いを伝え合うことに対する心理的なハードルを下げ，一人一人が伝える立場となる機会を十分に持つことが可能となるよう，ペアワークやグループワークなどの学習形態を効果的に取り入れることも考えられます。

中心となる活動に至る過程での言語活動においても，子どもが自信と意欲を持って取り組めることを念頭に内容や方法を決定し，費やす時間や触れる英語の量を十分に確保することが重要です。

(ｲ) 習得と活用のバランス

言語活動の内容や方法を考える際，習得と活用のバランスについて配慮する必要があります。新しい言語材料を知り，理解した後，すぐに活用させていくことは子どもにとっては難しいことです。同じ表現を，方法を変えて繰り返し練習したり，単語を置き換えて言ったり書いたりするなど，４技能を通じて新しい言語材料に慣れ親しませていくことは，その後のコミュニケーション活動をより豊かにしていくためにも必要なことです。

さらに，習得した言語材料を場面に応じて使う活動や，既習の言語材料と合わせて活用していく活動を取り入れることで，言語材料の定着と，コミュニケーション能力の育成が図られていきます。

(ｳ) 言語活動の配列

言語活動を配列していく際，子どもの学びや思いの流れを考慮することが大切です。主な文法事項を単元の最初や途中でまとめて扱うことが効果的な場合と，１つずつ扱うことが効果的な場合とがあります。また，教科書を扱った言語活動も効果的に取り入れる必要がありますが，物語など教材の内容によっては，できるだけ続けて読みたいものもあります。これらの言語活動を配列していく際，文法事項や教材の特徴によって工夫していくとよいでしょう。

なお，教科書を扱う際には，基本的に「聞くこと」と「読むこと」の２つの領域の活動が考えられますが，付けたい力によって教科書の扱いも変わってきます。例えば，本文を理解する場合，質問をあらかじめ与え，ポイントを絞って聞いたり読んだりする方法や，あらかじめポイントを絞らず要点や概要をつかむ方法などが考えられます。また，音読により表現する活動にも効果的に使うことができます。教材の特徴や学習の段階に応じて工夫していくとよいでしょう。

【言語活動の配列の例】

教科書本文の理解と，新しい言語材料の習得・活用を，並行して行う場合

時	主な活動	
1	●(1)の本文理解【聞くこと】 ●役割に分かれて本文音読【読むこと】	習得
2	●(1)(2)の文法事項を習得するための活動とQA活動【話すこと】 ●(2)の本文理解【聞くこと】	
3	●(1)(2)の文法事項を活用するコミュニケーション活動【話すこと，書くこと】	活用
4	●(3)の本文理解【聞くこと】 ●(3)の文法事項を習得するための活動 ●役割に分かれて本文音読【読むこと】	習得
5	●(1)～(3)の文法事項が活用されるようなスキット作り（単元の中心となる活動）【書くこと】	活用
6	●スキットの発表【話すこと】 ●確認小テスト	

教科書本文の理解と，新しい言語材料の習得・活用を，それぞれまとめて行う場合

時	主な活動	
1	●(1)～(3)の文法事項を習得するための活動【書くこと】	習得
2	●(1)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【書くこと】	習得・活用
3	●(2)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【話すこと】	
4	●(3)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【書くこと】	
5	●(1)(2)の本文理解【読むこと】 ●本文の内容に関連した表現活動【書くこと】	
6	●(3)の本文理解【読むこと】 ●本文の内容に関連した表現活動【書くこと】	
7	●単元の題材に関連した表現活動（単元の中心となる活動）【書くこと】	活用
8	●書いた文を互いに読み合う活動【読むこと】 ●確認小テスト	

＊(1)～(3)は，単元の中の区切り（セクション，パート等）をあらわす。

(ｴ) 評価の場面や方法

単元の中で行う活動をすべて評価するのではなく，評価規準に即しながら，ポイントを絞って評価していくことで，評価がより客観性と妥当性を持ったものになります。単元計画を考える際に，評価の場面や方法をあらかじめ構想しておくことで，子どもの見取りが的確に行われます。さらに，単元を見通した支援を構想することもできます。

(ｵ) 家庭学習との関連

家庭学習を授業内容と連動させることは，意欲的に家庭学習に取り組むことにもつながります。家庭学習の方法を指導し，習慣付けることは，生涯にわたって英語学習をしていくための基盤ともなります。

オ　１時間ごとの授業構想

単元目標と関連付けて１時間の授業の目標を設定し，授業展開を考えていきます。本時の目標を設定する際にも，評価の観点を意識することで，付けたい力が明確になります。また，本時の目標に到達したのか確認する場面（評価の場面）を授業の中で位置付けておくことも必要です。

本時の展開を考える際にも，教材研究や実態把握を行いますが，子どもが「伝えたい」「知りたい」などのような思いを持ち，それを継続させながら主体的に学んでいくための手だてを講じることで，子どもは学びの実感を積み重ねていくことができます。

(ｱ) 課題設定

まず，単元計画と本時の目標に基づいて，本時の課題を設定します。本時の目標の到達に向かうものであると同時に，子どもが主体的に取り組めるような課題にすることが大切です。

次に，活動の内容や方法を考えます。その際，ワークシートを埋めていくだけの作業的なものとならず，子どもができるだけ頭を働かせ，目，耳，口，手などを使わせるよう心掛けましょう。そうすることで，言語活動を行うことを通して，思考力・判断力・表現力等も養うことができます。そのためには，子どもができるだけ多くの英語に触れられるようにすることが必要です。日常生活で英語を使うことがほとんどない日本の社会においては，授業が英語を使ってコミュニケーションを行う大切な場なのです。

(ｲ) 関わり合い

様々な言語活動を行う際には，子ども同士の関わり合いを活かす工夫を行いましょう。外国語科の中での言語の役割は，コミュニケーションのツールとしての役割が大半を占めます。コミュニケーションのツールとして，４つの技能を駆使して関わり合うことで，英語もお互いの思いを伝え合う大切な言葉であることを実感します。また，よりよい表現方法を見つけたり，より理解を深めたり，学習意欲を継続させたりするためにも，子ども同士の関わり合いは不可欠です。

(ｳ) 支援

言語活動を考える際には，同時にどこで子どもがつまづくかを予想し，適切な支援を構想しておくことが必要です。言語活動に対する意欲やコミュニケーション能力に差があるのは当然です。授業中は，本時の目標に照らして一人一人を見取り，支援をしていきますが，構想の段階で支援について考えておくことで，子どもを見取る視点が明らかとなります。教師の細やかな支援や共感により，子どもは導入段階で持った意欲を継続し，本時の目標に迫っていくことができます。

(ｴ) 導入の工夫

本時の課題への導入を考えます。本時の課題の内容を知り，それに向けての意欲付けの時間として重要な役割があります。「自分だったらこんなことを表現したい。」「自分だったらこんなことを聞いてみたい。」などのような思いを持たせることで，主体的に学んでいくことができます。ここで，ALTの協力を得たり，ICTを使ったりするのも効果的です。

（オ）振り返りの仕方の工夫

授業の終末では，振り返りを行います。本時の目標に照らして振り返りの仕方を工夫しましょう。例えば，新出文法事項の理解が目標である場合には，文を幾つか書いてみることで，理解の確認をすることができます。書く力を伸ばすことが目標である場合には，課題に即して自分の書いた英文を読み返すことによって，自分の書く力を確認することができます。話す力を伸ばすことが目標である場合には，自分の話した内容を書いてみることで，自分が正しく話せていたのかどうかを確認することができます。これらは，子どもが自己評価すると同時に，本時の目標への到達状況を見取る場面ともなります。

これらの様々な視点を考慮しながら，年間指導計画に基づいて，授業を構想していきます。これらの視点以外にも，学校教育目標や研修テーマは，各学校の子どもの実態に基づいて設定されたものであるため，単元計画や授業展開を考える上で，課題の設定や授業の形態，動機付け，振り返り等における工夫も必要です。

また，授業実践の途中で子どもの実態を見ながら単元計画を変更していくことも必要です。

(4) 言語活動を充実させていくために

言語活動の在り方について，先のページで簡単に触れましたが，言語活動の内容を充実させていくためのポイントを補足しておきます。

授業中に行う言語活動を，英語の目標の達成に結び付けるためには，それぞれの言語活動の目的や意味を明確にしておかなければなりません。そのためには，子どもにどんな姿で活動してほしいのかを具体的にイメージしておくことが必要です。このイメージがあるからこそ評価規準を適切に設定することが可能となり，言語活動の内容や方法を適切に設定することが可能となるのです。

これに加え，領域ごとに留意すべき点もあります。

「聞くこと」では，音声のみで伝えられる情報でも正確または適切に理解できる手だてを講じる必要があります。例えばまとまりのある英文を聞かせる場合には，あらかじめヒントとなるような情報を与えておいたり，聞き取りのポイントを示したりすることで，聞くことに集中させることができます。

「話すこと」では，文字に頼らずに情報や思いを伝えることに挑戦できるだけの自信を与えることと，相手に伝えたいと思えるような価値ある情報を持たせることが必要となります。まずはマッピング等により伝えるべき内容，受けとめるべき内容を具体的に示し，伝えたいという思いをふくらめましょう。その上で，それを伝えるための表現を繰り返し練習させ，十分に慣れ親しませた上で，話す活動を行います。また，安心して発話するための形態等の工夫も必要です。

「読むこと」では，単なる英文和訳で終わるのではなく，話の内容がイメージ化できるような工夫が必要となります。物語なら，登場人物や話の背景を事前に説明することで物語の流れをつかみやすくしたり，形容詞や副詞に注目させることで登場人物の心情を理解する手助けをしたりすることができるでしょう。説明的な文章なら，全体の構成や段落間の関係を把握し，各段落の重要な部分を見つけていくことで，ポイントとなる情報を落とさずに読み進めていくことが可能となります。人物について書かれた文章は，登場人物への共感を持って読ませることで，自分のことを振り返る機会となるでしょう。

「書くこと」では，書き直したり吟味したりすることで，よりよい作品に仕上げることが大切です。その際，改善のための視点をきちんと示すことができるかどうかで，活動の効果は大きく左右されます。例えば，正確な文を書くことが目的なら，その授業で正しく使わせたい文法事項をきちんと伝えます。まとまりのある文を書かせたいなら，接続詞の効果的な使用や，相手にとって分かりやすい段落構成を意識させます。

以上をもとに，学年の学習段階や子どもの実態に合わせた言語活動を設定します。

(5) 効果的なコミュニケーション活動づくり

ア　学習指導要領との関係

授業づくりにあたっての使いやすさを考慮して，学習指導要領では４領域ごとに示されている言語活動の指導事項を，媒体と活動内容により再分類しました。（下記「一覧」，次ページ「対応表」参照）

(ｱ) 媒体

「聞くこと」「話すこと」を「音声」に，「読むこと」「書くこと」を「文字」に集約しました。ただし，「読むこと」の(ｲ)については，前半を「文字」，後半を「音声」とします。

(ｲ) 活動内容

場面設定やメッセージのやり取りが必ずしも必要でないものを「基礎練習」，それ以外を「コミュニケーション活動」としました。結果的に，各領域(ｱ)の項目と「基礎練習」が一致することになりました。

(ｳ) コミュニケーション活動

各領域の指導事項(ｲ)～(ｵ)を，「受けとめる（外国語理解）」「伝える（外国語表現）」に振り分けました。なお，「読むこと」の(ｲ)については，前半を「受けとめる」，後半を「伝える」に分割しています。

【一覧】

媒体	活動内容		
	基礎練習	コミュニケーション活動	
		受けとめる(外国語理解の能力)	伝える(外国語表現の能力)
音声	• 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取り，発音すること。 【聞く(ｱ)】【話す(ｱ)】	• 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。【聞く(ｲ)】 • 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。【聞く(ｳ)】 • 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。【聞く(ｴ)】 • まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。【聞く(ｵ)】	• 書かれた内容が表現されるように音読すること。【読む(ｲ)後半】 • 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。【話す(ｲ)】 • 聞いたり読んだりしたことについて，質問したり意見を述べあったりすること。【話す(ｳ)】 • つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。【話す(ｴ)】 • 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。【話す(ｵ)】
文字	• 文字や符号を識別し，正しく読み，語と語の区切りなどに注意して書くこと。 【読む(ｱ)】【書く(ｱ)】	• 書かれた内容を考えながら黙読すること。【読む(ｲ)前半】 • 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。【読む(ｳ)】 • 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解して適切に応じること。【読む(ｴ)】 • 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，描かれた内容や考え方などをとらえること。【読む(ｵ)】	• 語と語のつながりなどに注意して正しく文章を書くこと。【書く(ｲ)】 • 読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。【書く(ｳ)】 • 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。【書く(ｴ)】 • 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。【書く(ｵ)】

【対応表】

学習指導要領			授業づくり指針
領域	指導事項		技能(媒体)
聞くこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。		受けとめる・音声
	(ｳ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。		
	(ｴ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。	⇒	
	(ｵ) まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。		
話すこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。		伝える・音声
	(ｳ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べあったりすること。		
	(ｴ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。	⇒	
	(ｵ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。		
読むこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，	⇒	受けとめる・文字
	その内容が表現されるように音読すること。	⇒	伝える・音声
	(ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。		受けとめる・文字
	(ｴ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。		
	(ｵ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。	⇒	
書くこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して書くこと。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。		伝える・文字
	(ｳ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。		
	(ｴ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。	⇒	
	(ｵ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。		

イ　レベル・コントロール

コミュニケーション活動については，次の２つの尺度を用いて難易度を調整します。授業の際の生徒の様子に応じて難易度が調整できるよう，複数のパターンを用意しておきましょう。

(ｱ) closed ― open

受けとめ・伝えるべき内容やその目的など，何をすればよいかが具体的に示されている場合をclosed，漠然としている場合をopenと捉えます。openの度合いが強まるほど，難易度も高くなります。

(例) 駅で流される列車の遅延情報を聞き，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を知る。

closed		open
駅で流される列車の遅延情報から，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を聞き取ろう。	駅で流されるアナウンスから，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を聞き取ろう。	駅で流されるアナウンスを聞いて，概要をまとめよう。	英文を聞いて，概要をまとめよう。

（ｲ）prepared — impromptu

受けとめ・伝える際に，十分な準備が可能な状況をprepared，即時的対応が必要な状況をimpromptuと捉えます。impromptuの度合いが強まるほど，難易度も高くなります。

（例）自己紹介をする。

prepared

原稿を作成し，それを基にスピーチする。
要点メモを作成し，それを基にスピーチする。
紹介する項目のリストを作成し，それを基にスピーチする。
要求された項目について，その場でスピーチする。

impromptu

ウ　効果的なコミュニケーション活動の実例

コミュニケーション活動の具体例及びレベル・コントロールの手法（一部）を示しました。

（ｱ）受けとめる（外国語理解の能力）

【活動例１】ミッション・ポシブル

◎指示を聞き取って（指令書を読み取って），そのとおりに行動する。

prepared

closed

指示のとおり行動する。 Open the window.	指示された状況に対応する。 It's really hot in this room.

open

impromptu

※聞き取って（読み取って）すぐ行動するため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例２】犯人を捜せ

◎複数の容疑者の昨夜の行動を聞き（読み），強盗犯を割り出す。

prepared

closed

「強盗事件容疑者のアリバイ証言から，犯人を特定せよ。」	「話を聞いて，条件に合う人物を選べ。」

open

impromptu

※行動を聞きながら（読みながら）犯人を捜すので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例３】どっちで買いまshow?

◎２つのスーパーの売り出し広告を比較し，自分がつくりたいメニューの材料を買うにはどちらに行ったらよいかを考える。

prepared

closed

メニューは事前に決め，必要な材料をピックアップしておく。	広告を見て，メニューを決める。

open

impromptu

【活動例４】天気予報マップをつくろう！

◎世界の天気予報を聞き，お天気マップを作る。

prepared

closed

言及のある国・地域や 聞き取るべき項目を具体的に示す。 空所補充式の記入用マップを配布する。	言及のある国・地域や 聞き取るべき項目は示さない。 白地図に記入させる。

open

impromptu

※天気予報を聞きながらマップをつくるので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例５】これは何のコマーシャル？

◎コマーシャルを聴き（広告を読み），それが何を宣伝しているのか当てる。

（例）　This is a very exciting news for you.　We use very fresh potatoes and we fry them with nice oil.　We have new flavor “Pizza taste.” You should try this!!　If you eat this, you’ll be so happy!　（potato chips ／ ポテトチップ）

prepared

closed

どんな食べ物のCMかを 当てる。	何のCMかを 当てる。	何について話しているかを 当てる。

open

impromptu

※コマーシャルを聞きながら推測するので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例６】information gap

◎「自分に必要な情報を相手が知っている」という状況を設定し，必要な情報を集める。
３人で行うなら，生徒Ａの必要な情報を生徒Ｂと生徒Ｃに振り分ける。

（例）３人の場合　Ａ：Who is the girl with long curly hair?
Ｂ：I don’t know. How about you, C?
Ｃ：Oh, she is Mary.

prepared

closed

誰が何を知っているかを明らかにする。	誰が何を知っているかを伏せておく。

open

impromptu

※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例７】jumble story

◎教科書の本文や物語などが分割された一部を持ち合い，お互いの持っている部分について情報を交換しながら，話を元通りに再現する。

prepared

closed

最初，最後，n番目など， 一部を明かしておく。	ノーヒントで実施する。

open

impromptu

※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例８】登場人物事典作り・登場人物クイズ

①物語などを読んで，登場人物ごとの情報をまとめる。

prepared

closed

登場人物名，紹介すべき事項が示された 記入用ワークシートを用意する。	紹介する人物，紹介する項目を 自分で決定させる。

open

impromptu

※読みながら情報をまとめるため，必然的にimpromptuな状況となる。

②物語の登場人物について質問し，答えとなる英文を見付ける。
③ある登場人物の描写を聞き（読み），それが誰かを当てる。

（ｲ）伝える（外国語表現の能力）

【活動例１】めざせ！なりきり名人

◎教科書の本文を，友達同士で役を決め，登場人物になりきって，感情を込めたり，場面や状況にふさわしい声色で読む。

prepared

closed

モデル・リーディング（CDなど）を忠実に再現する。	自分の解釈に基づき自由に脚色する。

open

impromptu

※音読の際に繰り返し練習を重ねるため，結果的にpreparedの状況となる。

【活動例２】自己紹介

◎名前，住んでいるところ，家族，所属クラブ，誕生日，好きなものなどを含めて簡単な自己紹介を行う。

prepared

closed

スピーチ原稿を用意して話す。
要点メモを用意して話す。
トピックリストを用意して話す。
要求された項目について，その場で話す。

open

impromptu

※自己紹介の内容に「自分の好きなもの」を含めるので，openな活動となる。

【活動例３】〇〇さんを紹介します

◎友だちや先生，ALTにインタビューし，その人を紹介する。

prepared

closed

インタビューの相手，質問項目を指定する。	相手，質問項目は，自分で決める。

open

impromptu

【活動例４】私はだあれ？

◎３つのヒントを聞いて（読んで），それが何であるかを当てるクイズを行う。

（例）答えがbananaの場合　1) I'm a fruit.　2) I'm yellow.　3) I'm long.
（例）同，発展編　1) I'm from a southern island.
2) Monkeys like me.
3) You ate me yesterday at lunch time.

prepared

closed

事前に作成した問題を出題する。
ジャンルごとに出題する。
ノンセクションで出題する。
その場でヒントを考案する。

open

impromptu

【活動例５】サークルのメンバー集め

◎I like …. / Do you like ...? / What …do you like?などの文を使って，同じ趣味の人を探し，サークルを作る。

prepared

closed

どんなサークルを作りたいかを事前に調査し，一覧にしておく。
作りたいサークルは自分で決め，事前には明かさない。

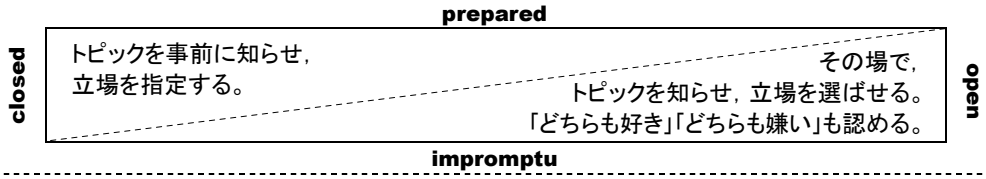
open

impromptu

【活動例６】どっちが好き？

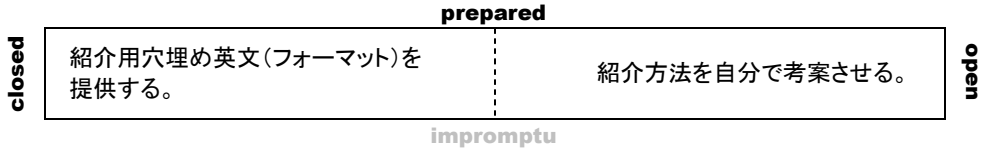
◎比較しやすく，中学生の体験や語彙力にあった２つのものを対象に，どちらが好きかを理由や例を挙げながら話す。（例）夏vs冬

◎I like both.やI don't like either.といった，生徒の気持ちを大切にした言い方の導入も心掛ける。



【活動例７】My treasure

◎自分の大切なものを，実物や絵，写真などを用いたり，実演を入れたりなど工夫しながら，相手にわかりやすく紹介する。（show & tell）

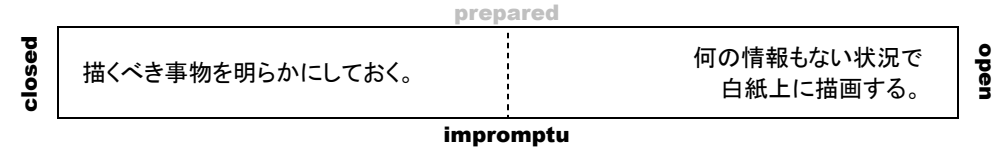


※十分な時間をかけて準備するため，preparedの状況となる。

【活動例８】ピクチャー・テリング

◎絵に表された内容を相手が英語で伝えてくるのを聞き，絵を再現する。

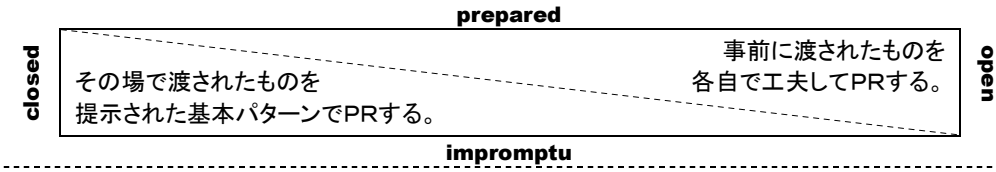
◎分からないときは確認するために質問する。



※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

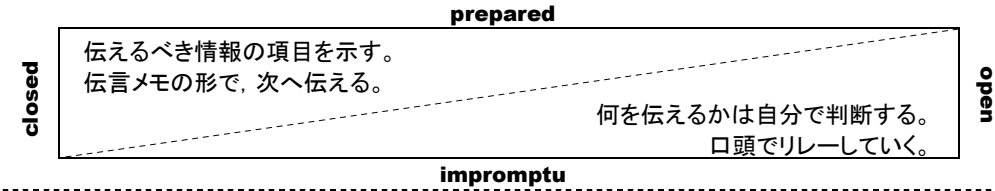
【活動例９】テレビ（ラジオ）・ショッピング

◎英字新聞や海外のパンフレットに載っている商品や広告など，値段が付いているものを利用し，その商品を買ってもらえるよう，特徴や優れた点などをＰＲする。



【活動例10】伝言ゲーム

◎「連絡網で電話がかかってきた」という設定で，話を聞きながら大切なポイントをメモし，次の人に伝える。



【活動例11】お話リレー

◎書き出しの英文に１文ずつ付け足して，話を展開していく。

prepared

closed

エンディングを指定する。	一切制限しない。

open

impromptu

※この活動に関しては，closedの方が難易度は高くなる。
※その場で書き足すため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例12】桃太郎エピソードⅡ／桃太郎外伝

◎有名な話の続編や，登場人物・設定等を変えた番外編を創作する。

prepared

closed

基となる話を指定する。	基となる話も自由に選ぶ。

open

impromptu

※十分な時間をかけて創作に当たるため，preparedな活動となる。

(6) 文法事項を効果的に指導するための言語活動

ア　文法指導と言語活動の効果的な関連付け

文法事項の取扱いについては，中学校学習指導要領「２内容 (4)言語材料の取扱い」に，「言語活動と効果的に関連付けて指導すること」「用語と用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し，実際に活用できるように指導すること」と述べられています。

しかしながら，教育課程実施状況調査等からも，「英語の基本的な知識はある程度身に付いているものの，その知識を活用して自分の気持ちや考えを発信する力が付いていない」という実態が明らかになっています。

文法事項の説明に多くの時間を割くことは避け，生徒が理解した文法事項を活用する効果的な言語活動を十分に行わせましょう。その際には，**①文法事項の意味や機能を理解する**，**②練習を通して文法事項の意味や機能の理解をさらに深める**，そして最終的には**③文法事項を，自分の考えや気持ち，事実などを伝え合うことに生かす**，という**３つのステップ**が必要であることを意識しましょう。

ステップ１（理解）　文法事項の意味や機能を理解する

生徒とのoral interactionなどを通してtarget sentenceを提示します。その際，生徒に，

- できるだけ具体的で身近な場面の中で理解させる
- 既習の文法事項との関連に気付かせる
- 語順など日本語との違いに注目させる
- どのように英語で表現すればいいのだろうかという「問い」を持たせる

などの工夫が大切です。いい意味で説明は手短に行い，用語や用法に深入りすることのないようにして，次のステップで生徒が実際に使ってみて，その中で理解を深めていけるようにします。

ステップ２（練習）　練習を通して文法事項の意味や機能の理解をさらに深める

ステップ１で提示された文法事項を実際に生徒に使わせます。次のコミュニケーション活動で実際に使えるように，生徒に十分慣れさせる段階です。ここでの工夫としては，

- ワークシート，ゲーム，またペアワーク，グループワークなどを効果的に使う
- パターンプラクティス的な練習，基本表現の音読，繰り返し，暗唱も取り入れる
- 生徒の理解度をチェックして，必要に応じてステップ１に戻す

などが考えられます。単調にならないように，時間を区切ったり，適切な動機付けを行ったりして，生徒が習ったばかりの文法事項を実際に使うことが楽しいと思えるような活動にします。

ステップ３（活用）　文法事項を，自分の考えや気持ち，事実などを伝え合うことに生かす

ステップ２で習得した文法事項を，設定された言語活動の場面の中で，自分の考えや気持ち，事実などを伝えるために活用する応用の段階です。

- 分からないことをもっと聞きたいと思うような場面，状況をつくり出す
- 生徒が自分の考えや思いをもっと伝えたいと思うような活動にする
- 扱う文法事項以外に，既習の表現や文構造が使えるように仕組む

ことなどによって，より効果的な言語活動が展開されます。

【新出の文法事項の活動例】関係代名詞 who

ステップ１（理解）　oral interaction

- 絵を使って生徒と英語でやり取りしながら，関係代名詞whoの働きに気付かせる。
- 動作をしている何人かの人物の絵を見せ，“Look at the woman. What does she have?” “Look at the man. What is he trying to do?”などと質問をして，生徒に英語で答えさせながら，関係代名詞を用いない英文と，関係代名詞を用いた英文を口頭で導入する。

  Look at the woman. She has a cat in her arms.
  Look at the woman who has a cat in her arms.
  Look at the boy. He is trying to catch a cat.
  Look at the boy who is trying to catch a cat.
  Look at the girl. She is taking care of a cat.
  Look at the girl who is taking care of a cat.
- 両者の違いについて気付いたことをペアで話し合わせた後に発表させ，それに対してさらに質問をしながら，関係代名詞whoの働きを確認する。その際，日本語と英語の語順の違いにも気付かせる。

ステップ２（練習）　ペアで翻訳ワーク

- ペアでＡとＢのワークシートを使い，日本文を見てwhoを使った英文にする口頭練習を交互にして，お互いに英文をチェックし合う。

A

1. 向こうでサッカーをしている男の子を見なさい。	Look at the boy who is playing soccer over there.
2. ステージの上で踊っている女の子たちを知ってる？	
3. 私にはとても優しくて明るい友達がいる。	I have a friend who is very kind and cheerful.
4. カラオケがうまい友達が何人かいる。	
5. 私は決してあきらめない人になりたい。	I want to be a person who never gives up.
6.	

B

1. 向こうでサッカーをしている男の子を見なさい。	
2. ステージの上で踊っている女の子たちを知ってる？	Do you know the girls who are dancing on the stage?
3. 私にはとても優しくて明るい友達がいる。	
4. カラオケがうまい友達が何人かいる。	I have some friends who is good at karaoke.
5. 私は決してあきらめない人になりたい。	
6.	

- ＡとＢを交代したり，ＡＢがすべてを翻訳し終える時間を計ってタイムレースにして，目標の時間内に言い終えるまで何度も練習させたりすることもできる。

ステップ２（練習）　ピクチャー・テリング（P59の（ｲ）の活動例７より）

- 活動例７を，関係代名詞を使うようにアレンジしたもの。生徒は“Draw a ○○ who ….”とwhoを使って描く絵を指示し，指示された生徒は紙にその通りの絵を描く。
- 先行詞は人でもいいが，表現が限られてしまうので，例えば“Draw a Monster”という活動にして，“Draw a monster who has only one eye, three legs and a very big tail.” “Draw a monster who is taller than Tokyo Tower.”などとすると，様々な表現が可能になる。

ステップ３（活用）　〇〇さんを紹介します（P58の（ｲ）の活動例３より）

- 活動例３を，関係代名詞を使うことをタスクの一つとしてアレンジしたもの。
- インタビューシートの（1）～（3）の質問に沿ってペアの相手にインタビューした後，２～３組のペアが合体したグループ内で自分のパートナーを紹介する。紹介する時はイントロダクションシートの英文をヒントにして，下線の部分にインタビューで得た情報を関係代名詞whoを使って表現する。

INTERVIEW SHEET

(1)What do you enjoy doing most?

(2)Tell me about your (friend / teacher / mother / father / brother / sister / aunt / uncle / cousin). [Choose two] .

(3)Tell me about your ideal (husband / wife).　*ideal = 理想の

（Answerの例）I enjoy playing basketball the most. My mother is good at cooking. My friend is very kind and gives me good advice. My ideal husband is rich and handsome.

INTRODUCTION SHEET

She is a girl <u>who enjoys playing basketball the most</u>. She has a <u>mother who is good at cooking</u>. She has a <u>friend who is very kind and gives good advice to her</u>. In the future she wants to marry a man <u>who is rich and handsome.</u>

- 紹介するときはread and look upでシートから顔を上げてメンバーとのアイコンタクトを意識させながら紹介するよう指導する。顔を上げるタイミングはセンスグループ（意味の切れ目）で，ここでは例えばa girl, a boy などの先行詞と関係代名詞whoとの間，in the futureなどの時を表す副詞句と主語の間，動詞と動詞をつなぐandなど，普段から音読指導の際に慣れさせておくとよい。

イ　まとまりのある文法事項を言語活動で活用させる指導

関連のある文法事項については，学習指導要領「２内容（4）言語材料の取扱い」に，「まとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること」と述べられています。

既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を「まとめ」などとして比較対照しながら整理し，効果的な指導ができるよう工夫します。

（例）
- 現在形，過去形，現在完了形の指導の後，時制として整理
- 前置詞句，不定詞，分詞などを修飾という側面から整理
- 疑問詞で始まる疑問文を整理（間接疑問文の導入の前に効果的）
- 接続詞 when, before, after, because, if を「主語+動詞」の組み合わせが２つある文（複文）として整理
- 英語と日本語の語順の違いに焦点を当てて整理（文構造）

文法はコミュニケーションを支えるもので，円滑なコミュニケーション，内容を伴う豊かなコミュニケーションを図るための文法理解であることが前提です。「まとまりをもって整理する」ことは，このための効果的な指導方法の一つです。

しかし，整理してまとめた文法事項を指導する際にも，文法用語や用法の区別などの説明が中心になるのではなく，コミュニケーションを図る言語活動において活用することを目的とした指導が行われなくてはなりません。

そのためには，まとめて整理した複数の文法事項を同時に使用しなくてはならないような場面設定を工夫することが必要です。

【関連のある文法事項の活動例】現在形，過去形，現在完了形

ステップ１（理解）　インフォメーション・ギャップを利用した文法事項の復習とまとめ

- 既習の現在形，過去形，現在完了形の肯定文，否定文を含めた基本形をまとめたプリントをペアでインフォメーション・ギャップが生じるようにＡとＢ２種類用意し，説明をし合う。
- 例えば生徒Ａのプリントには現在形の説明や現在形の肯定文の形に関する情報が抜けていて，生徒Ａは既習事項を思い出しながら生徒Ｂに説明をする。Ｂのプリントにはその説明があり，生徒Ｂは生徒Ａの説明を聞いて確認し，足りない部分を補足する。

ステップ２（練習）　ペアやグループによる動詞の過去形，過去分詞形の言い慣れ

- ステップ３のコミュニケーション活動で，過去形や現在完了形の文を書いたり，話したりするために，生徒がつまずきやすい動詞の変化に十分に慣れさせる。
- ペアで動詞の活用表を使って交互に口頭練習する。パートナーが正しく言えているかチェックする。時間を計ってタイムレースをして，記録をとっていくとより集中できる。２つのペアが４人のグループになって，２対２のチームで時間を競う活動もできる。

ステップ２（練習）　パターン･プラクティス的なペアワーク

- 次のようなカードを用意する。
  play soccer + yesterday / play soccer + after school / watch TV + after dinner / study math + at home + yesterday / not eat breakfast + this morning / finish my homework + already / study English + for three years / climb Mt.Fuji + never
- 生徒Ａが裏返したカードを引く。カードの内容に合わせた英文を言い，それに関する簡単な質問を生徒Ｂに尋ね，生徒Ｂが質問に答える。
  I played soccer yesterday. Do you like soccer? ― Yes, I do.
  I have never climbed Mt.Fuji. How about you? ― Many times!
- 役割を交代し，同様のやり取りを行う。
- 相手の発言に対し，“Oh, really?”や“Oh, you have never climbed Mt.Fuji?”などと反応させることで，聞き手を育てる場面とすることもできる。
- パターンプラクティスではあるが，ペアでやりとりをしたり，疑問文に答えたりする要素を入れることによって，次のコミュニケーション活動につなげるような活動にする。

ステップ３（活用）　私は誰？（P58の（ｲ）の活動例４より）

- 活動例４を時制の英文を使うようにアレンジしたもの。生徒は自分を当ててもらうためのヒントの英文を，現在形，過去形，現在完了形を用いて1文ずつ，計３文書く。
- 英文を書いた紙を回収して，一人一人にランダムに配る。自由に歩き回り，yes-no question をして書いた人を探す。
- 各ヒントは関連していなくても関連していてもよいが，自分の特徴がでるように書く。

ヒント例1

I like “*One Piece*” because the story is very good.
I went to Disneyland last Sunday.
I have never been to Okinawa.
Who am I?

ヒント例2

I had a soccer game yesterday.
I have played soccer for ten years.
I want to go to Italy and watch soccer games.
Who am I?

会話例１

A: Hello. May I ask you some questions?
B: Sure.
A: Do you like “One Piece” because the story is very good?
B: Yes, I do.
A: Did you go to Disneyland last Sunday?
B: No, I didn’t.
A: Oh, thank you. Bye.
B: Bye.

会話例２

A: Hello. May I ask you some questions?
B: OK.
A: Did you play soccer after school yesterday?
B: Yes, I did.
A: Have you played soccer for ten years?
B: Yes, I have.
A: Do you want to go to Italy and watch soccer games?
B: Yes, I do.
A: Oh, this is about you.
B: Yes, I wrote it. Thank you.

- 整理して理解した時制の文法知識を使って自分自身のことを表現する活動と，書かれたヒントを読む活動，書いた人を当てるために質問する活動，そしてそれに答える活動を同時に行うことができる。

３　高等学校外国語科へのつながり

中学校・高等学校での外国語（英語）教育においては，４技能を総合的に育成する指導を充実することが求められています。「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる外国語（英語）によるコミュニケーション能力を伸ばすための授業づくりが必要です。

ここでは，中学校教師が，生徒の高等学校進学後の外国語（英語）学習を見通した上で，中学校での指導を考えることができるよう，高等学校外国語科の概要について述べます。

(1) 外国語科の目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。（高等学校学習指導要領 第２章 第８節 第１款）

この高等学校外国語科の目標と中学校外国語科の目標を比較してみましょう。「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り」という部分までは，同じ表現が用いられており，外国語（英語）教育の目標が中学校から高等学校まで貫かれていると言えます。その後の表現は，中学校では「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とあり，高等学校では「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とあります。中学校における学習の基礎の上に，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能を総合的に育成するための統合的な指導を行い，生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことが大切であるとされているのです。

(2) 必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」

高等学校外国語科において，英語を履修する場合に，すべての生徒に履修させる科目です。科目の目標は次のとおりです。

英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 （高等学校学習指導要領 第２章 第８節 第２款 第２）

この科目では，中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能を総合的に育成するための指導を行います。特に，聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりすることや，簡潔に書くことなどの統合的な言語活動が行われることが求められます。

指導する語は，「中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語」とされています。これは，指導する語の上限を示すという趣旨ではありません。活用形を全体として１語と数えたり，派生語をまとめて１語とすることもでき，中学校で学習した1,200語程度の語に400語程度の新語を，コミュニケーション英語Ⅰで学ぶことになります。

文法事項については，中学校において指導された文法事項についても必要に応じて繰り返し扱いながら，高等学校で新たに示されているものについて指導します。文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて指導することが求められるのは，中学校での指導と同じです。新たに扱う文法事項は次のとおりで，ここに挙げたすべての文法事項は，コミュニケーション英語Ⅰで適切に扱うこととされています。

◎不定詞の用法（原形不定詞の用法など）

- I saw Jane's children playing outside late at night the day before the big test. I think she should **make them study**, but she **lets her children do** what they want to.
- Mary was taken to the hospital yesterday after work. I **heard her say** that she was tired, but I didn't realize it was so serious.

◎関係代名詞の用法（先行詞を含む関係代名詞whatや非制限的用法など）

- A small girl came to the store to buy ingredients for miso soup. She wanted to make it for her mother. I sold her **what** she needed.
- Have you seen my new car, **which I bought last week**? It is the silver Honda in the parking lot.

◎関係副詞

- Can you tell me a day next week **when** you will be free?
- I know a field near Shizuoka **where** you can find wild strawberries.

◎助動詞（過去形，助動詞を含む受け身表現，助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現）

- She **could** read *Thomas the Train* when she was four years old.
- Your life **might be changed** by this book. It has great ideas for saving money.
- "We went to Rome last month. We rode scooters around, saw the coliseum and ate so many different types of Italian food." "That **must have been** nice. Now I want to go."

◎代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの（itを形式的に主語として用いるもののうち，itが名詞用法の節を指すものや，itを形式的に目的語として用いるもののうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの）

- There is a powerful cold front coming in from the west. **It** is probable **that** there will be very high wind.
- I found **it** easy **to talk** to her. She listens carefully to everything I say and always smiles so I feel very comfortable.

◎動詞の時制など（現在完了進行形, 過去完了形など）

- I **have been working** all day. I started at 7:00 AM and it's already 9:00 PM. I really want to finish the project today.
- When the principal started talking about the new government policies in education, I realized that we **had met** before. At first I didn't recognize her, but I remembered that I **had had** the same conversation with her.

◎仮定法

- If I **were** you, I would stop smoking. It makes you get old faster and the risk of cancer is too high.
- You learn things very easily so I'm disappointed that you failed. If you **had worked** harder, you **would have passed** the exam.

◎分詞構文

- While I was reading this morning, I heard something outside. **Putting down my newspaper**, I walked over to the window. Then, I saw the most beautiful blue bird I have ever seen.
- I heard a child in the apartment screaming for 10 minutes. He sounded like he was hurt and scared. **Not knowing what to do**, I called the police.

(3) 具体的な活動

英文を和訳することや，文法について説明することに偏りがちであると言われていたこれまでの授業は，学習指導要領でも改善の方向性が明確に示され，例えば，次のような単元構想で授業が行われます。

◎教材　A Mug Is Not a Cup (NEW STREAM English Course I , Lesson 5, ZOSHINDO)

◎教科書本文の大意要約

(Part1)

日本での生活には和製英語が氾濫している。例えば，ヘルスメーターという単語を初めて聞いたときには，病院で使われているハイテク医療機器のようなものをイメージしたので，それが単にバスルーム・スケール（体重計）のことを指していると知ったときには驚いた。

(Part2)

マグカップという和製英語にも混乱した。英語では，カップという言葉が指すものは，小型で受け皿付きのものである。ティー・カップやコーヒー・カップを思い浮かべてもらえばよい。マグとは，もっと大きめのしっかりしたもので，受け皿なしで使われるものである。両方とも飲み物を飲むのに使うという点は同じだが，カップはカップ，マグはマグであり，マグカップとは言わない。

(Part3)

キッチンペーパーという言葉も和製英語である。これは英語では，買い物リストや引き出しにあるメモ用紙のような，台所にある紙，という意味になる。キッチンペーパーなる和製英語は，正しい英語ではペーパー・タオルと言う。

◎評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語・文化についての知識・理解
和製英語をテーマに，積極的なコミュニケーションを図ろうとしている。	和製英語の使用に関する自分の意見を，分かりやすく伝えることができる。	和製英語の抱える問題点を，整理しながら読み取ることができる。	和製英語を標準英語に言い換えることができる。

◎指導計画

(1) 単元全体への導入

身近にあるJapanese-Englishを紹介する。下記の表現について，実物やイラスト，写真を提示し，それが何かを尋ね，生徒が和製英語で答えた場合には正しい表現を示す。

① sharp pen, Hotchkiss, magic　　② fried potato, American dog, choux cream

③ jet coaster, TV game, wide show

(2) 生徒同士が英語でコミュニケーションする活動

導入で用いたJapanese-Englishを利用し，３人１組のスキット形式で，間違いを指摘・修正しあう。

①では，言い慣れることを優先し，パターンに当てはめる。

A: Do you have a Hotchkiss?　　B: A Hotchkiss? What is that?

C: (whispering to A) Hotchkiss is Japanese-English. You should say "stapler."

A: I see. Do you have a stapler?　　B: Oh, a stapler! Yes. Here you are.

②では，最後に一言，自分の意見を付け加える。

A: I want to eat an American dog. Do you know any good shops?

B: An American dog? What is that?

C: (whispering to A) American dog is Japanese-English. You should say "corn dog."

A: I see. I want to eat a corn dog. Do you know some good shops?

B: Oh, a corn dog! Sorry, I have no idea / I recommend *George's*.

③では，自分の考えを伝え，それに対する相手の意見を聞くことで，会話を発展させる。

A: I like jet coasters very much.　　B: Jet coaster? What is that?

C: (whispering to A) Jet coaster is Japanese-English. You should say "roller coaster."

A: I see. I like roller coasters very much.

B: Oh, really? Me, too. I think FUJIYAMA in Fuji-kyu High Land is the greatest. How about you?

(3) Part 1より，必要な情報（=health meterという和製英語が不適切である理由）の入手

First reading: Find Japanese-English terms and its correct name.

JE term: health meter ⇔ correct name: bathroom scale

Rereading 1: Find the image the name "health meter" gives to the author.

-- *high-tech device that you might see in a doctor's office*

-- *something in a hospital*

Rereading 2: Find the functions a health meter is expected to have.

-- *to check the percentage of body fat or blood pressure*

(4) Part 1本文の音読

(5) Part 2，Part 3より必要な情報（＝mug cup及びkitchen paperが不適切である理由）の入手

First reading: Find a Japanese-English term and its correct name.

mug cup(s) ⇔ mug(s) or cup(s)　kitchen paper ⇔ paper towel(s)

Rereading 1: Clarify the difference between cups and mugs.

cups: small and with saucers　　mugs: bigger, heavier and without saucers

Rereading 2: Find what is wrong with the name "mug cups."

-- *Both are used for drinking, but it can't be both.*

-- *There is a clear difference between the two.*

Rereading 3: Find the image the name "kitchen paper" gives to the author.

-- *paper that happens to be in the kitchen (and is used for shopping lists and things like that)*

(6) Part 2，Part 3本文の音読

(7) 本文から入手した情報を参考に，自分の考えを表現する活動

Expressing yourself 1

Using the information from the text, explain why the three Japanese-English terms are inappropriate in your own words.

health meter ⇒ *too high-tech, excessive advertising*

mug cup ⇒ *incompatible combination*

kitchen paper ⇒ *meaning something different*

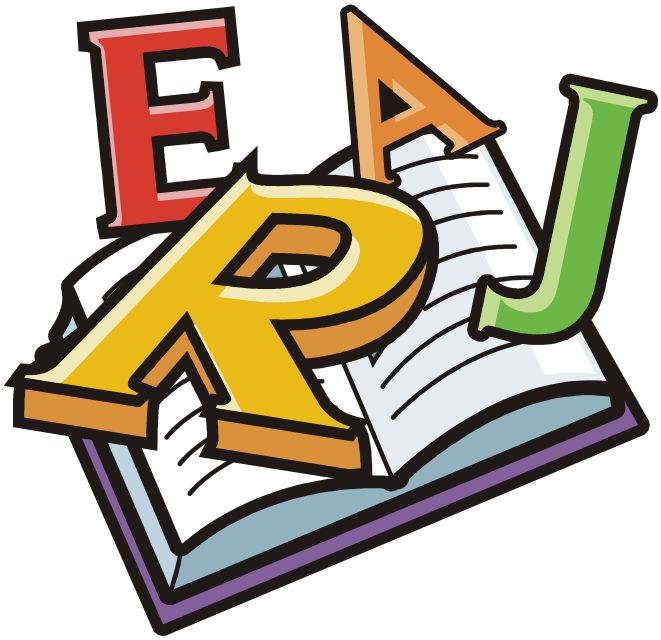
Expressing yourself 2

Choose one of the Japanese-English terms you know and explain how that term would be misunderstood by native speakers of English.

(8)　単元目標の達成を図り，達成度を測るためのコミュニケーション活動（＝タスク）

「Japanese-Englishを，正しい英語だと思い込んで使用している友人に対し，それがどのような意味に解釈されるか，それがどのような印象を与えるか等について説明し，適切な表現に言い換えるよう促す」という想定のスキットを，３人１組で創作し，実演する。登場人物も３人とする。

外国語（英語）科の各科目の特質は，科目の目標が言語に関する技能そのものの習得であるということです。技能の習得には，実際にその技能を練習し，使ってみることが不可欠です。しかしながら，生徒の日常生活において外国語を使用する機会は非常に限られたものでしかありません。これらのことを踏まえて，ここで述べたような授業を行い，授業そのものを外国語（英語）を使う機会にすることが求められています。外国語（英語）によるコミュニケーションを体験できる授業づくりをしていくことは，小学校外国語活動から中学校での外国語学習へ，中学校での外国語学習から高等学校での外国語学習へと引き継がれているのです。



補足資料

1　小学校外国語活動：英語ノートの活用例

(1) 一人一人の子どもの学びの速度に配慮した活用例

◎教　　材　　英語ノート２「Lesson 3　友だちの誕生日を知ろう」

◎単元目標　　1　世界と日本の祭りや行事に興味を持つ。
　　2　積極的に友だちに誕生日を尋ねたり，自分の誕生日を答えたりしようとする。
　　3　英語での月の言い方や，誕生日の言い方に慣れ親しむ。

◎指導計画

時	授業目標	活動	内容	表現
1	日本の季節の行事や特徴を伝え，英語での月の言い方を知る。	【気付き】P16 Activity （月ごとの行事） 【気付き】P17 Let's Listen （外国の行事と月） 【慣れ】P17 Let's Chant（月名） 【慣れ】おはじきゲーム（月名） 【慣れ】指さしゲーム（月名） 【気付き】振り返り	• 日本の季節の行事と月の関係を子どもが自分の生活と比較しながら確認する。 • 英語での月の言い方を知り，何種類かある日本語の月の言い方と比べ，日本語の豊かさに気付く。 • おはじきゲームや指さしゲームを通して，英語での月の言い方に聞き慣れる。	January February March …～ December
2	自分の誕生日を言う。	【慣れ】指さしゲーム（月名）② 【慣れ】P17 Let's Chant② 【慣れ】P18 Let's Play キーワードゲーム（月名） 【慣れ】P18 Let's Play ミッシングゲーム（月名） 【慣れ】P18 Activity （日にちの言い方） 【気付き】振り返り	• キーワードゲームやミッシングゲームを使って，英語での月の言い方を聞いて繰り返し言う。 • P18 Activity を使って，英語での日にちの言い方を知る。	January …～ December 1st,2nd,3rd, 4th…～31st When is your birthday？
3	誕生日についてのまとまった話を聞いて，その概要を理解する。	【慣れ】P17 Let's Chant③ 【慣れ】P18 Let's Play キーワードゲーム（月名） 【慣れ】P18 Let's Play ステレオゲーム（月名） 【慣れ】P19 Let's Listen （誕生月の聞き取り） 【慣れ】P18 Activity 発展 「カルタ取り」（日にちの言い方） 【気付き】振り返り	• キーワードゲームやステレオゲームを使って英語での月の言い方を聞いて繰り返し言う。 • P19 Let's Listen 誕生日についてのまとまった話を聞いて，その概要を理解する。 • P18 Activity 英語ノートのデジタル教材を使って日にちを英語で流す。31 枚の日にちカルタ取りを行い，英語の日にちの言い方に聞き慣れる。	When is your birthday？ (例)January 8th grandfather, grandmother 等の家族を言い表す英語
4	自分や相手の誕生日について訪ねたり答えたりする。	【慣れ】P17 Let's Chant④ 【慣れ】P18 Activity 発展 「カルタ取り」② 【慣れ】 スーパーメガジャンケンゲーム （月名＋自分の誕生日の言い方） 【慣れ】P16 Activity 発展 「誕生日の尋ね方，答え方」 【中心コミュ】P21 Activity 2 「誕生日インタビュー」 【気付き】振り返り	• スーパーメガジャンケンゲームで，それぞれの月の言い方と自分の誕生日について英語で言う。（自分の誕生月だけ誕生日まで言い，その他の月は月名のみ英語で言う） • P16 Activity の季節の絵カードを使って，中心コミュで使用する表現に慣れ親しむ。 A: Hi, Hello. When is your birthday? B: Look! (P16 の季節の絵カードを示す) A: Oh. January! B: Yes. January 16th. • P21 Activity2 を使ってクラスメイトに英語で誕生日を聞き，クラスの誕生日リストを作る。何月生まれが多いのか，また少ないのかを知る。	When is your birthday？ (例)January 8th

(2) 異文化理解と子どもの興味・関心を関連付けた活用例

◎教　　材　　英語ノート１「Lesson 9　ランチ・メニューを作ろう」

◎単元目標　　１　お互いに自分の食べたいものをはっきりと伝え合おうとする。
　　２　自分たちの考えたメニューをみんなの前で紹介する。
　　３　世界の料理と日本の料理の共通点や相違点に気付く。

◎指導計画

時	授業目標	活動	内容	表現
1	世界の国々では，朝食に様々なものが食べられていることを知る。	【気付き】P57 Let's Listen （国名と朝食メニューの聞き取り） 【慣れ】おはじきゲーム （朝食関係の言葉） 【慣れ】P56 Activity （朝食メニューの比較） 【気付き】振り返り	•普段の朝食で食べるものを出し合う。 •ALT の国でよく食べる朝食について知る。 •朝食で食べたいメニューを絵に描き，英語で言う。 What do you eat?　I eat….	rice, bread, egg, milk, juice, soup, salad, fruit What do you eat ? I eat….
2	自分たちの地域や世界の国々の食べ物を知るとともに，友達の好きな食べ物を尋ね合う。	【気付き】 自分たちの地域や外国の料理 【気付き】 食べ物に関する和製英語 【慣れ】P58 Let's Chant （料理名） 【慣れ】P57 Let's Play キーワードゲーム（料理名） 【慣れ】P58 Let's Play ビンゴゲーム（料理名） 【気付き】振り返り	•和食や自分たちの地域ならではのメニューについて発表し，ALT が好きかどうか尋ねる。（和製英語を確認する。） •ALT の国の食べ物について知る。 •他の国の食べ物や外国から来た食べ物について発表し合う。 •キーワードゲームで食べ物を表す言葉に慣れ親しむ。 •ビンゴゲームで，好きな食べ物を尋ね合う。 What would you like…?　I'd like sushi.	spaghetti, sushi, pizza, sukiyaki,
3	国際交流パーティーのメニューを考える。自分の食べたいものをはっきりと相手に伝える。	【慣れ】P58 Let's Chant② 【慣れ】P57 Let's Play キーワードゲーム（料理名）② 【気付き】 パーティーメニューの紹介① 「各国の人気料理調査」 【慣れ】 パーティーメニューの紹介② 「メニューの決定」 【気付き】振り返り	•世界の国々の食べ物とその言い方を思い出す。 •チャンツで表現の口慣らしをする。 •世界の人達が集まるパーティーのランチメニューをグループごとに決める。 •1人ずつ担当の国を決め，その国の料理をあげる。 •その中でどの食べ物が人気があるか，できるだけたくさんの人に尋ねる。 What would you like?　I'd like…. •インタビューの結果からメニューをグループで決める。	What would you like? I'd like ～. Here you are. Thank you. You're welcome.
4	自分たちの考えたメニューを紹介する。	【慣れ】P58 Let's Chant③ 【慣れ】 パーティーメニューの紹介③ 「Show & Tell グループ練習」 【中心コミュ】 パーティーメニューの紹介④ 「Show & Tell 実演」 【気付き】振り返り	•自分たちの考えたランチメニューの言い方を思い出す。 •グループごとにランチメニューを show & tell で紹介する。 What's your lunch?　This is our lunch. This is …. •どのグループのメニューがよいか，決める。 What would you like?	What would you like? I'd like ～. What's your lunch?

(3) 他教科・領域との関連を意識した活用例

◎教　　材　　英語ノート２「Lesson 6　行ってみたい国を紹介しよう」

◎単元目標　　１　自分の行きたい国とその理由について相手に何とかして伝えようとする。
　　２　自分が行ってみたい国について，理由を添えながら発表する。
　　３　世界の国々の食べ物や自然などについて興味を持つ。

◎指導計画

時	授業目標	活動	内容	表現
1	社会科で学習した国々について，名前の言い方や国旗を知る。	【気付き】P37 Let's Listen 2 （国名と国旗の色の聞き取り） 【気付き】国当てゲーム 【慣れ】国旗おはじきゲーム 【気付き】振り返り	•国旗を世界地図に貼り，国旗の色や形の表現を紹介する。 •それぞれの国の風景や食べ物の写真を見せながら，英語で説明をして，国名を尋ねる。 •国旗を記載したビンゴシートにおはじきをおいたゲームで国名の言い方に慣れる。	国の名前 国旗の色，形 (yellow, red, blue, green, circle, square, triangle)
2	グループで，一つの国について，食べ物や観光名所などを紹介する。	【慣れ】P37 Let's Chant(国名) 【気付き】 国の郷土料理や観光名所調べ 【慣れ】3ヒントクイズ（国名） 【気付き】振り返り	•国の言い方のチャンツをする。 •各グループに一つずつ，調べる国を与える。それぞれの国特有の食べ物やスポーツや風景を，英語で紹介する。（I can eat / see / play ～.） •全体に紹介し，どこの国か当ててもらう。（3ヒントクイズ）	I can eat / see / play ～.
3	自分の行きたい国とその理由を，何とかして相手に伝えようとする。	【慣れ】P37 Let's Chant② 【慣れ】P38 Let's Play ビンゴゲーム 【気付き】 行ってみたい国の調査 【慣れ/ コミュ】 行きたい国インタビュー（ペア） 【気付き】振り返り	•チャンツで表現の口慣らしをする。 Where do you want to go? I want to go to ～. I can / want to eat / see / play ～. •ペアで会話をし，行きたい理由まで言えたら，相手から国旗のシールをもらい，ワークシートに貼る。	Where do you want to go? I want to ～.
4	自分の行きたい国について発表する。	【慣れ】P37 Let's Chant③ 【慣れ/ コミュ】 行きたい国インタビュー② (グループ) 【中心コミュ】 行ってみたい国紹介スピーチ （グループ→全体） ※グループ代表が全体の前で発表する 【気付き】振り返り	•全体の前で，自分の行きたい国について，理由を添えて発表する。 •I want to go to Italy. •I want to eat pizza. •I like soccer. I like Nagatomo. He is cool.	I want to go to / eat / see / play ～.

２　小学校外国語活動：身近な事柄を題材とした活動例

(1) 平成版かぐや姫を劇で表現しよう

ア　本単元のねらい

本単元では，静岡県の昔話を元にしたオリジナルの劇で表現することを通して，静岡県にも昔話があることを知ったり，静岡県やその他の日本の昔話について興味を持ったりするだけでなく，実際に演じてみたりすることで，気持ちを込め，ジェスチャーを付けて表現する体験をしたりする。

日本の昔話については，ある程度知っていると思われるが，どの昔話がどこで生まれたのか，また静岡県にはどのような昔話があるのかを知らない子どもが多い。それらを知ることで，昔話に託された昔の人々の思いに触れ，静岡県や日本に対する郷土愛を培いたい。

また，劇を練習することを通して自分の思いを相手に伝えるための表現方法を考えたり，発表したりすることを通して，「みんなの前で堂々と表現できた」という自己肯定感を育みたい。

イ　本単元の内容

(ｱ) 主としてコミュニケーションに関すること

- 友達と一緒に，１つのものを作り上げる喜びを体験すること。
- みんなの前で表現する楽しさを体験すること。
- 気持ちを込めて言ったり，ジェスチャーなどを加えて表現したりすることの大切さを知ること。
- 互いの表現方法を高め合うこと。
- 友達の表現活動を楽しみながら聞いたり見たりすること。

(ｲ) 主として言語や文化に関すること

- 静岡県や日本の昔話を聞いて，昔の人々の思いに触れること。
- 劇の練習をすることで，英語の音声やリズムに慣れ親しむこと。

〇話　　題：日本や静岡県の昔話
〇場　　面：静岡県の昔話を演じる。
〇表　　現：Will you marry me?　I want ….　I'll try.
〇国際理解：日本や静岡県の昔話を知る。

ウ　目標

① 創作劇を通して，台詞に込められた思いをより相手に伝わるように表現しようとする。
② 英語での絵本の読み聞かせを通して，英語のリズムに親しみ，絵を見ながら内容を推測しようとする。
③ 静岡県や日本の昔話を知り，昔話に興味を持つとともに，昔話に託された昔の人々の思いに触れようとする。

エ　時間配分：４時間

第1時	第2時	第3時	第4時
【活動①】Let's Listen. 英語の台詞を聞いてどの物語か考えよう。 【活動②】Let's Listen. かぐや姫の話を聞こう。	【活動①】Let's　Listen. かぐや姫の欲しいものを順に並べる。 【活動②】Activity グループで，登場する人物と，かぐや姫の欲しいものを考えて，劇を作ろう。	【活動①】Let's Chant. 【活動②】Activity 劇の練習をしよう。 【活動③】Activity 互いの表現を見て，高め合おう。	【活動①】Let's Chant. 【活動②】Activity 劇の練習をしよう。 【活動③】Activity 発表しよう。

オ　指導計画（第１時，第２時）

過程	児童の活動	教師の活動	• ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点	準備物
第1時：日本の昔話がどこで生まれたかを知り，昔話に込められた人々の思いに触れるとともに，昔話について興味を持つ。				
挨拶	•Hello.　I'm ….	•Hello. How　are　you today?		
導入	•日本や自分たちの地域の昔話について，知っている話を発表する。	•日本や地域の昔話にはどんなものがあるか発表しよう。		
展開	•台詞を聞いて，話を考える。 •話の内容を確認し，グループで，昔の人々のどんな思いが込められた話なのかを想像して話し合う。 1. You look cold. Please use this hat.（かさじぞう:岩手） 2. I want to be big. I want to be strong.（一寸法師:新潟） 3. Wow! I can see Osaka and Kyoto. I can see everything.（天狗の隠れ蓑:熊本） 4. Oh, it's mine. I want to go back to the sky. Give me back.（天女のはごろも:静岡他） 5. I don't want to give my daughter to the God. Please help us.（しっぺい太郎:静岡） 6. Today is full moon. I have to go back to the moon.（かぐや姫:静岡，奈良，京都）	•英語の台詞を聞いて，何の話のだれの台詞か考えよう。	•教師が表情豊かに英語で台詞を言うことにより，場面を想像させる。 •話の内容を確認するのみでなく，それぞれの昔話に託された昔の人々の思いを考える。 ◆自国の物語についての理解を深める。 ◎昔話の世界に思いをめぐらせ，それぞれの話に込められた人々の思いを想像している。	昔話の絵本
	•かぐや姫の話を聞き，内容を確認する。	•かぐや姫の話を聞こう。	•絵本を見せながら資料1を読む。	かぐや姫の絵本
第2時：かぐや姫の話を聞き，オリジナルのかぐや姫の劇を作ろうとする。				
挨拶	•Hello.　I'm ….	•Hello. How　are　you today?		
導入	•求婚している5人の名前とかぐや姫が望んだ品物を合わせる。	•かぐや姫が求婚される場面を英語で聞こう。 A: My name is …. Will you marry me? B: Oh, I want a …. A: OK. I'll try.	•資料の中の求婚される場面だけを読んで人と品物を一致させる。	5人の名前と品物のカード
展開	•欲しい物をいくつか考える。 •グループになって，かぐや姫のほしい物と，それを持ってきた時のかぐや姫の反応を考え合い，英語で表現する。	•自分がかぐや姫だったら何が欲しいか考えよう。 •グループでオリジナルの劇を考え，英語で表現しよう。	•自分がかぐや姫だったら何が欲しいか考えさせることで，劇化に対する意欲を高める。 •アイディアが浮かばないところには具体的に例示したり，英語の言い方が分からない班には言い方を教えたりなど，グループごとの支援をする。 ◎オリジナルのかぐや姫の劇を作ろうと自分の意見を積極的に言おうとしている。	

オ　指導計画（第３時，第４時）

過程	児童の活動	教師の活動	• ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点	準備物
第3時：オリジナルの劇の表現方法やセリフの言い方を工夫し合う。				
挨拶	• Hello.　I'm ….	• Hello.　How　are　you　today?		
復習	• チャンツ	• チャンツで台詞に慣れよう。 "Will you marry me?" "I want …." "OK. I'll try." "Thank you very much. I'm happy." "I'm sorry. I don't like it."	• チャンツで言い方に慣れさせる。	
展開	• グループごとに，セリフの言い方やジェスチャーをお互いに工夫しながら，かぐや姫の劇を練習する。 • 2つのグループがペアとなり，お互いに劇を発表し合い，表現について互いにアドバイスをする。 • 劇の練習をする。欲しい物をいくつか考える。	• 台詞の言い方やジェスチャーの工夫をしながら，劇の練習をしよう。 • 2つのグループで中間発表をしよう。 • もう１度劇の練習をしよう。	• 台詞を棒読みするのではなく，意味を考えながら言い方やジェスチャーを工夫するようにする。 • お互いの表現を見合うことにより高め合う。 ◎台詞に込められた思いをより相手に伝わるようにと表情やジェスチャーを工夫しようとしている。	
第4時：台詞に込められた思いをより相手に伝わるようにと表情やジェスチャーを工夫しながら，みんなの前で堂々と表現しようとする。				
挨拶	• Hello.　I'm …. • チャンツ	• Hello. How　are　you today? • チャンツ		
展開	• グループごとに，発表に向けて最後の練習をする。 • グループごとに劇の発表をする。	• 発表に向けて最後に練習をしよう。 • オリジナルのかぐや姫の劇を発表しよう。	◎みんなの前で堂々と自分の台詞を言っている。	扇子 お面
まとめ	• 劇をやってみての自分の感想や，友達の劇を見ての感想などについて，振り返りをする。	• 劇をやってみての感想や，友達の劇を見ての良いところなどについて振り返りをしよう。 • 発表しよう。 • 教師からの視点で，児童の劇の感想を述べる。	• 振り返りの視点を与えて，振り返りをする。 • みんなの前で表現できたことを認め，児童の良いあらわれを中心に感想を述べることにより，児童の自己肯定感を高めるようにする。	

カ　補足資料

(ｱ) 日本の昔話

昔話は，生活の中から誕生し，口承されてきたものである。「むかし」や「あるところに」という不明な時や場所が用いられ，本当にあったかどうかは知らないけれどという心持ちで語り継がれている。主人公の幸福や悪人の懲罰で終わることが多く，人が生きていく上で大切なことを話にして言い伝えている。また，一定の繰り返しや三段階の話の展開などの法則がある。

【かさじぞう（岩手県）】

善悪という対比的な図式を用いることなく，純粋に正しい行いをする者は救われるという話。

大晦日の夜，貧乏なおじいさんが，かさを売りに町へ出かけたが，売れずに家に帰ろうとした。途中，６体のお地蔵様に雪が積もっているところを見かけたおじいさんは，すべてのお地蔵様に かさをかぶせてあげた。するとその夜，歌声とともにお地蔵様がおじいさんの家にやってきて，おもちやごちそうを山のようにおいていった。

【一寸法師（新潟県）】

体の小さい一寸法師が知恵を使って，幸せを手に入れる話。

子どものいない夫婦が神様にお願いをしたところ，小さな親指くらいの男の子が誕生した。一寸法師と名付けられた男の子は，針の刀を持ち，お椀の船とはしのかいで都に出かけ，お姫様を救おうと針の刀で鬼と戦った。鬼がおいていった打ち出の小槌で大きくなった一寸法師は，そのお姫様と結婚し，幸せになった。

【天狗の隠れ蓑（熊本県）】

一休，吉四六と並んでとんち話の主役である彦一の話。

とんちを使って権力者をこらしめもするが，時には失敗するなど決して英雄ではない姿が描かれており，人々に愛されている。

天狗の隠れ蓑がほしくてたまらない彦一は，一本の竹をのぞき，「これは千里眼じゃ」と言い，とうとう天狗が持っている隠れ蓑と交換する。隠れ蓑で次々といたずらをした彦一が酒によって寝ている間に，女房が燃やしてしまう。あわてた彦一はその灰を使って姿を消すことに成功したが，酒場でこっそりと酒を飲み，唇の灰がはげたことから，主人に見付かり追われることとなった。

【天女の羽衣（静岡市）】

天部に住むとされる天女が，羽衣を奪われ空に帰れなくなってしまう話。

日本や朝鮮半島などの各地に伝説が伝わっている。静岡市清水区の三保の松原には天女が舞い降りたとされる樹齢約650年の古松があり，羽衣の松と呼ばれている。

塩売りの男が松の木に掛けられた美しい布を見付け，持ち帰った。その夜やってきた美しい娘はその布の持ち主で，自分の羽衣を見付けた娘は，ひとしきりの舞いのあと，やがて羽衣を身にまとい，天に戻ってしまった。

【しっぺい太郎（磐田市）】

久しく続く人身御供の慣わしを断ち切ってくれた犬の話。

旅の僧が，ある山奥で立派な屋敷を見付けた。その家では，娘を中心に集まり泣いていたため理由を尋ねると，古い社に毎年人身御供を出しており，その順番に当たっているとのことであった。お祭りの夜，娘の入れられた棺を見ていると，化け物がやってきて，「しっぺい太郎にゃ知らすなよ」と歌うので，信州の信濃へ行き，しっぺい太郎という犬を探し連れてきた。次の年のお祭りの夜，しっぺい太郎は化け物と戦い，化け物を倒してくれた。その時の戦いでしっぺい太郎も傷つき，イチョウの木の下で倒れてしまったが，村人みんなで厚く葬った。

【かぐや姫（富士市 他）】

日本で初めて作られた物語文学「竹取物語」を子どもに分かりやすく紹介した話。

求婚する若者はいずれも高い位と富を持った人々であったため，無理難題を言い，求婚を断ることで，富と権力をこらしめるという権力批判の物語ではないかという説がある。

竹取物語由来の地と名乗る地域が複数あり，静岡県富士市，奈良県広陵市，京都府向日市，香川県さぬき市，岡山県倉敷市，広島県竹原市，鹿児島県さつま町の７市町では，「かぐや姫サミット」という地域間交流が開催されている。静岡県の富士市には，「竹取姫」と刻んだ小さな塚があり，翁と姫が住んだと伝えられている竹取公園がある。一般に知られているかぐや姫は，月の世界の人であり，最後には月に帰って行くが，富士市に伝わる物語では，かぐや姫は富士山の仙女で，最後は富士山の山頂に帰って行くという話になっている。

（ｲ）静岡県の民話の例

(ｳ) 英語版「かぐや姫」

Long time ago, an old man and an old woman lived near a bamboo grove. They wanted a baby very much. The old man worked hard in the bamboo grove, so he was called “Taketori-no-Okina.”

One day, the old man found a shining bamboo and said, “Wow! Why is it shining?” He walked up to the bamboo and cut it. “Wow, a baby girl! How cute!” Inside there was a very small lovely girl. He felt very happy and took her to his house. The old man and the old woman decided to raise her. She was named “Kaguya-hime.”

As the girl grew up, she became a beautiful lady. “We have never seen such a beautiful lady,” everybody said. A lot of men wanted to marry her.

One day, five young men came to her and asked to marry her.

The first man said, “My name is Ishizukuri-no-Miko. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Hotoke no Hachi.” “OK. I’ll try,” he said.

The second man said, ”My name is Kuramochi-no-Miko. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Horai no Tama no Eda ” “OK. I’ll try,” he said.

The third man said, “My name is Abemiushi. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Hinezumi no Kawagoromo.” “OK. I’ll try,” he said.

The fourth man said, “My name is Otomono Miyuki. Will you marry me?”

Kaguyahime answered, “I want Ryu no Kubi no Tama.” “OK. I’ll try,” he said.

The last man said, “My name is Isono Kaminomaro. Will you marry me?”

Kaguyahime answered,“I want Tsubame no Koyasugai.” “OK. I’ll try,” he said.

She had requested very rare things. The five young men tried to get them, but all of them failed. “You couldn’t get what I wanted, so I can’t marry any of you. I’m sorry,” Kaguyahime said.

Later, the Mikado came to see Kaguyahime. He asked, ”Will you marry me?” “I’m sorry, I can’t,” Kaguyahime answered.

Some years later, Kaguyahime began to cry every night. “Why are you crying?” Taketori-no-Okina asked. “I’m from the moon. On the night of the full moon, I have to go back home. I will miss you.”

On that day, a lot of people came from the moon to take her back. Taketori-no-Okina and his wife didn’t want her to go back to the moon, but it was impossible for her to stay.

She went back to the moon, at last.

(2) わたしのふるさと

ア　本単元のねらい

私たちの身の回りには，たくさんの音楽があふれている。音楽は，雰囲気を盛り上げたり気持ちを落ち着かせたりするほか，人の心に思い出として残るものがある。その内の一つが，ふるさとを歌った歌である。普段は意識していないが，ふるさとを離れて初めてその歌のよさに気付くことがある。この気持ちは，国が違っても同じであると思われる。

歌の中には，歌詞を変えて様々な国で歌われているものがある。歌詞の通りに歌えなくても，同じメロディーを口ずさむことで国の違いを越えた心の交流をすることができるのが音楽のいいところである。

本単元では，ふるさと静岡にちなんだ歌を外国籍児童やALTと共に知り，自分のふるさとを歌を通して見つめる。また，それと同時に，歌を通して外国籍児童やALTの出身国，世界へと目を広げていく。子どもたちは，音楽科で「日本の音楽」(４年生)，「アジアの音楽」「日本の音楽」(５年生)，「世界の音楽」「日本の音楽」(６年生)において，地方や国に独特の音楽や歌があることを学習してきている。また，日常的には「今月の歌」で，月ごとに違った英語の歌にふれたり，音楽の副教材である「明るい声で」の中からいくつかの外国曲に親しんできたりしている。

単元の活動を通して，コミュニケーションを図るには，音楽も活用できるということに気付いてほしい。

イ　本単元の内容

(ｱ) 主としてコミュニケーションに関すること

- 音楽を通して，コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ふるさとへの思いを込めて歌うことの大切さを知ること。

(ｲ) 主として言語や文化に関すること

- 音楽を通して，コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- ふるさとへの思いを込めて歌うことの大切さを知ること。
- ALT やクラスの外国籍の子の出身国にちなんだ歌を知る活動を通して，ふるさとを思う気持ちは同じであることに気付くこと。
- 世界各国にあるふるさとの歌が，言語を変えて日本でも歌われていることを知り，音楽でも世界とつながっていることに気付くこと。
- ふるさとを歌った歌には，その国・地方の文化が表れていることを知り，外国や自国の文化に対する理解を深めること。

○話　　題：それぞれのふるさとを歌った歌
○場　　面：それぞれのふるさとを歌った歌を知ったり歌ったりする。
○表　　現：Do you know this song?　Yes.　No.　Let's sing this song !
○国際理解：国や言語は違っても，ふるさとを思う気持ちは世界中同じであることに気付く。

ウ　目標

① 静岡県の歌を外国の人に知ってほしいという思いを持って紹介する。
② 簡単な外国語の歌を歌うことで，外国語独特のリズムに親しむ。
③ 一つの曲が世界の様々な言語で歌われていることを知り，世界は音楽でもつながっていることに気付く。

エ　時間配分：３時間

第1時	第2時	第3時
【活動①】Let's　Listen みかんの花さく丘 【活動②】Activity 静岡にちなんだ歌を知って，歌おう。	【活動①】Let's　Sing 静岡の歌 【活動②】Activity ALTやクラスの外国籍児童の国について知り，その国の歌を歌おう。	【活動①】Let's　Sing 静岡とALT(外国籍児童)の国の歌 【活動②】Activity 日本でも歌われている外国の曲を歌ってみよう。

オ　指導計画（第１時）

過程	児童の活動	教師の活動	• ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点	準備物
第1時：静岡にちなんだ歌を知り，クラスの外国籍児童や ALT に英語を使って紹介しようとする。				
挨拶	•あいさつをする。 I'm good / full.	•あいさつをする。 How are you？	•いつもしている挨拶をすることで，活動に対する安心感を持つことができるようにする。	
導入	•担任が口ずさんだ歌を聴く。 •曲について知っていることを発表する。	•「みかんの花咲く丘」を口ずさむ。 •What's this song？ •キーワード「みかん」に当たる英語“tangerine”を言って，絵カードを黒板に貼る。	•子どもたち全員が知っている曲を選んで歌い活動への意欲を高める。 •静岡にちなんだ歌であること話し，主活動につなげる。	絵カード
展開	•静岡にちなんだ歌を発表し，一緒に歌う。 •歌詞が表す情景を絵に描き，ALT や外国籍児童に紹介する。 Mt.Fuji / head / cloud / listen / thunder / No.1 green tea / eighty-eight / field mountain •静岡出身の人が作った歌を知り，歌う。	•Let's enjoy Shizuoka songs. •Please teach me Shizuoka songs.（ALT がいる場合） •他にどんな静岡にちなんだ歌があるかな？ 「ふじ山」“Mt. Fuji” 「ちゃつみ」 “Green Tea Harvest” •Do you know this song？ •静岡出身の人が作った歌を紹介する。 「森の水車」“Millwheel” 「月の沙漠」“Desert Moon” 「汽車ぽっぽ」 “Choo Choo Train” 「かわいい魚やさん」 “Cute Boy and Fish” 「せいくらべ」“How tall?”	•歌を表す絵カードを出し，キーワードを英語で表す。 •歌が出るごとに少しずつメロディーをみんなで口ずさむ。（ALT も知っている部分を歌うようにする。） ◎外国籍児童やALTに絵を使って英語で紹介しようとしている。 •絵カードは，作曲者・作詞者の出身地や歌った風景の地図上の場所に貼っていく。 •同時に，地名や地形の確認をする。 •子どもが知らない歌は CD をかけたり担任が歌ったりする。 •曲について説明をする。 ◆静岡にちなんだ歌がたくさんあることに触れ，ふるさとを見つめるきっかけの一つとなるようにする。	絵カード 静岡県地図 歌集「明るい声で」童謡CD
まとめ	•活動の振り返りをする。	•楽しかったことや初めて知ったことはどんなことですか。	◎静岡県にちなんだ歌がたくさんあることに気付いている。 •歌を通してコミュニケーションが図れることに触れる。 •次回は外国籍児童や ALT が自国にちなんだ歌を紹介することを知らせる。	

オ　指導計画（第２時）

過程	児童の活動	教師の活動	• ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点	準備物
第2時: ALT や外国籍児童の国にちなんだ歌を知り，一緒に口ずさんでみようとする。				
挨拶	•あいさつをする。 I'm good / full.	•あいさつをする。 How are you？	•いつもしている挨拶をすることで，活動に対する安心感を持つことができるようにする。	
導入	•前時に学習した歌を歌う。	•Let's sing Shizuoka songs. “Green tea Harvest” “Mt. Fuji” “Cute Boy and Fish” “Choo Choo Train”		歌集「明るい声で」
展開	•外国籍児童（ALT）の出身国について知っていることを発表する。 •外国籍児童（ALT）の出身国についての話を聞く。 •外国籍児童（ALT）の出身国にちなんだ手遊び歌を知る。 •歌いやすい部分を一緒に歌ったり手遊びをしたりする。	•今日は，〇〇さんの国の歌を教えてもらいましょう。 •〇〇さんの国についてどんなことを知っていますか？ OBAMA / baseball / sea / soccer / carnival •外国籍児童(ALT)の出身国について紹介する。 high / dry / big / wheat •Do you know this song？ フレーズを少しロずさんで紹介する。 ＜ブラジル＞ “Atirei o Pau no Gato” （猫に棒をぶつけた） “A Galinha do Vizinho” （おとなりさんのメンドリ） ＜アメリカ＞ “Humpty Dumpty” “Hey Diddle, Diddle” “Apples And Bananas” •Let's sing together！ •Let’s play together！	•児童が知らない場合のために，教師があらかじめ下調べをしておく。 •自分たちが知っていることを発表することで，本時の学習についての興味付けをする。 ◆その国の特徴について，キーワードを英語で表す。 •担任がジェスチャーをすることで，英語とその意味が結び付くようにする。 ◎曲やその背景について少し説明をする。 ◎歌を表す絵カードを出し，キーワードを英語で表す。 ◎外国語の曲の歌詞やリズムを楽しみながら歌おうとしている。	世界地図 絵カード
まとめ	•活動の振り返りをする。	•楽しかったことや初めて知ったことはどんなことですか。	•歌を通してコミュニケーションが図れることに触れる。 •次回は日本で歌われている外国の曲を探すことを知らせる。	

※日本で親しまれている外国曲
- アメリカ⇒すいかの名産地　１０人のインディアン　大きな古時計　森のくまさん　アルプス一万尺　線路は続くよ
- イギリス⇒ロンドン橋　グリーンスリーブス　羽生の宿
- アイルランド⇒ダニーボーイ
- スコットランド⇒蛍の光　マイボニー
- フランス⇒クラリネットをこわしちゃった　アヴィニヨンの橋の上で
- イタリア⇒フニクリフニクラ（とらのパンツ）
- ロシア⇒カチューシャ　トロイカ　コロブチカ
- イディッシュ（東方ユダヤ語）⇒ドナドナ
- フィンランド⇒ジェンカ
- イスラエル⇒マイムマイム
- ポリネシア⇒サモア島の歌
- 韓国⇒アリラン
- 中国⇒まつり花

オ　指導計画（第３時）

過程	児童の活動	教師の活動	• ⇒ 指導上の留意点 ◎ ⇒ 評価の観点 ◆ ⇒ 国際理解の視点	準備物
第3時：一つの曲が，世界の様々な言語で歌われていることを知る。				
挨拶	•あいさつをする。 I'm good / full.	•あいさつをする。 How are you？	•いつもしている挨拶をすることで，活動に対する安心感を持つことができるようにする。	
導入	•静岡や外国籍児童（ALT）の国にちなんだ歌を歌う。	•Let's sing Shizuoka and ○○ songs！	•クイズ形式も入れて，児童が歌えなくても活動に参加できるようにする。	童謡CD 静岡県地図
展開	•情報交換ゲームをして日本で歌われている外国曲を知る。	•日本でどんな外国曲が歌われているか，調べてみよう。 Do you know this song？	•歌だけのカード（質問用）と歌と国名を書いたカード（回答用）をそれぞれが持ち，互いに情報交換をすることを伝える。 •早く終わった子には，次のカードを渡す。	ゲーム用カード
	•分かったことを発表する。	•Which country？	•世界地図に歌を表す絵カードを貼っていく。 •世界地図に曲名を書き入れていく。	世界地図
	•「ドレミの歌」の原曲との歌詞の違いを知る。	•Do you know this song？ ド…ドーナッツ Do…female deer	◆国によって音からイメージする言葉は違うが，同じような歌い方をしていることに気付くようにする。担任がジェスチャーをすることで，英語とその意味が結び付くようにする。	ドレミの歌 CD 英語版
まとめ	•活動の振り返りをする。	•楽しかったことや初めて知ったことはどんなことですか。	◎たくさんの国の歌が日本語に訳されて，歌われていることに気付いている。 •浜松でショパンコンクールが開かれていることや，辻井さんがバンクライバーンコンクールで優勝したことなどに触れる。	

3　英語ノート※と中学校学習指導要領との関連

※新教材“Hi, friends!”との関連については，各自で確認してください。

(1) 英語ノート１

単元名	単元目標	活動内容	表現
1 世界の「こんにちは」を知ろう	①挨拶のマナーを知り，友だちや初対面の人と積極的に挨拶をする。 ②名刺交換などの活動を通して，英語で自分の名前を相手に伝える。 ③世界には様々な言語があることを知る。	①世界の国のこんにちは ②みんなと挨拶 ③みんなと名刺交換	-- Hello. -- What's your name? -- My name is …. -- Nice to meet you.
2 ジェスチャーをしよう	①表情やジェスチャーを付けて相手に感情や様子を積極的に伝える。 ②感情や様子を尋ね合う。 ③表情やジェスチャーなどの言葉によらないコミュニケーションの大切さを知る。	①いろいろな表情をしてみる ②感情や様子を表す語を使ったジェスチャーゲームをする ③みんなと挨拶	-- How are you?
3 数で遊ぼう	①積極的に数を使ったゲームをしようとする。 ②1～20の数を使っていろいろなゲームをする。 ③世界の数の数え方や遊びに興味を持つ。	①いろいろな言葉でじゃんけん ②数を数える歌 ③数を使ったゲーム	-- How many?
4 自己紹介をしよう	①友だちと積極的に好き嫌いを確認し合う。 ②英語で自分の好き嫌いを相手に伝える。 ③日本語には様々な英語が起源の言葉(外来語)があることに気付く。	①好き嫌いを聞き取る ②好き嫌いを尋ねる ③好きなものを描く ④自己紹介をする	-- Do you like…? -- I like ….
5 いろいろな衣装を知ろう	①積極的に買い物の疑似体験をする。 ②英語を使って好きな衣服を紹介する。 ③世界の衣服に興味を持つ。	①いろいろな衣服の言い方を知る ②どのような服を着てみたいか考える ③買い物を疑似体験する ④買った物を発表する	-- I like…. -- I don't like…. -- Do you have …? -- I have….
6 外来語を知ろう	①積極的に好きなものを尋ねたり，注文したりする。 ②好きなものを尋ねたり，注文したりする表現に慣れ親しむ。 ③日本語と英語の発音の違いに気付く。 ④身近な外来語に興味を持つ。	①身近な外来語をさがす ②キーワードゲーム ③自分の欲しいものを注文する ④互いにフルーツパフェを作り合う	-- What do you want? -- … , please. -- Here you are. -- Thank you. -- You're welcome.
7 クイズ大会をしよう	①積極的に相手にこれは何かと質問したり，答えたりする。 ②英語を使って，クイズ大会をする。 ③英語にも日本語の二字熟語と同じような言葉があることを知る。	①クイズ大会	-- What's this? ― It's a ….
8 時間割を作ろう	①積極的に自分たちの作った夢の時間割を伝えようとする。 ②英語で自分たちが作った夢の時間割を伝えようとする。 ③世界の小学校の学校生活に興味を持つ。	①教科名当てジェスチャークイズ ②曜日当てクイズ ③時間割ビンゴ・ゲーム ④自分たちの時間割を作る	-- I study …on….
9 ランチ・メニューを作ろう	①積極的にオリジナル・ランチ・メニューを発表しようとする。 ②丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり，質問に対して自分の欲しいものを伝えたりする。 ③世界の料理に興味を持つ。	①どこの国の朝ご飯か考える ②食べ物ビンゴ・ゲーム ③オリジナル・ランチ・セットをつくる	-- What would you like? ― I'd like….

		中学校学習指導要領解説外国語編	
語彙	言語文化	言語の使用場面や働き	言語材料
①挨拶の言葉	異なる文化圏の， ①ボディ･ランゲージ ②ジェスチャー	①あいさつ ②自己紹介 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】	-- Hello. -- Nice to meet you. -- My name is ～. -- What's your name? -- Good-bye. See you.
①感情	①自分の思いを相手に 伝えるためのいろいろな ジェスチャー	①あいさつ ②自己紹介 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】	-- How are you? ― I'm ～. (happy / hungry / sleepy / fine / thirsty / hot / tired / cold)
①じゃんけん ②数	海外の国々の数の， ①言い方 ②数え方 ③遊び方	①子どもの遊び （小学校外国語活動にのみある項目） 【使用場面b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面】	-- How many … ? --答えとして，数字だけを口頭で伝える(最大20まで)
①食べ物 ②スポーツ	①単語の発音の違い ②身振り手振りの違い	①自己紹介 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】 ⇒学習指導要領解説P21「例1」程度でよい	-- I like ～. -- Do you ～? ― Yes, I do. / No, I don't. -- Thank you. -- イントネーション(Do you … ? は上げる)
①洋服 ②色	①各国の衣服	①買い物 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】	-- Do you have ～? -- I don't like ～. -- Here you are. / Thank you. / You're welcome.
①食べ物 ②スポーツ	①外国語の由来	①食事 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】 ⇒レストラン等で，店員が本来What would you like? というべきところを，あえてWhat do you want? と表現している	-- What do you want? -- ～, please. -- How many ? -- Here you are. / Thank you. / You're welcome. -- ア音声(ア)
①海の生き物 ②文房具	①英語にも 単語が組み合わされて できている言葉があること	①事実を尋ねる （クイズ大会）	-- What's this? -- It's a ～. -- That's right. -- What animal is this? (発展)
①曜日 ②教科	①外国の小学校の 学校生活	①学校での学習や活動 【使用場面b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面】	-- I study (subject) (on ____day). -- What subject is this? -- What do you study? -- 曜日 -- weが主語 e.g. We study Japanese on Monday.
①メニュー	①場に応じて，相手を敬い， 礼儀正しい表現をすること	①食事 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】 ⇒店員がpolite mannerで表現している	-- What would you like? ― I'd like juice. -- I eat fruit and cereal in the morning. -- What do you eat for breakfast? （発展）

(2) 英語ノート２

単元名	単元目標	活動内容	表現
1 アルファベットで遊ぼう	①積極的にアルファベットの大文字を見つけて，読む。 ②アルファベットの文字の読み方を聞いて，それがどの大文字がわかる。 ③アルファベットの大文字に興味を持つ。	①アルファベット・カルタ ②アルファベットを使ったミッション・ゲーム ③身の回りにあるアルファベットの大文字を探そう	-- What's this? — It's ～. -- That's right.
2 いろいろな文字があることを知ろう	①身の回りで見つけたアルファベットを積極的に発表しようとする。 ②21～100の数の言い方に親しむ。 ③世界の様々な文字に興味を持つ。	①動物を数える ②大文字と小文字を結びつけよう ③町の中からアルファベット表示を探そう	-- What's this? — It's ～.
3 友達の誕生日を知ろう	①積極的に友だちに誕生日を尋ねたり，自分の誕生日を答えたりする。 ②英語での月の言い方や，誕生日の言い方に慣れ親しむ。 ③世界と日本の祭りや行事に興味を持つ。	①月の名前を使ったキー・ワード・ゲーム ②ミッシング・ゲーム ③誕生日をインタビューしよう	-- When is your birthday? -- My birthday is ….
4 できることを紹介しよう	①積極的に，「できること」を尋ねたり，「できること」や「できないこと」を答えたりする。 ②「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 ③ショー・アンド・テルを通して，多様な発表のあり方があることに気付く。	①ジェスチャー・クイズ ②友だちにインタビュー ③ショー・アンド・テルで自己紹介	-- Can you ….? -- I <u>can / can't</u> ….
5 道案内をしよう	①積極的に道案内しようとする。 ②建物の名前や道案内の表現に慣れ親しむ。 ③英語で道案内することに興味を持つ。	①建物の名前を使ったいろいろなゲーム ②サイモン・セズ・ゲーム ③オリジナル・タウンを作って紹介しよう	-- Excuse me. -- Where is …? -- Go straight. -- Turn right/left.
6 行ってみたい国を紹介しよう	①自分の思いがはっきり伝わるようにスピーチをしたり，積極的に友だちのスピーチを聞いたりする。 ②自分が行ってみたい国と理由を発表する。 ③世界ではいろいろな英語が話されていることに興味を持つ。	①ビンゴ・ゲーム ②行きたい国，国旗，理由のチャンツ ③行きたい国とその理由のスピーチを発表したり，聞いたりしよう	-- Where do you want to go? — I want to go to ….
7 自分の一日を紹介しよう	①積極的に自分の1日を紹介したり，友だちの1日を聞き取ったりしようとする。 ②自分の1日の生活を紹介する。 ③世界には時差があることに興味を持つ。	①1日の動作のジェスチャー・ゲーム ②先生の1日を聞き取ろう ③自分の1日を紹介 ④友だちの1日を聞き取ろう	-- What time is it? — It's …. -- What time do you …? — I … at ….
8 オリジナルの劇をつくろう	①積極的に英語を使ってオリジナルの劇をつくり演じようとする。 ②まとまった英語の話を聞いて，内容を理解する。 ③世界の物語に興味を持つ。	①オリジナルの劇を作ろう ②劇を発表し合おう	-- Please help me. -- Please help us. -- What's the matter?
9 将来の夢を紹介しよう	①積極的に自分の将来の夢について，理由を含めて紹介したり，友だちの夢を聞き取ったりする。 ②どのような職業につきたいかを尋ねたり，答えたりする表現に慣れ親しむ。 ③様々な職業の言い方に興味を持つ。	①チェーン・ゲーム ②インタビュー ③スピーチで自分の夢を紹介しよう ④友だちのスピーチを聞きとろう	-- What do you want to be? — I want to be a ….

		中学校学習指導要領解説外国語編	
語彙	言語文化	言語の使用場面や働き	言語材料
①A～Zの 大文字	①ローマ字と英語との 名前の標記方法の違い	①褒める 【働きb　気持ちを伝える】	-- イ(ア)アルファベットの活字体大文字 -- That's right. -- 1～20までの数字
①a～zの 小文字 ②number (21～100)	①世界には195の国がある ②そのうち54か国の公用語が 英語	①褒める 【働きb　気持ちを伝える】	-- イ(ア)アルファベット活字体小文字 -- 21～100と195の数字 -- 世界の文字
①月の名前 ②1～31の序数	①世界の祭りや行事 ②日本の祭りや行事	①質問する 【働きe　相手の行動を促す】 ⇒インタビュー	-- When is your birthday? -- (My birthday is in) January. -- 月の名前 -- 1～31の序数 -- We have ～ in December.
①スポーツ ②楽器 ③簡単な動詞	①人と自分との違い ②違いを認め合う	①家庭での生活 ②学校での学習や活動 【使用場面b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面】	-- I can / can't ～ -- Can you ～? — Yes, I can. / No, I can't. -- play soccer / make an omlet / play the piano / ride a unicycle /swim
①場所 ②建物 ③方向	①英語での道案内の仕方	①道案内 【使用場面a　特有の表現がよく使われる場合】⇒方向を示す	-- Where is ～? -- Go straight. Turn right / left. Stop. -- What's this? / Bookstore. (施設や建物，店) -- エ(ア)c 命令文
①国の名前	①世界では，いろいろな 英語が話されている	①発表する 【働きe　相手の行動を促す】	-- I want to go to ～. -- Let's go. -- 国の名前 -- What country is this? -- I want to eat / play / see ～. -- I like ～.
①1日の動作	①世界には時差がある	①家庭での生活 ②学校での学習や活動 【使用場面b　生徒の身近な暮らしにかかわる場面】	-- I get up at ～. -- What time is it? -- It's ～. -- What time do you ～? -- daily routine (get up / go to school / eat lunch / read a book / watch TV / take a bath / go to bed / go home) -- 時間を伝えるための数字
①家族 ②動物	①世界のいくつかの昔話	①オリジナルの劇を作り， 演じる ②呼び掛ける 【働きa　コミュニケーションを円滑にする】 ③礼を言う，苦情を言う 【働きb　気持ちを伝える】	-- エ(ア)c 命令文 -- Please help me / us. -- 家族の語彙 -- What's the matter? -- Wow! It's big / heavy. -- Please come here. -- It's too heavy / big!
①職業	①世界の子どもたちが 就きたい職業 ②日本の子どもとの違い ③文化的な違い	①発表する ②スピーチをする 【働きc　情報を伝える】	-- 文法事項(カ) to不定詞 --What do you want to be? — I want to be a teacher. -- Why? / Because I like ～. -- 職業の語彙(16種類)

４　中学校外国語科（英語）：４領域の１つに重点を置いた単元計画例

ここでは，４領域の１つに重点を置いた単元計画例とその評価規準例を提示してあります。単元の評価規準と評価方法の表には**総括的評価**（単元の評価規準に即して子どもの力を判定し，観点別評価及び評定に反映するための評価）を，単元計画表には**形成的評価**（授業の目標に照らし，子どもの学びの状況・状態を見取り，指導に生かすための評価）を示しました。

(1) 聞くことを重点にした単元の流れ

◎教　　材　　NEW HORIZON 1 「Unit５　お祭り大好き」

◎単元目標

買い物特有の表現と数の尋ね方や答え方を知り，買い物の場面での会話を楽しむ。
また，Let's～や命令文等の指示や提案をするときの表現を使う活動を通して，相手の言葉に適切に応じることができるようにする。

- 買い物の場面や指示・提案のある場面の会話に積極的に参加しようとする。相手の言葉に簡単な言葉や動作で反応して聞こうとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- 相手の指示や提案に，言葉や動作で適切に応じることができる。（外国語理解の能力）
- How manyを用いた文の用法や名詞の複数形について理解する。命令文やLet'sを用いた文の構造について理解する。（言語や文化についての知識・理解）

◎単元の評価規準と評価方法（**総括的評価**）

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	買い物の場面の会話に意欲的に取り組んでいる。相手からの指示や提案に適切に応じようと，簡単な言葉や動作などで反応しながら聞いている。		命令文やLet'sを含む文を正しく聞き取り，相手からの指示や提案に対して，適切に応じている。	数を尋ねるときは，How manyを用いることを理解している。名詞の複数形について理解している。命令文やLet'sを用いた文の構造について理解している。
評価方法	【第3時】相づちを打ったり，メモを取ったりして聞いたことについて，簡単な言葉や動作などで反応しているか，取組の様子を観察し評価する。 【第5時】相手からの指示や提案に，簡単な言葉や動作などで反応しているか，取組の様子を観察し評価する。		【後日】命令文やLet'sを含む文を聞いて正しく理解できるか，リスニングテストで評価する。	【後日】名詞の複数形や，命令文，Let's や How manyを含む文の使い方について理解しているか，ペーパーテストで評価する。

◎単元計画

時	授業目標	学習活動	形成的評価
単元の最後にペアで場面を考えてスキット作りをし，お互いのスキットを聞き合い，相手からの指示や提案に適切に応じる活動を行うことを告げ，簡単な言葉や動作などで反応しながら聞く活動に目的意識を持って取り組ませる。			
1	物が2つ以上ある時には複数形で表現することを知り，名詞の複数形について理解する。	• 英語ノートにある数の歌を歌う。（最初は1～10，次に11～20） • 教師がHow manyを使いながら，鉛筆やノートなどをいくつ持っているか尋ね，生徒は，持っている数を答える。 • 複数形があることを知り，教科書のP4，5の単語を使って複数形の言い方に慣れる。名詞によって発音の仕方に違いがあることや複数形にならない名詞についても理解する。 • 名詞の複数形の書き方について理解し，教科書P4，5の複数形をグループで確認しながら書く。 • 教科書のPart1の新出単語を理解し，内容を聞いて理解する。（教師から聞き取りの視点を与えて聞かせる。）	• 名詞の複数形について正しく書いているかどうかノートで理解状況を確認。（知・理）

2	How many を用いる数の尋ね方について理解する。	• 教科書P4，5の名詞を用いて，数(100まで)と複数形について復習する。 • Part1を読む。(CDの後に→ペア) • 教科書のPart2の新出単語を理解し，内容を聞いて理解する。(教師から聞き取りの視点を与えて聞かせる。) • How manyを含む文について理解し，ペアでどんな時に使うか考え，いろいろな文を言ってみる。 • 物の絵(名前)とその数がかいてあるカードを一人5枚ずつもち，カード交換ゲームをする。 • カード交換ゲームでの会話をノートに書き，今日の学習を確認する。	• How manyを用いて正しく尋ねているかどうか，行動観察とノートで理解状況を確認する。(知・理)
3	買い物特有の表現や数を尋ねる言い方を用いて，買い物ごっこに積極的に参加しようとする。	• Part1,2を読む。(CD→ペア) • Part1,2の表現に言い慣れ，覚える。(CDを相手に→ペアで役に分かれて) • Part1,2の表現を用いて，買い物の場面での会話(ほしい物を言う→いくつほしいか尋ねる→数を言う→値段を言う→お金を渡す→おつりを渡す)を役割に分かれて行う。 • 買い物ごっこの会話をノートに書き，今日の学習を確認する。	• 相づちを打ったり，メモを取ったりして聞いたことについて，簡単な言葉や動作などで反応しているか，行動観察により確認する。(関・意・態)
4	Let's を用いた文と一般動詞から始まる命令文についての文の構造を知る。	• サイモンセッズゲームをする。 • サイモンセッズで使った文をいくつか書き，命令文の構造を理解する。また，Let'sをつけると相手に提案する表現になることを知り，Let'sを付けても自然な文と，付けると不自然な文とに分けることにより，Let'sを用いた文について理解する。 • 教科書のPart3の新出単語を理解し，内容を聞いて理解する。(教師から聞き取りの視点を与えて聞かせる。) • ペアで，本文の中から命令文とLet'sを用いた文を探し，単語を入れ替えるなどして，お祭りの場面で使えそうな文を考えて言い合い，ノートに書く。	• 命令文とLet'sを用いた文についての用法や文の構造を正しく理解しているかどうか，ノートで理解状況を確認する。(知・理)
5	相手からの指示や提案に対して，簡単な言葉や動作などで反応する。	• Part3を読む。(CD→ペア) • ペアで前時の最後に考えた文を言い合い，それに応じ合う。ペアを何度か変えることで，言い慣れを図る。 • カードを1人5枚ずつもち，1枚のカードに1文ずつ命令文かLet'sを含む文を書き，それを使って命令ゲームをする。 • 命令ゲームの中で，友達に言われた文をノートに書き，今日の学習を確認する。	• 相手からの指示や提案に，簡単な言葉や動作などで反応しているか，行動観察により確認する。(関・意・態) • 相手からの指示や提案に適切に応じているか，行動観察により英語の理解状況を確認する。(外国語理解)
6	それぞれのスキットの場面で，相手からの指示や提案に適切に応じることができる。	• Part1～3をペアで役に分かれて読む。 • 命令文やLet'sを含む文が，日常のどんな場面で使えるか発表し合う。 • ペアで場面を考え，スキット作りをする。 • ペア同士でお互いのスキットを聞き合い，その後，ペアを入れ替えて，指示や提案に応じる役の生徒になり，やってみる。	• 相手からの指示や提案に適切に応じているか，行動観察により，英語の理解状況を確認する。(外国語理解)
後日	リスニングテスト ペーパーテスト	• 指示や提案のある別の場面での英語を聞いて，言葉や動作で適切に応じることができるか。 • 名詞の複数形や，命令文，Let' sやHow manyを含む文の使い方について理解しているか。	

(2) 話すことを重点にした単元の流れ

◎教　　材　　TOTAL　ENGLISH 3 “Lesson3　E-mails from the U.S. and India”

◎単元目標

自分の生活や体験を紹介する中で，必要な表現や技法を用いて自分の気持ちや考えを分かりやすく伝え，会話を継続・発展させることができるようにする。

- 与えられた話題で友達と話をし，質問をしたり，自分の感想などを話したりして，工夫して話を続けようとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- ALTとの会話の中で，与えられた話題についての自分の意見や主張を状況にふさわしい英語を用いて相手に分かるように話し，会話を続けることができる。（外国語表現の能力）
- 現在完了形の文構造について理解している。（言語や文化についての知識・理解）

◎単元の評価規準と評価方法（**総括的評価**）

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	与えられた話題で友達と話をし，質問をしたり，自分の感想などを話したりして，工夫して話を続けている。	ALTとの会話の中で，与えられた話題についての自分の意見や主張を状況にふさわしい英語を用いて相手にわかるように話し，会話を続けることができる。		現在完了形を用いた文の構造について理解している。 It～for～to.を用いた文の構造について理解している。
評価方法	【第3時】【第6時】【第8時】において，子どもが工夫をして話を続けているかどうか，コミュニケーションへの継続の様子を観察し評価する。	【第9時】【第10時】のALTとの会話における表現の能力を目標に照らして，子どものパフォーマンスで評価する。		【後日】現在完了形とIt～for～to.の文構造について理解しているかどうかをペーパーテストで評価する。

◎単元計画

時	授業目標	学習活動	形成的評価
単元の最後にALTと2人で3分間程度のsmall talkを行うことを告げ，インタビューやペアでの会話活動に目的意識を持って取り組ませる。			
1・2	単元の目標であるALTとの会話を意識して，なりきりインタビューに取り組み，教科書3A，3Bの内容をQ&Aで適切に伝える。	• 教師のoral introductionで本文を導入し，タクの体験やE-mail情報をもとに，NASAの宇宙開発事業の様子について読み取る。 • 現在完了形(継続)の文構造について知る。 • なりきりインタビュー ALTとの会話を意識し，教科書の内容についてペアで質問し合い，タクになったつもりで適切に質問に答えるとともに，即時的な会話のやり取りについて学ぶ。	• 現在完了形(継続)の文構造についての理解状況をワークシートで確認する。(知・理) • 単元の目標であるALTとの会話を意識して，なりきりインタビューに取り組み，教科書の内容を適切に且つ即時的に伝えているか，行動観察および，ワークシートで確認する。(外国語表現)
3	「私が今，一番関心を持って続けていること」「私がしばらくやっていないこと」について友だちに紹介する。	• 教師の話す英語を聞いて，教師が「今，関心を持って続けていること」について何をどのくらい続けているのかを聞き取る。 • ALTの話す英語を聞いて，ALTの「私がしばらくやっていないこと」について何をどのくらいしていないのかを聞き取る。 • 「私が今，一番関心を持って続けていること」「私がしばらくやっていないこと」のどちらかの話題を選択し，マッピングをしてイメージを広げて，コミュニケーション活動に備える。 • 友だち同士で「私が今，一番関心を持って続けていること」「私がしばらくやっていないこと」について，できるだけ話が続くように，質問をしたり，コミュニケーションマナーを効果的に活用したりして，工夫をして伝え合う。 • 話したことをノートに英語でまとめ，単元の最後のコミュニケーション活動で活用する。 • 現在完了形の継続用法について，言葉の働きを言語活動を通して理解する。	• 与えられた話題で友達と話をし，質問をしたり，自分の感想などを話したりして，工夫して話を続けているか，行動観察により取組状況を確認する。(関・意・態)

4 ・ 5	単元の目標であるALTとの会話を意識して，なりきりインタビューに取り組み，教科書3C，3Dの内容をQ&Aで適切に伝える。	• 教師のoral introductionで本文を導入し，ナナの体験やE-mail情報をもとに，インドの生活習慣について日本の文化と比較しながら読み取る。 • 現在完了形(経験)の文構造について知る。 • It～ for～to～.の文構造について知る。 • なりきりインタビュー 教科書の内容についてペアで質問し合い，ナナになったつもりで適切に質問に答えるとともに，即時的な会話のやり取りについて学ぶ。	• 現在完了形(経験)とIt～ for～to～.の文構造についての理解の状況をワークシートで確認する。(知・理) • 単元の目標であるALTとの会話を意識して，なりきりインタビューに取り組み，教科書の内容を適切に且つ即時的に伝えているかどうかを行動観察および，ワークシートで確認する。(外国語表現)
6	「私の心に残った一番の体験」「私がこれから始めてみたいと思うこと」について友だちに紹介する。	• 教師の話す英語を聞いて，教師の「心に残った一番の体験」についていつどこで何をしたのかを聞き取る。 • ALTの話す英語を聞いて，ALTの「私がこれから始めてみたいと思うこと」について何をしたことがなくて，なぜ始めてみたいのかを聞き取る。 • 「私の心に残った一番の体験」「私がこれから始めてみたいと思うこと」のどちらかの話題を選択し，マッピングをしてイメージを広げて，コミュニケーション活動に備える。 • 友だち同士で「私の心に残った一番の体験」「私がこれから始めてみたいと思うこと」について，できるだけ話が続くように，質問をしたり，コミュニケーションマナーを効果的に活用したりして，工夫をして伝え合う。 • 話したことをノートに英語でまとめ，単元の最後のコミュニケーション活動で活用する。 • 現在完了形の経験用法について，言葉の働きを言語活動を通して理解する。	• 与えられた話題で友達と話をし，質問をしたり，自分の感想などを話したりして，工夫して話を続けているか，行動観察により取組状況を確認する。(関・意・態)
7	「私が一番大切だと思うこと」についてまとまりのある英文を書く。	• 教師の話す英語を聞いて，愛・家族・友・時間・お金・食べ物・勉強の中から教師が「一番大切だと思うこと」を聞き取る。 • 「私が一番大切だと思うこと」についてワークシートに英語でまとまりのある文を書く。 • 友だちが書いた英文を読み，賛否やその理由を書いて伝える。 • ALTとの会話で使えそうな文をノートに英語でメモをし，ALTとの会話に向けての展望を持つ。	• テーマについて目標文(It～for～to.)を用いた英文を自分の立場で書けているか，ワークシートの英文を確認する。(外国語表現)
8	ALTとのsmall talkに向けたペア活動で，自分の意見や主張を工夫して伝え，できるだけ会話が続くように話す。(事前練習会)	• 単元を通して表現した話題を活用して，「自分らしさが一番伝わる話題でALTと話してみよう」という話題でマッピングをしてイメージを広げ，自分についての紹介文をまとまりのある英語で書く。 • 何度もペアを替えながら5分間のsmall talkを行い，できるだけ会話が続くように，質問をしたり，コミュニケーションマナーを効果的に活用したりして，工夫をして伝え合う。 • 会話練習の中で効果的であった話題や表現を簡単なメモに落とし，次時に備える。	• 与えられた話題で友達と話をし，質問をしたり，自分の感想などを話したりして，工夫して話を続けているか，行動観察により取組状況を確認する。(関・意・態) • 一人一人が次時にALTとの会話活動へ向かえる状態であるか，会話活動の様子から習得の状況を確認する。(外国語表現)
9 ・ 10	ALTとのsmall talkで，自分の意見や主張を状況にふさわしい表現を用いて分かるように伝え，できるだけ会話が続くように話す。	• ALTと3分間程度のsmall talkを行い，自分の意見や主張を相手に伝える。(現在完了形を用いた一文をきっかけにして話を始め，話の途中でIt～for～to.を用いて自分の思いを伝えるよう，ルールを設定する。) • ALTは話をして分かったことを子どもに伝え，子どもの「学びの実感」を引き出す。	• ALTとの会話の中で，与えられた話題についての自分の意見や主張を状況にふさわしい英語を用いて相手に分かるように話し，会話を続けることができるか，子どものパフォーマンスを評価する。(外国語表現)

(3) 読むことを重点にした単元の流れ

◎教　　材　　NEW HORIZON 2 “Let’s Read　Try to Be the Only One”

◎単元目標

主人公の生き方や自分自身の生き方について思いを持てるように，主人公の育った境遇や時代背景と関連させながら、その生き方を適切に読み取る。

- 主人公の生き方や考え方について深く理解しようと，根拠となる文章を探しながら意欲的に読み進めようとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- 主人公の生き方や自分自身の生き方について思いを持つことができるよう，主人公の育った境遇や時代背景とその生き方について読んで理解することができる。（外国語理解の能力）

◎単元の評価規準と評価方法（**総括的評価**）

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	主人公の生き方や考え方についてより深く理解しようと，根拠となる文章を探しながら意欲的に読み進めている。		自分自身の人生と重ねながら，主人公の生き方について思いを持つことができるよう，主人公の育った境遇，時代背景やその生き方について適切に読み取ることができる。	
評価方法	【第2・3時】主人公の生き方や考え方についてより深く理解するために，根拠となる文章を探しながら読み進めようとしているか，取組の様子を観察し評価する。		【後日】 読み取りの視点に沿って，根拠となる文章をもとに適切に理解しているか，別の話を用いてペーパーテストで外国語理解の能力を評価する。	

◎単元計画

時	授業目標	学習活動	形成的評価
単元の最後に、主人公の魅力を伝えることができるようになるために、本文に述べられている主人公の生き方や考え方から、自分が是非紹介したい事柄を選べるよう、目的意識を持って読ませる。			
1	あらすじを大まかに読み取る。	• 新垣勉さんの歌う「さとうきび畑」を聞く。 • 1ページごとに音読した後，CDを聞いて読み方(発音)を確認する。 • 新垣勉さんの家族構成や環境，生まれた日，好きなことなど，教師側からの読み取りの視点に基づいて読み，ワークシートに記入する。 • 読み取ったことをグループで確認し，生まれ育った環境等について大まかに理解する。 • 新垣勉さんの人生について初発の感想を発表する。	• 読み取りの視点に沿って，根拠となる文章を探しながら，あらすじを大まかに理解しているか，ワークシートで確認する。(外国語理解)
2	根拠となる文章を探しながら，読み進めようとする。主人公の子ども時代の思いをより深く読み取る。	• 音読で，通し読みをする。 • 1，2ページ目を読む中で，疑問に思った所や考えたいことを，線を引いたりメモをとったりしながら読む。 • 疑問に思ったことや考えたいことを全体で発表し，みんなで考えたいことを共通の課題とする。 （例）牧師は，なぜ，涙を流したのだろう？ 新垣さんは，牧師さんが，自分のどんなところを分かってくれたと感じたのだろう? • 発表や教師からの資料により，新垣勉さんの幼少時代と関係のある沖縄戦について知る。 • 本文の文章を根拠にして課題について読み取り，ワークシートに記入する。 • 全体で，課題について確認し，沖縄戦の影響等からつらい子ども時代を過ごしてきたことを理解する。 • 本時読み取ったことを考えながら，1，2ページ目を読む。	• 根拠となる文章を探しながら読み進めようとしているか，取組の様子を観察し確認する。(関・意・態) • 子ども時代のつらい思いを読み取っているか，ワークシートで読み取り状況を確認する。（外国語理解）

3	根拠となる文章を探しながら，読み進めようとする。主人公が，つらい子ども時代を乗り越え，前向きに考えるようになっていった流れについて理解する。	• ペアで，1文ずつ交代で音読する。 • 前時で読み取ったことについて確認し，新垣勉さんの子ども時代について思い出す。 • 3，4ページ目を読む中で，疑問に思ったことや考えたいことを意識しながら読む。 • 疑問に思ったことや考えたいことを全体で発表し，みんなで考えたいことを共通の課題とする。 （例）自分がonly oneだと感じたのは，どんなところからだろう？ 新垣勉さんの歌声には，なぜ明るさを感じるのだろうか？ 新垣さんは，両親に対してどんな気持ちを持っているのだろう。 • 本文を根拠にして課題について読み取り，ワークシートに記入する。 • 全体で課題について確認し，つらい子ども時代を乗り越え，"Try to be the only one"と考えるようになっていった流れについて理解する。 • 本時読み取ったことを考えながら，全文を通し読みする。 • 新垣勉さんの歌う「さとうきび畑」の歌を聴く。	• 根拠となる文章を探しながら読み進めているか，行動観察により取組状況を確認する。（関・意・態） • 主人公がつらい子ども時代を乗り越え，今のモットーを持つに至った流れについて理解しているか，ワークシートで読み取り状況を確認する。（外国語理解）
4	前時までに読み取ったことを，プロフィールにすることを通して，新垣勉さんの人生について理解を深め，彼の生き方について感想を持つ。	• 前時までに読み取ったことを確認しながら音読する。 • 子ども時代や牧師との出会い，彼のモットー等について確認する。 • 新垣勉さんが，全国各地でコンサートをしていることを知り，コンサートのちらしにのせる紹介文を英語で書く。（グループの形のまま行い，分からないところを聞きながら進める。） • グループ内でお互いが書いた紹介文を交換し，読み合う。 • 新垣勉さんの人生についての感想と，自分の生き方について考えたことをノートにまとめる。	• 主人公の生き方について感想を持つことができるよう，主人公の育った境遇や時代背景と関連させて，生き方をとらえているか，紹介文とノートで理解状況を確認する。（外国語理解）
後日	ペーパーテスト	• 根拠となる文章をもとに適切に理解しているか，別の話を用いてペーパーテストで外国語理解の能力を評価する。	

(4) 書くことを重点にした単元の流れ

◎教　　材　　SUNSHINE 3 “PROGRAM 2　Volcanoes in Japan”

◎単元目標

世界遺産への登録に向けて，世界遺産としての価値と自分の考えを，読み手に正しく伝わるように文と文のつながりを意識してまとまりのある文を書くことができる。

- 富士山の世界遺産への登録に向けて，自分の考えを含めながら読み手に正しく伝わるように書こうとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
- 「〇〇を世界遺産に」というテーマで，文と文のつながりを意識したまとまりのある文を書くことができる。（外国語表現の能力）
- 現在完了形の文構造について理解する。（言語や文化についての知識・理解）

◎単元の評価規準と評価方法（**総括的評価**）

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	富士山の紹介文を，自分の考えを含めながら，読み手に正しく伝わるように書こうとしている。	現在完了形や既習表現を活用して，世界遺産としての価値と自分の考えを，文と文のつながりを意識して書いている。		継続していることや経験した事柄について表現するときには現在完了形を用いることを理解している。現在完了形を用いた文構造について理解している。
評価方法	【第7，8時】富士山について，自分の考えを含めながら，読み手が理解しやすくなるように英語で紹介文を書いているか，行動観察により取組状況を評価する。	【第10時】「〇〇を世界遺産に」というテーマで，文と文のつながりを意識したまとまりのある文を書くことができるか，できあがった紹介文で英語による表現力を評価する。		【後日】現在完了形の用法について正しく理解しているか，ペーパーテストで評価する。

◎単元計画

時	授業目標	学習活動	形成的評価
単元の最後に「〇〇を世界遺産に」というテーマで紹介文を書くことを告げ，文と文のつながりを意識したまとまりのある文を書けるよう，目的意識を持って取り組ませる。			
1	世界遺産についての英文を聞いて理解を深める。	• ALTや教師の話す英文を聞いたり，紹介文を読んだりして，世界遺産について知り，興味を持つ。 • 教科書全文を聞いて，概要をつかむ。	• 世界遺産についての紹介文を聞いて理解を深めているか，ワークシートで理解状況を確認する。（外国語理解）
2	現在完了形(継続)の用法について理解し，これまでずっと続けていることについて話す。	• 現在完了形を用いた文について理解する。 • 自分が今まで続けて行っている内容について，現在完了形を用いて1～3文作り，音読できるよう練習する。 • 自分が今までしてきたことについて友達に話し，相手にも尋ねる。 A: I've ~ since (for)~. How long have you ~? B: Yes, I've ~since (for) ~./ No, I've never ~. • 尋ねた結果をワークシートにまとめて書く。 Taro has played soccer for three years.	• 現在完了形(継続)の用法について正しく理解しているか，ワークシートで確認する。（知・理）
3	現在完了形(経験)の用法について理解し，経験したことについて尋ね合う。	• 現在完了形(継続)について復習する。 • 現在完了形(経験)を用いた文について理解する。 • 自分が行ったことがある場所とその回数について現在完了形を用いて1～3文作り，音読練習する。 • 友達と対話する。 A: I've been to ~ (　　) times. Have you ever been there? B: Yes, I have. I've been there (　　) times. No, I haven't. I've never been there. • 尋ねた結果をワークシートにまとめて書く。 Taro has been to Nagoya three times.	• 現在完了形(経験)の用法について正しく理解しているか，ワークシートで確認する。（知・理）

4	教科書の文を参考にしながら，うれしかったことや悲しかったことなどについて対話する。	• 教科書のPart1の新出単語を理解し，内容を聞いて理解する。（教師から聞き取りの視点を与えて聞かせる。） • リサのうれしかった出来事について，内容を正確に聞き取る。 • Part1を読む。（CD→ペア） • 教科書を参考に，ペアで，本文の単語を置き換えるなどして，うれしかったことや悲しかったことなどについて対話文を考えて言い合う。 • ペアで行った対話文をノートに書く。	• 教科書の文をもとに，単語や表現を置き換えるなどして，うれしかったことや悲しかったことなどについて伝え合っているか，行動観察により確認する。（外国語表現）
5	教師の与える絵はがきやヒントを参考に，富士山を紹介する英文を考え，友達に伝える。	• 教科書のPart2の新出単語を理解し，内容を読んで理解する。（教師から読み取りの視点を与えて聞かせる。） • 太郎から届いた絵はがきの概要を読み取る。 • Part2を読む。（CD→ペア） • 富士山の絵はがきや資料を参考に，本文の単語を置き換えるなどして，富士山を紹介する英文を考えて言い合う。 • 考えた紹介文をノートに書く。	• 教科書の文をもとに，単語や表現を置き換えるなどして，富士山を紹介する文を書いているか，ノートで確認する。（外国語表現）
6	桃子の発表や世界遺産についての説明を読み取り，ふさわしい表現を用いて富士山を紹介する英文を書く。	• 教科書のPart3の新出単語を理解し，内容を読んで理解する。（教師から読み取りの視点を与えて読ませる。） • Part3を読む。（CD→ペア） • 桃子の発表を読み取り，富士山を紹介するのに有効な表現を見つけ、紹介文をノートに書く。 • 教科書P21の世界遺産の説明を読み，富士山の世界遺産登録に向けて考えを持つ。	• 桃子の発表文や世界遺産についての説明を読んで理解し，ふさわしい表現を用いて富士山を紹介する英文を書いているか，ノートで取組状況を確認する。（外国語表現）
7・8	富士山を世界遺産にするために世界遺産としての価値と自分の考えを，文と文のつながりを意識してまとまりのある文章を書く。	• 富士山の自然や文化等の中からセールスポイントを選択し，富士山についての紹介文を，辞書を活用しながら各自で書く。 • 途中，同じものを選択した人同士でグループをつくり，よりよい文になるように，お互いにアドバイスをし合う。 • 富士山についての紹介文を各自で完成させる。	• 富士山について，自分の考えを含めながら，英語で紹介文を書いているか，行動観察により取組状況を確認する。（関・意・態） • 富士山を世界遺産にするため，富士山のすばらしさと自分の考えを，文と文のつながりを意識してまとまりのある文章を書いているか，ワークシートで取組状況を確認する。（外国語表現）
9	友達の作った紹介文を読んで，英語で感想を書く。	• お互いが作成した富士山の紹介文を読みあい，1文以上，質問や英語で感想を書き添える。同じ班→別の班 • 友人から出た質問に対して，返答する英文を書き入れる。	• 紹介文を読んで，英語で自分なりの感想を書いているか，掲示物で確認する。（外国語表現）
10	世界遺産としての価値と自分の考えを，文と文のつながりを意識してまとまりのある文章を書く。	• 地域にある有名な場所や史跡を世界遺産にするための紹介文を書く。必要な情報は，あらかじめヒントとして与える。	• 世界遺産としての価値と自分の考えを，文と文のつながりを意識してまとまりのある文章を書いているか，英文を評価する。（外国語表現）

５　中学校外国語科（英語）：評価規準に盛り込むべき事項

(1) 評価の観点及びその趣旨

外国語科における評価の観点は，以下の４観点となります。このうちの「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」については，技能のみではなく，思考力・判断力・表現力が含まれます。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

(2) 内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項

評価の４観点の中に，それぞれ右図のように２つずつの視点があります。

学習指導要領の内容の言語活動における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を内容のまとまりとし，それぞれの評価規準に盛り込むべき事項とその例を以下に示しました。

【外国語科4観点と4技能(領域)の評価の視点】

	コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力		外国語理解の能力		言語や文化についての知識・理解	
視点／スキル	取組	継続	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語	文化
聞く	●	●	---	---	●	●	●	●
話す	●	●	●	●	---	---	●	●
読む	●	●	●	●	●	●	●	●
書く	●	●	●	●	---	---	●	●

それぞれの評価の観点及び視点の趣旨を正しく理解し，的確に評価をすることが大切です。そのためには，評価の方法についても工夫をしていくことが必要です。

ア　「聞くこと」

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
【言語活動への取組】 「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (例) ● 相づちをうったりメモをとったりするなど，相手の話に関心をもって聞いている。 ● 聞いたことについて簡単な言葉や動作などに反応している。 **【コミュニケーションの継続】** 様々な工夫をして，聞き続けようとしている。 (例) ● 相手に聞き返すなどして，言われたことを確認しながら聞き続けている。		**【正確な聞き取り】** 英語で話されたり読まれたりする内容を正しく聞き取ることができる。 (例) ● 語句や表現，文法事項などの知識を活用して短い英語の内容を正しく聞き取ることができる。 **【適切な聞き取り】** 場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる。 (例) ● 話されている内容から話し手の意向を理解することができる。 ● まとまりのある英語を聞いて，全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	**【言語についての知識】** 発音の違いや音変化に関する知識を身につけている。 (例) ● 発音の違いや音変化に関する知識を身に付けている。 ● 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 **【文化についての理解】** 言語の背景にある文化について理解している。 (例) ● 家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，「聞くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

イ 「話すこと」

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
【言語活動への取組】 「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (例) ● 間違うことを恐れず積極的に自分の考えなどを話している。 ● 聞き手が理解しやすくなるように工夫して話している。 **【コミュニケーションの継続】** 様々な工夫をして，話し続けようとしている。 (例) ● つなぎ言葉を用いるなどして話を続けている。 ● 身振り手振り，知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。	**【正確な発話】** 自分の考えや気持ち，事実などを英語で正しく話すことができる。 (例) ● 語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく話すことができる。 **【適切な発話】** 場面や状況に応じて英語で適切に話すことができる。 (例) ● 場面や状況にふさわしい表現を用いて話すことができる。 ● 与えられたテーマについて，自分の意見や主張をまとまりよく話すことができる。		**【言語についての知識】** 英語やその運用についての知識を身に付けている。 (例) ● 基本的な強勢の違いを理解している。 ● 話を続けるために必要なつなぎ言葉や相づちをうつ表現などを知っている。 **【文化についての理解】** 言語の背景にある文化について理解している。 (例) ● 家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，「話すこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

ウ 「読むこと」

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
【言語活動への取組】 「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (例) ● 読んだことについて，メモをとったり簡単な言葉や動作などで反応したりしている。 ● 辞書を活用して読んでいる。 **【コミュニケーションの継続】** 様々な工夫をして，読み続けようとしている。 (例) ● 繰り返して読んだり，読み返したりして読み続けている。	**【正確な音読】** 英語を正しく音読することができる。 (例) ● 正しい強勢，イントネーション，区切りなどを用いて音読することができる。 **【適切な音読】** 英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読することができる。 (例) ● 意味内容にふさわしく音読することができる。 ● 適切な声量や明瞭さで音読することができる。	**【正確な読み取り】** 英語で書かれた内容を正しく読み取ることができる。 (例) ● 語句や表現，文法事項などの知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。 **【適切な読み取り】** 目的に応じて英語を適切に読んで理解することができる。 (例) ● あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。 ● 書かれた内容から書き手の意向を読み取ることができる。 ● 伝言や手紙などを読んで，その内容に合わせて適切に応じることができる。	**【言語についての知識】** 英語やその運用についての知識を身に付けている。 (例) ● 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを理解している。 ● 語句や文，文法などに関する知識を身に付けている。 **【文化についての理解】** 言語の背景にある文化について理解している。 (例) ● 家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，「読むこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

エ 「書くこと」

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
【言語活動への取組】 「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (例) ● 読み手が理解しやすくなるように書いたり，書き直したりしている。 **【コミュニケーションの継続】** 様々な工夫をして，書き続けようとしている。 (例) ● うまく書けないところがあっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。	**【正確な筆記】** 自分の考えや気持ちなどを英語で正しく書くことができる。 (例) ● 語句や表現，文法事項などの知識を活用して正しく書くことができる。 **【適切な筆記】** 目的に応じて英語で適切に書くことができる。 (例) ● 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。 ● 内容的にまとまりのある文章を書くことができる。		**【言語についての知識】** 英語やその運用についての知識を身に付けている。 (例) ● 文構造や語法，文法などに関する知識を身に付けている。 ● 正しい語順や語法を用いて文を構成する知識を身に付けている。 **【文化についての理解】** 言語の背景にある文化について理解している。 (例) ● 家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣など，「書くこと」の言語活動に必要な文化的背景について理解している。

６　授業づくり規準（外国語科）

P(構想)

力 要素	学習指導力 （授業における姿勢や指導方法等各教科等共通の授業づくりの力）	教科指導力 （外国語科の内容にかかわる，外国語科固有の授業づくりの力）
学習者の 実態把握	•学習者の発達の段階を踏まえた上で，生活体験や学習経験は学習者によって異なることを意識している。 •学習の方法や理解の仕方は学習者によって異なることを意識している。 •学習者の性格や学習に対する意欲等を把握している。 •学習集団の特質や，個と集団のかかわりを把握している。 •個々の学習者に対して，指導上配慮すべき事項を把握している。	•学習者の外国語によるコミュニケーション能力を把握している。 •学習集団のコミュニケーション能力を把握している。
教科内容に 関する 知識・技能		•外国語科の目標が，外国語によるコミュニケーション能力の育成・伸長であることを理解している。 •外国語によるコミュニケーション能力の育成・伸長のプロセスを理解している。 •外国語によるコミュニケーション能力の育成・伸長に必要な指導方法を理解している。 •コミュニケーション能力の育成・伸長に有効な学習集団の活用方法を理解している。
目標の設定	•学習は，学習者自身の主体的・探究的な活動によって成立することを理解している。 •学校の教育目標や課題を踏まえ，育てたい力をとらえている。 •学習を通して学習者の自信を深め，自己肯定感を高めるという意識を持っている。	•外国語によるコミュニケーション能力について，学習者が修得すべきレベルを把握している。 •学習者の外国語によるコミュニケーション能力修得につながる適切な目標を設定している。
単元計画 (授業計画)	**（学習指導案の作成）** •学習指導案の重要性や，目標，内容，方法等の指導案の形式の意図を理解し，指導計画を表現している。 **（評価計画）** •具体的な到達目標とそのための適切な評価方法を選択・計画している。 •自己評価，他者評価等，学習者が学習を改善するための手だてを考えている。	**（単元計画の作成）** •単元のつながり，教材の特質，学習者の実態を踏まえた単元目標を設定している。 **（評価計画）** •単元目標に対して， ① 学習者が自身の達成状況を確認できる場面を設定している。 ② 指導者が学習者の達成状況を確認する場面を設定している。
授業の構成	**（学習方法・形態の選択・組織）** •目標を達成するために，学習者の実態を踏まえた適切な学習方法や学習形態を考えている。 •新たな知識・技能・学び方等を発見したり，習得したりする喜びを実感できる授業を行うために，学習方法を改良・開発している。 •主体的な探究活動や問題解決を考慮して，授業を組み立てている。 •学習者が学習内容や学習の過程を振り返るための手だてを考えている。	**（学習内容の構成）** •単元構想，題材，学習者の実態を踏まえた授業目標を設定している。 •設定した授業目標の達成を目指し，外国語によるコミュニケーション活動を核として授業を構成している。 **（教材・題材の選択・構成・開発）** •授業目標と整合性があり，学習者が達成感を得ることができるコミュニケーション活動を設定している。 **（板書等の計画）** •外国語によるコミュニケーション活動の活性化のために，板書の活用を計画している。 •コミュニケーション活動の成果を共有する手段として，板書の活用を計画している。

D(展開)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (外国語科の内容にかかわる，外国語科固有の授業づくりの力)
学習環境づくり	•学習環境が，学習者の安全や認知にどのような効果を与えるかを意識している。	•外国語によるコミュニケーション活動が活発に行われるよう学習環境を整えている。
学習への構えや学び方の指導	•学習者がどのような姿勢で学習に臨めばよいかを明確に示し，学習者に意識させている。 •学習過程や自分の考えをまとめていけるようなノートづくりを指導している。	•学習者の外国語によるコミュニケーション能力を高めるために， ① 積極的な聞き手・読み手となるよう指導している。 ② 積極的な話し手・書き手となるよう指導している。 •学習者が外国語によるコミュニケーション活動を通し，お互いが共に成長することの大切さを意識するよう指導している。
個や集団への配慮	•個への対応に具体的な配慮をしている。 •集団における学習の大切さや，個の発言の集団への影響を意識している。	•コミュニケーション活動を通して，すべての学習者が成長できるよう配慮している。
音声 表情 所作等	•話し方や表情・所作と学習者の反応との関連を意識している。 •場面や目的，環境等に応じて，声の大きさ，話の速さ・緩急・強弱等の話し方や表情を工夫している。	•指導者自身が，外国語によるコミュニケーションを積極的に行おうとしている。
指導技術	**(言葉遣い)** •学習者の発達の段階に応じた適切な言葉遣いをしている。 **(説明)** •わかりやすい言葉で，端的に説明している。 **(指示)** •目的を意識させながら，どんな行動をすべきかを明確に示している。 **(発問)** •学習者が何を問われているか理解できる発問をしている。 **(板書)** •見やすさを考慮し，視覚的に構造化するなど，工夫しながら丁寧に板書している。 •学習者の様子を観察しながら，板書している。 **(演技・表現)** •学習場面や教材の特性に応じて，適切だと考える演技をしている。 •待つ時間や「授業のやまば」等を意識して授業を展開している。	**(言語)** •学習者が外国語に触れる機会を充実させるために，授業では外国語の使用量を増やし，必要に応じて，より平易な表現に言い換えている。 **(説明)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため， ①学習者にとってわかりやすい説明を心掛けている。 ②説明は必要最小限にとどめている。 **(指示)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため， ① 学習者にとってわかりやすい指示を心掛けている。 ② 指示は必要最小限にとどめている。 **(発問)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため，学習者の思考・判断を引き出す発問をしている。 **(板書)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため，板書を活用している。 **(演示)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため，学習者に手本を示している。 **(教材・教具の活用，資料提示)** •学習者の主体的で充実したコミュニケーション活動を促すため，視聴覚教材を活用している。
学習活動における即時的対応	•学習者の発言や行動を適切に受け止め，達成感，満足感を感じさせている。 •学習内容に適した評価法を用意し，実施している。	•外国語によるコミュニケーション活動を通して， ① 学習者が達成感を得ることができるように，適切に対応している。 ②活動から学習者がお互いの成長を実感することができるように，適切に対応している。

C・A(評価・改善)

力 要素	学習指導力 (授業における姿勢や指導方法等各教科等共通の授業づくりの力)	教科指導力 (外国語科の内容にかかわる，外国語科固有の授業づくりの力)
授業の振り返りと分析	•「指導と評価の一体化」を意識している。 •授業によって，学習者がいかに変容したかについて，絶えず関心を持っている。	•学習者の姿・様子から，設定した目標の達成度を検証している。
改善に向けた手だて	•学習指導の方法の効果について，意識的・具体的にとらえ，指導方法の改善に結び付けようとしている。	•検証結果をもとに，P(構想)とD(展開)を振り返り，よりよい授業づくりに生かしている。

「生きる力」以上を目指して
－外国語教育における学習指導要領と静岡県の目指す方向性の連携－

平成23年３月策定の静岡県教育振興基本計画「『有徳の人』づくりアクションプラン」により，「『有徳の人』の育成」がこれからの静岡県の教育目標として掲げられました。同プランでは，「有徳の人」を以下のように定義しています。

①　自らの資質・能力を伸長し，個人として自立した人
②　多様な生き方や価値観を認め，人との関わり合いを大切にする人
③　社会の一員として，よりよい社会づくりに参画し，行動する人

本授業づくり指針（外国語科）の特色の第１は，この「有徳の人」づくりの内容が反映されている点にある，と考えています。このことは，「第３章小学校外国語活動」及び「第４章中学校外国語科」冒頭の，「育てたい子どもの姿」と「目指す授業」をお読みいただければ，御理解いただけるのではないでしょうか。

小学校外国語活動においては，「人と関わることを魅力的だと感じる子ども」の育成を目標としました。「言語や文化を体験的に理解しながら，成功体験を積み重ねることで，コミュニケーションの楽しさを実感する授業」を目指すべきだと考えます。

中学校外国語科（英語）では，小学校外国語活動で培った「人と関わることの魅力」という土台の上に，英語をコミュニケーションの手段として運用できる力と，生涯にわたって英語と向き合っていこうとする気持ちを育てることが重要であると考えました。授業が満たすべき条件として，コミュニケーションの楽しさが実感できることに加え，４技能が総合的に育成されること，授業を通して子どもが自律した学習者へと育っていくことを目標とすることも大事だと考えています。

本指針の第２の特色として，継続して育てていきたい児童生徒の「力」と，段階的に発展させていきたい児童生徒の「力」を明確にしたことが挙げられます。これは，義務教育終了段階までに，必要な英語力をきちんと習得させ，しかも豊かな人間性も育んでおくためには，小学校と中学校の緊密な連携が不可欠であるとの認識に基づいたものです。

継続して育てていきたい児童生徒の「力」として，「コミュニケーションに対する積極的な態度」「協調性・寛容性」「生涯学習に取り組む姿勢」の３点を挙げました。

一方，段階的に発展させていきたい「力」については，「４技能の総合的運用能力」「外国語での発信力」「言語使用の正確さ・適切さ」を取り上げています。

学習指導要領は，グローバル化の進展に伴い急速に変化していく現代社会で暮らしていかなければならない子どもたちに，「生きる力」を習得させることを求めています。しかし静岡県は，それ以上のものを目指しました。

本指針が，自分の知識や技能を「誰か」「何か」のために役立てようとする人物，すなわち「有徳の人」を，外国語教育を通じて育てる上での一助となることを確信しています。是非，御活用ください。

国立大学法人静岡大学　教育学部　教授　白畑　知彦

「静岡県の授業づくり指針」作成委員会名簿（外国語部会）

教科部会長名簿

部会等		21	22	23	氏名	所属	職名
国語		○	○	○	江口　尚純	静岡大学教育学部	教授
社会		○	○	○	塩川　亮	静岡大学教育学部	教授
算数/数学		○	○	○	國宗　進	静岡大学教育学部	教授
理科		○	○	○	丹沢　哲郎	静岡大学教育学部	教授
外国語		○	○	○	白畑　知彦	静岡大学教育学部	教授
音楽		○	○	○	北山　敦康	静岡大学教育学部	教授
図画工作/美術		○	○	○	登坂　秀雄	静岡大学教育学部	教授
体育/保健体育		○	○	○	伊藤　宏	静岡大学教育学部	教授
家庭/技術・家庭	技術	○			須見　尚文	静岡大学教育学部	教授
			○		紅林　秀治	静岡大学教育学部	教授
				○	江口　啓	静岡大学教育学部	准教授
	家庭	○	○	○	新井　映子	静岡県立大学食品栄養科学部	教授

作成委員会外国語部会名簿

部会等	21	22	23	氏名	所属	職名
外国語	○	○	○	白畑　知彦	静岡大学教育学部	教授
	○			中村　禎	藤枝市立瀬戸谷中学校	校長
	○			鈴木いづみ	磐田市立磐田北小学校	教諭
	○			杉本さとみ	藤枝市立高洲中学校	教諭
	○			河西　伸之	浜松西高等学校中等部	教諭
	○	○	○	高柳もと子	浜松市教育委員会	指導主事
	○	○	○	南　雅司	静岡市教育センター	指導主事
	○	○		小畑二美雄	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	佐藤　一朗	県総合教育センター	指導主事
			○	殿柿　弘行	県総合教育センター	指導主事
	○			神田不二彦	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	山梨　祥子	県総合教育センター	指導主事
		○	○	野村　賢一	県総合教育センター	指導主事
	○	○	○	檜木小重美	県総合教育センター	指導主事
	○			石川　芳恵	県総合教育センター	指導主事
		○	○	田渕　江美	県総合教育センター	指導主事

事務局名簿

部会等	21	22	23	氏名	所属	職名
委員長	○	○		谷野　純夫	県総合教育センター	参事兼課長
委員長			○	杉山　洋一	県総合教育センター	参事兼課長
委員	○			山田　英子	県教育委員会教育政策課	指導主事
委員	○			山内真理子	県教育委員会学校教育課	主任指導主事
委員		○	○	渡邉　哲也	県教育委員会教育政策課	指導主事
委員		○	○	八木　邦明	県教育委員会学校教育課	指導主事
政令市委員	○	○		髙塚　陽子	浜松市教育委員会学校教育部指導課	指導主事
政令市委員	○	○		松永　浩久	静岡市教育委員会教育部学校教育課	指導主事
事務局長	○			勝田　敏勝	県総合教育センター	班長兼主任指導主事
事務局長		○	○	眞木　万平	県総合教育センター	班長兼主任指導主事

所属・職名は、原則として担当当時のものである。

静岡県の授業づくり指針

外国語科/外国語活動

（小学校・中学校）

平成 24 年３月発行

編　　集　「静岡県の授業づくり指針」作成委員会

発　　行　静岡県教育委員会

所　在　地　〒420-8601　静岡市葵区追手町９番６号

問い合わせ先　静岡県教育委員会　学校教育課　小中学校班
電　話　番　号　054-221-3140
ファクシミリ番号　054-221-3558
静岡県総合教育センター　授業づくり支援課
電　話　番　号　0537-24-9760
ファクシミリ番号　0537-24-9732